

モンゴル国
モンゴル日本人材開発センター（フェーズ2）
プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成21年10月
（2009年）

独立行政法人国際協力機構
公共政策部

公共
JR
09-036

モンゴル国
モンゴル日本人材開発センター（フェーズ2）
プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成21年10月
(2009年)

独立行政法人国際協力機構
公共政策部

序 文

日本国政府は、モンゴル国政府の要請に基づき、同国において「モンゴル日本人材開発センター」プロジェクトを実施することを決定し、独立行政法人国際協力機構が独立行政法人国際交流基金の協力を得て、2002年1月22日から2007年1月21日まで、「モンゴル日本人材開発センター」（フェーズ1）プロジェクトを実施しました。

モンゴル国政府は、フェーズ1の協力の成果を高く評価し、モンゴル日本人材開発センターの取り組みを継続したいとして、2007年1月22日から5年間の技術協力プロジェクト「モンゴル日本人材開発センター（フェーズ2）」の実施を日本国政府に要請しました。モンゴル国政府と日本側との協議の結果、2007年1月より5年間の計画でフェーズ2を実施することが合意され、現在、フェーズ2として技術協力プロジェクトが実施されています。

今般、プロジェクト開始から2年半が経過したため、2009年8月12日から9月11日の日程で中間評価調査団を現地に派遣し、プロジェクトの中間評価を実施しました。

本報告書は、同調査団の調査・協議結果を取りまとめたものであり、プロジェクト実施の基礎資料とするだけでなく、類似プロジェクトの検討に活用されることを願うものです。

ここに、本調査にご協力をいただいた内外関係者の方々に深い謝意を表するとともに、一層のご支援をお願いする次第です。

平成21年10月

独立行政法人国際協力機構
公共政策部長 中川 寛章

目 次

序 文

略語一覧

評価調査結果要約表

写 真

第1章 中間レビュー調査の概要	1
1 - 1 調査の経緯と目的	1
1 - 2 調査団の構成	2
1 - 3 調査日程	2
1 - 4 主要面談者	4
1 - 5 評価の方法	5
第2章 プロジェクトの実績	7
2 - 1 投入実績	7
2 - 2 活動の実績	8
2 - 3 成果の達成度	8
2 - 4 プロジェクト目標の達成状況	11
2 - 5 上位目標達成の見込み	13
第3章 評価結果	18
3 - 1 評価5項目ごとの評価	18
3 - 1 - 1 妥当性	18
3 - 1 - 2 有効性	19
3 - 1 - 3 効率性	19
3 - 1 - 4 インパクト	21
3 - 1 - 5 自立発展性	21
3 - 2 結 論	23
第4章 提言と教訓	24
4 - 1 提 言	24
4 - 2 教 訓	25
付属資料	
1 . M/M	29
2 . PDM0	75
3 . 評価グリッド	77

4 . 投入実績	81
4 - 1 . 専門家派遣実績	81
4 - 2 . 現地スタッフ雇用実績	82
4 - 3 . 本邦研修実績	83
4 - 4 . 機材リスト	84
5 . 活動実績	85
5 - 1 . ビジネスコースの実績 1 (ビジネス)	85
5 - 2 . ビジネスコースの実績 2 (IT/PC)	88
5 - 3 . 日本語コースの実績	89
5 - 4 . 相互理解促進事業実績	92
6 . 成果の達成度	93
7 . MOJC組織図	97

略 語 一 覧

C/P	Counterpart	カウンターパート
EBRD-BAS	European Bank for Reconstruction and Development-Business Advisory Service	ヨーロッパ復興開発銀行 ビジネスアドバイザーサービスプログラム
M/M	Minutes of Meetings	協議議事録
MOJC	Mongol Japan Center	モンゴル日本人材開発センター
NUM	National University of Mongolia	モンゴル国立総合大学
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operation	活動計画
R/D	Record of Discussion	討議議事録

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国 名：モンゴル国	案件名：モンゴル日本人材開発センタープロジェクト フェーズ2
分 野：民間セクター支援	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：	協力金額（案件開始～2008年度末）：総投入額 約2.16億円
協力期間	（R/D）：2007年1月～ 2012年1月
	（延長）：
	（F/U）：
	先方関係機関：教育・文化・科学省、モンゴル国立総合大学 日本側協力機関：独立行政法人国際交流基金 他の関連協力：
<p>1 - 1 協力の背景と概要</p> <p>我が国は、モンゴル国（以下、「モ」国と記す）の市場経済化を支援するため、これまで経済政策や産業政策、税制改革、中小企業支援など、主として政策面・マクロ面での協力を進めてきた。他方、「モ」国では経済体制の移行の流れの中で、近年では実体経済を支える民間の人材や、制度面からこれらを支える行政官等実務者の育成が急務となっている。</p> <p>かかる背景の下、2002年1月から5年間の協力期間にて、モンゴル国立総合大学（NUM）をカウンターパート（C/P）として効率的・効果的な人材育成ニーズへの対応と日本の「顔の見える協力」を実現する拠点としてモンゴル日本人材開発センター（MOJC）プロジェクトを開始し、2002年6月の建物の完成とともに正式な開所に至った。以降、「学習支援の拠点」「相互交流の拠点」「ネットワークの拠点」をコンセプトとして、ビジネス人材育成事業、日本語教育事業、相互理解促進事業を三本柱として活動を実施した。</p> <p>ビジネスコースでは、主として日本的経営等の実践的な技術やノウハウを提供するコースを実施し、日本語コースでは「映画で学ぶ日本語」や「IT日本語」「ラジオ日本語」等の多彩な講義を提供した。さらに、定期映画会や日本の社会・文化を紹介する催しの開催や、豊富な日本語の書籍・雑誌を所蔵する図書室を有するなどにより、MOJCは「モ」国において日本の様々な経験や文化を学べる場として認知されるようになった。</p> <p>このような状況の中、「モ」国政府よりフェーズ2実施の要請書が提出され、2007年1月22日からさらに5年間の協力期間とした「モンゴル日本人材開発センタープロジェクトフェーズ2」が実施されている。</p> <p>1 - 2 協力内容</p> <p>本プロジェクトの概要は以下のとおり。</p> <p>（1）上位目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1）「モ」国の市場経済化に資する人材開発が促進される。 2）「モ」国および日本両国の相互理解が促進される。 <p>（2）プロジェクト目標</p> <p>「『モ』国における市場経済化に対応する人材育成」および「『モ』国・日本の相互理解促進」を行う拠点としてのMOJCの機能が強化される。</p>	

(3) 成果

目標達成のため設定されている成果は、以下の4点である。

- 1) 運営体制およびモニタリングシステムの強化により、MOJCが効果的、効率的に運営される。
- 2) 中小企業のニーズに即した実践的な知識とスキルを提供するビジネスコースが行われるとともに、コースにおける現地講師の割合が増加する。
- 3) 日本語教師のニーズに合致し、また市場のビジネス機会の拡大に向けた日本語コースが開催される。
- 4) 相互理解促進事業に関し、様々な分野（経済、社会、文化など）における「モ」国と日本の情報が双方向に発信される機能が強化される。

(4) 投入（評価時点）

- 1) 日本側：総投入額 約2.16億円（～2008年度末実績）
 - 長期専門家派遣 延べ6名
 - 短期専門家派遣 延べ26名
 - 機材供与 US\$ 138,000（14,050千円相当）
 - ローカルコスト負担 US\$ 47,108（61,145千円相当）
 - 研修員受入れ 18名
- 2) 相手国側：
 - C/P配置 1名
 - ローカルコスト負担 光熱費、水道料金、暖房費、電気費、掃除担当者など

2. 評価調査団の概要

調査者	団長・総括：伏見 勝利	JICA公共政策部日本センター課 課長
	日本語コース評価分析：中込 達哉	国際交流基金関西国際センター 専門員
	日本語コース評価企画：高橋 沙知	国際交流基金さくらネットワークチーム 職員
	調査企画：佐藤 里衣	JICA公共政策部日本センター課 職員
	評価分析：本間 まり子	インテムコンサルティング(株)社会開発部 コンサルタント
調査期間	2009年8月12日～9月11日	評価種類：中間レビュー

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) 活動実績

活動は、PDMに基づいて、計画通り実施されている。

(2) 成果の達成状況

成果は、PDMに基づいて、計画通り産出されている。

(3) プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標を達成するための成果はおおむね計画通り発現しており、プロジェクト目標は計画通り達成されると見込まれる。一方、自立発展性確保のために、残りのプロジェクト期間において財政的自立のための収益性の強化およびオーナーシップの醸成ためのNUMとの連携の強化の取り組みが必要である。

MOJCの来館者数は、フェーズ1から延べ100万人を超え、ウランバートルの人口と同じ

人数が来館しており、広く市民に根づいた活動を実施している。来館者数は、ほぼ毎年増加しており、認知度は向上している。また、各コースの参加者数も一部を除き定員を確保しており、参加者の満足度も高く、新規コースの開催の期待の声も多い。さらに、図書館や新聞やテレビを設置したロビーの認知度や利用率は高く、NUMをはじめとした多くの学生や社会人に利用されている。さらに、第二の産業都市であるエルデネット市において、地方セミナーを年に一度開催しており、地方でのニーズにも応えている。日本語コースでは、テレビ日本語講座の提供により、地方在住者などの広範囲な人々にサービスを提供している。

現地スタッフによる運営や現地講師化の養成によって、MOJCの現地化は促進されつつある。マネージャー制度が整備され、2名の統括主任と各課への主任が配置され、各コースの運営はほぼ現地スタッフで担われる体制が整いつつある。相互理解促進事業やIT/PCコースは100%現地スタッフと現地講師により実施されている。日本語コースに関しても、講義全体の86.7%が7名の現地講師によって実施されている。一方、ビジネスコースは9名の現地講師の候補者が選定されたところであり、部分的に日本人講師との共同講義が始まっている。今後、その割合は増加していく見込みである。一方、C/P機関であるNUMの関与は限定的であり、副所長1名が配置されているのみで、R/Dに記載されているプログラム・アドバイザーは未配置である。副所長は毎週ミーティングに参加するなど、高いコミットメントを示しているものの、今後オーナーシップの醸成のために更なるNUMとの連携の強化が必要である。

財政的自立の度合いとしては、2008年度実績で支出額全体と比べた収入額の割合は18.92%である。MOJCの収益は増加しつつあるものの、支出に対する収入の割合はここ数年横ばいにある。収益向上のために、2009年度にはコースの受講料やMOJC施設の利用料が増額された。収益向上のための更なる取り組みの必要性はスタッフに共有されており、具体的な改善が計画されている。

関係機関とのネットワークは強化されつつある。ビジネスコースでは、JICA（旧JBIC）のツーステップローンとの連携として、対象者にビジネスプラン作成支援セミナーを開催してきた。さらに、他の開発機関との連携として、UNDPの一村一品プロジェクトの対象者への専門家による5S講義やJETROの派遣による講師によるセミナーが開催された。日本語コースでは、現地日本大使館、ウランバートル市教育局、ナショナル教育テレビ、ナショナルラジオテレビ局等と連携したセミナーの開催等の活動を実施している。また、大使館・JASSOの主催、モンゴル帰国留学生会の協力により日本留学説明会が毎年開催されている。しかし、更なる連携の強化が必要である。

3 - 2 評価結果の要約

(1) 妥当性

プロジェクトは以下の理由により妥当であると判断される。

- ・民主化・市場経済化を選択した「モ」国経済の底上げには、民間セクターの開発が不可欠であり、民間企業の経営者・従業員などを主なターゲットとして実践的なビジネスコースを開催することは、同国の経済成長およびマクロ経済の安定化に直接的に貢献するものである。
- ・民主化・市場経済化を選択した1990年以降、「モ」国と日本両国の関係が発展し、日本語の学習者数、教師数が増加しており、日本語コースの需要とニーズが高まっている。
- ・「モ」国政府は、政府行動計画を実施するための「経済成長と貧困削減」を2003年に策定

し、その中でマクロ経済の安定と民間セクターの振興は経済成長と貧困削減の重要課題となっており、プロジェクト目標と合致している。

- ・我が国の「モ」国別援助計画において、マクロ経済の健全な運営のための制度整備および人材育成を公的、民間の両セクターにおいて支援することが重点分野として挙げられており、プロジェクトの目的と合致している。
- ・ビジネスコースの中心となっている講座は、日本が高度なレベルを保持する比較優位のある分野である。また、日本語教師の育成に関して、日本が得意とする実習を中心とした講義を提供しており、支援の優位性は高い。

(2) 有効性

以下の理由により、プロジェクトの有効性は高いと判断される。

- ・「モ」国政府は、市場経済化および中小企業支援政策を維持している。また、他の関係省庁や大学は、合同調整委員会(JCC)への参加を通じてMOJC運営に協力している。今後、新規に設立された中小企業庁との連携も検討されている。
- ・プロジェクト目標の達成には、現地スタッフの熱心な業務の従事や能力向上が貢献要因となっている。さらに、MOJCの実施する事業へのニーズの高さやMOJCの立地、MOJCの位置づけといったプロジェクトの枠組みの設定の適切さが貢献要因と考えられている。コース内容に関しても、利用者からの信頼を獲得している。
- ・プロジェクト以外では、親日的感情や日本の技術力への信頼が、MOJCの事業の円滑な実施に貢献している。
- ・現地スタッフの定着率は、部署によっては低く、事業運営に影響を与えている。しかし、プロジェクトでは頻繁な交代に対応して、全部署で運営マニュアルを作成している。他方、一度留学のために退職した2名が日本への留学修了後、統括主任として復職している。
- ・C/P(NUM)の関与は限定的であり、プロジェクト目標達成に向けて更なる関係性の強化が必要である。
- ・MOJCのスペースには限りがあり、多目的ホールやセミナールームが足りないことで、現地化に向けた収益の向上や事業の拡大が阻害されている。

(3) 効率性

以下の理由により、プロジェクトはほぼ効率的であると判断される。

- ・ unnecessaryな活動は見当たらない。一方、ビジネスコースではこれまで排出してきた多くの修了生から、フォローアップ支援の必要性が挙げられている。日系企業とのビジネスマッチングを促進するようなサービスの必要性もみられる。日本語コースでは初級コースへのニーズは高く、収益も見込まれているが他の日本語教育機関への影響を考慮して実施されていない。
- ・投入の質や量のタイミングでは、日本語コース運営専門家は国際交流基金から派遣されてきており、その効率性と専門性が維持されている。ビジネスコースはコース運営専門家が短期で断続的に派遣されており、長期的なコース運営のアドバイスに限界がある。
- ・供与機材については計画通り投入されており、その内容や維持管理に特に問題はみられない。
- ・MOJCのスタッフはフェーズ1から延べ31名が雇用され、うち19名が現在も勤務中であり、配置に問題はない。事業実施能力は向上しているが、離職率に影響を受けている。一方、

MOJCに愛着や誇りをもって勤務しているものも多い。

- ・本邦研修は、C/P、現地スタッフ、ビジネスコースの成績優秀者が派遣され、MOJCの自律的運営の促進と、ビジネスコースの効果の向上に貢献している。
- ・MOJCは、非常に良い立地条件に恵まれており、様々な事業を実施する機能を有している。しかし、スペースが十分ではなく、MOJCの事業拡大を難しいものになっている。
- ・NUM自身が基本的に学生の授業料で運営されていることから、副所長としてのC/Pの配置と光熱費などMOJCの全支出8%が投入されているのみである。

(4) インパクト

これまでのプロジェクト活動を通じて、以下のような波及効果が生じている。

- ・MOJCの事業への参加や図書室などの施設の利用を通じて、日本への関心の育成や親日的感情の醸成を推進している。コース内容に関しても、口コミでの新規受講者も多く、利用者からの信頼を獲得している。
- ・ビジネスコースの修了生の多くが、「モ」国の経済界の中心的な役割を果たす企業で活躍している。
- ・受講生の半数以上が女性であり、女性のビジネスへの参入を通じた経済的エンパワーメントを促進している。
- ・さらに、ビジネスコースでは第二期の修了生が中心となり、ビジネスコースで習得した内容の自社内での活用と非参加者への紹介を行うための組織である「カイゼン協会」を設立している。カイゼン協会は、コースの地方セミナー実施の支援やJICAとのコストシェアリングによるメンバーの本邦研修の実施といったフォローアップについて、ビジネスコースとの連携や支援を行っている。
- ・カイゼン協会員以外の修了生たちも、社員へコースで習得した技術の紹介や類似のコースへの社員への参加促進を通じて、MOJCで得た技術の普及に貢献している。
- ・日本語コースでは、日本語教育シンポジウム、毎月1回の日本語教育研究会例会、日本語教師会との共催でのスピーチコンテストの実施などを通じて、モンゴル日本語教育支援・推進・連携拠点としての役割を果たしている。
- ・近隣の学生たちは、日本語コースへの参加や図書室の利用などを通じて、MOJCからの便益を受けている。
- ・負の影響は特にみられない。

(5) 自立発展性

自立発展性について、以下のような取り組みや課題がみられた。

- ・MOJCはNUMの独立した付属機関であると、学長令による「定款」に定められている。
- ・政策・制度面に関しては、「モ」国側の関係者からはMOJCの機能の有効性が確認されている。特に、C/PであるNUMの学長やMOJC副所長は、その機能と有効性を評価しており、将来的にNUMからMOJC所長を配置する考えも有している。
- ・スタッフの配置に関しては、現在配置されているスタッフが将来的にも継続して勤務する場合、その能力や配置場所に問題はない。しかし、プロジェクト終了後「モ」国側の予算によるスタッフの配置は困難である。
- ・現地講師については、日本語コースについてはほぼ現地化が達成されつつある。一方、ビジネスコースに関しては候補者が選定され、実務を通じた養成が始まったところである。

- ・MOJCの自己収入額は増加してきているものの、財務的自立に向けて、更なる自己収入源の発掘が必要である。
- ・日本の関係機関との連携は促進されているが、自己収入額の増加を促進するために受託事業の増加とそのための現地スタッフの能力向上が必要である。また、更なる連携の強化が必要である。

3 - 3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

- ・MOJCの立地
- ・MOJCの実施する事業へのニーズの高さやMOJCの位置づけといったプロジェクトの枠組みの設定の適切さ

(2) 実施プロセスに関すること

- ・現地スタッフの熱心な業務の従事や能力の向上。スタッフのMOJCへの愛着や業務へのコミットメント
- ・マネージャー制度の導入等のマネジメント体制の改善と積極的な現地化の促進

3 - 4 問題点および問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

- ・ビジネスコースの運営専門家の断続的な配置（長期での配置による継続的な支援の必要性）

(2) 実施プロセスに関すること

- ・NUMの関与の弱さ
- ・ポストフェーズ2が未確定であることの関係者の不安
- ・MOJCのスペースの限界

3 - 5 結 論

MOJCは、2009年の7月に、開所以来の来館者数がウランバートル市民数に匹敵する100万人を突破するなど、広く「モ」国民に根付いた活動を行っている。スタッフのほぼ全員が日本語を理解し、来館者への対応マナーも良く、ビジネスや日本語コースの質も高いことから、「モ」国にいながら日本を体験できる貴重な場所となっている。上述のとおり、成果も計画通り発現してきており、プロジェクト目標が達成される見込みは高い。

しかし、将来的な自立発展に向け、NUMとの関係強化と財務的自立が課題として挙げられる。具体的には、以下の提言に挙げる取り組み〔特に、(1)(2)(3)〕が必要である。

3 - 6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

今後、プロジェクトの自立発展性を確保するために、以下の取り組みが提案される。

(1) NUMとの人的交流・連携活動の拡大

- 1) MOJCがNUMにとってメリットのある活動を行うことを通じ、関係性の強化を図る。
例えば、日本の大学との間の学術交流や学生間交流の斡旋、学生向け就職フェア、日本留学フェア等の取り組みが挙げられる。

- 2) MOJICは「モ」国側と日本側の共同経営により運営される機関であるため、運営管理、財政基盤の強化、事業内容等の経営全般について両方で協議しながら進める。
- 3) 将来的にNUMから所長が配置されることが望ましいので、それに向けまずは早期に共同所長体制に移行するため役割・責任について明確にする。
- 4) R/Dに記載されているプログラム・アドバイザーの配置が実現されていないため、実現のための方策を大学との間で協議する。

(2) 財政基盤の強化のための取り組み

共同経営者として、「モ」国側の負担を求めていくものの、NUMは各学部も独立採算で運営されており、大学からのMOJICに対する予算措置を期待することは現時点で困難であるという現状も踏まえ、独立採算により自立的に運営できる体制に向けて更なる努力の必要がある。具体的には以下のとおり。

- 1) 受講料・施設使用料は、2009年度当初に見直しを行っているものの、受講生からは内容の質の高さから、より高くても受講の価値があるとの意見もあった。上記の独立採算で運営する体制を念頭に更なる見直しを行う。
- 2) 収益性を考慮したコースの見直しを行う。
- 3) 既に取り組みを開始している受託事業について体制を整備し拡充する。同時に、既存の共催事業で、過度の負担となっている事業については効率性と収益性の観点から負担の軽減のための整理、方法の見直しを行う。

(3) 活動スペースの確保

活動スペースの不足が各関係者から指摘されており、既存の施設の増築や別施設の建設のアイデアが挙げられてきたが、技術的問題があったり、時間がかかったりするために少なくともフェーズ2中には確保することが困難である。遅い午後以降の時間帯は、これ以上活動を拡大できないのは事実であるが、まずは午前中の空いている時間を活用するなどの工夫を行う必要がある。

(4) モニタリング体制の改善

各コースの実施後に、受講者へのアンケート調査が実施されている一方で、アンケート結果の集約や十分な活用を行うシステムが不十分である部分があるため、よりニーズに即した効果的な事業実施に向けてモニタリングシステムの改善が求められる。また、ターゲット層のニーズ調査に基づくコースの企画や修了生のフォローアップ調査によりコースの成果を把握し、次の計画にフィードバックする体制を強化する必要がある。

(5) ビジネスコース内容の見直し

ビジネスコースのコース設計について2008年度から一部変更している（具体的には、特別コース、専門コースの設置）が、その結果のレビューを行い、必要に応じて見直しを行う。見直しの結果を2010年度のコース計画に反映するため、2009年12月までにコース内容を確定する。

また、あわせて現在開始している日本人講師との共同講義を通じた通常コースにおける現地講師育成の取り組みを一層促進し、各科目において現地講師で実施可能な講義のコマの割合を増加させる。さらに、特別コース等について現地講師を積極的に活用する。

(6) 日本語コース現地講師の育成

日本語コースは、既にモンゴル人常勤スタッフ（講師を兼ねる）による運営が行われているが、MOJCがモンゴル日本語教育界の核として機能していくために、更なる育成をめざし、以下を実施する。

- 1) それぞれの能力強化をめざし、現地スタッフの勤務時間に占める担当授業数を増やす。
- 2) 関係者とのネットワークの強化および専門性の強化をめざし、現地スタッフのモンゴル日本語教師会の研究部会への参加を推奨する。

3 - 7 教 訓

- (1) 事業の方向性について、C/P機関、プロジェクト、JICA本部との間で共通認識を形成する時期が遅れた。これは本部からの調査団派遣が長期にわたり行われていなかったこともあり、対話が不足していたことにも原因がある。
- (2) ビジネスコース運営管理専門家の派遣期間が十分でなかったため、コース全体の統括を行うことが困難であった。



モンゴル日本人材開発センターの外装



総務課



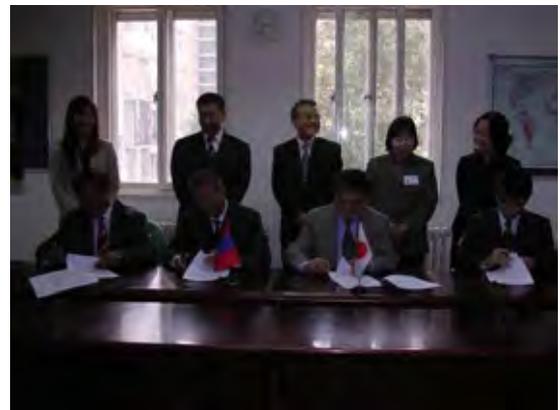
図書室受付



日本の大学に関する留学情報の掲示



評価内容の報告



協議議事録の締結

第1章 中間レビュー調査の概要

1-1 調査の経緯と目的

(1) 案件の背景・概要

我が国は、モンゴル国（以下、「モ」国と記す）の市場経済化を支援するため、これまで経済政策や産業政策、税制改革、中小企業支援など、主として政策面・マクロ面での協力を進めてきた。他方、「モ」国では経済体制の移行の流れの中で、近年では実体経済を支える民間の人材や、制度面からこれらを支える行政官等実務者の育成が急務となっている。

かかる背景の下、2002年1月から5年間の協力期間にて、モンゴル国立総合大学（National University of Mongolia：NUM）をカウンターパート（Counterpart：C/P）として効率的・効果的な人材育成ニーズへの対応と日本の「顔の見える協力」を実現する拠点としてモンゴル日本人材開発センター（Mongol Japan Center：MOJC）プロジェクトを開始し、2002年6月の建物の完成とともに正式な開所に至った。以降、「学習支援の拠点」「相互交流の拠点」「ネットワークの拠点」をコンセプトとして、ビジネス人材育成事業、日本語教育事業、相互理解促進事業を三本柱として活動を実施した。

ビジネスコースでは、主として日本的経営等の実践的な技術やノウハウを提供するコースを実施し、ビジネスコース受講企業の中から、「優秀な経営を行っている企業」として「モ」国政府から表彰を受ける企業が複数出ているなどの高い成果を上げている。日本語コースでは、「映画で学ぶ日本語」や「IT日本語」「ラジオ日本語」等の多彩な講義を提供している。さらに、定期映画会や日本の社会・文化を紹介する催しの開催や豊富な日本語の書籍・雑誌を所蔵する図書室の提供から、MOJCは「モ」国において日本の様々な経験や文化を学べる場として広く認知されている。

これらの成果を踏まえ、より目的を明確にした活動を展開するとともに、自立した組織としての運営体制を確立することをめざし、「モ」国政府より「モンゴル日本人材開発センタープロジェクトフェーズ2」実施の要請書が提出され、2007年1月22日からさらに5年間の協力期間とした本プロジェクトが実施されている。

(2) 調査の目的

本中間レビュー調査の目的は以下のとおり。

- 1) これまでのプロジェクト活動について、討議議事録（Record of Discussion：R/D）に基づき、プロジェクトの実績、実施プロセスを検証する。
- 2) 評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から分析し、プロジェクトチーム、「モ」国側関係者と協議する。
- 3) 検証・分析結果を踏まえ、プロジェクトチーム、「モ」国側関係機関の双方に対し、必要な提言を行い、フェーズ2後半期の活動計画（Plan of Operation：PO）を協議する。
- 4) 関係者との協議結果を踏まえ、必要に応じてプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）およびPOを改訂する。
- 5) 以上を取りまとめ中間評価レポートを作成し、「モ」国側と協議のうえ協議議事録（Minutes of Meetings：M/M）として署名交換する。
- 6) 今回の中間レビューの結果を踏まえMOJCの同国で果たしている役割・期待と成果を明ら

かにするとともに、JICAモンゴル事務所・在モンゴル日本大使館・「モ」国政府との間で、今後のMOJCの行う事業と組織体制の方針について協議を開始する。

1 - 2 調査団の構成

プロジェクトの評価は以下の調査団により実施された。

担当分野	氏名	所属/役職
団長・総括	伏見 勝利	JICA公共政策部日本センター課 課長
日本語コース評価分析	中込 達也	国際交流基金関西国際センター 専門員
日本語コース評価企画	高橋 沙知	国際交流基金さくらネットワークチーム 職員
協力企画	佐藤 里衣	JICA公共政策部日本センター課 職員
評価分析	本間 まり子	インテムコンサルティング(株)社会開発部 コンサルタント

1 - 3 調査日程

本レビューの調査日程は以下のとおりである。

- ・日本語コース評価分析、日本語コース評価企画：2009年8月12日（水）～8月18日（火）
- ・評価分析：2009年8月26日（水）～9月11日（金）
- ・団長・総括、協力企画：2009年9月2日（水）～9月11日（金）

	月	日	曜	時間	調査内容
					日本語コース評価 中込/高橋
1	8	12	水	22:40	ウランバートル着(OM502)
2	8	13	木	10:00	MOJC施設見学、概要説明
				11:00	MOJCおよびモンゴル日本語教育ブリーフィング(日本人専門家)
				14:10	ダワー副所長インタビュー
				15:00	授業見学:デルゲルマー常勤講師
				15:45	受講生(らくらく漢字300)インタビュー
				16:30	MOJCスタッフインタビュー(日本語課主任)
				17:15	吉池非常勤講師インタビュー
3	8	14	金	10:00	モンゴル日本語教師会ドルゴル氏との面談
				11:30	井駒非常勤講師インタビュー
				12:15	非常勤講師とのランチオンミーティング
				15:00	JICAモンゴル事務所との打合せ
				17:00	MOJCスタッフインタビュー
				17:40	MOJC受講生(わくわく漢字中級)インタビュー
				18:20	日本人専門家との打合せ

4	8	15	土	12:00	JOCV(日本語教育)とのランチョンミーティング		
5	8	16	日	終日	資料整理		
6	8	17	月	10:00	日本語教授法演習コース見学		
				15:30	在モンゴル日本大使館訪問		
				17:00	調査結果報告		
7	8	18	火	6:20	ウランバートル発(KE868)		
					評価分析 本間	団長/総括 伏見	協力企画 佐藤
1	8	26	水	17:40	ウランバートル着(OM502)		
2	8	27	木	9:30	JICAモンゴル事務所担当者との打合せ	/	
				11:00	MOJC訪問・打合せ		
				14:00	日本人専門家インタビュー (所長、業務調整員、日本語コース運営)		
3	8	28	金	10:00	ダワー副所長インタビュー	/	
				11:30	MOJCスタッフインタビュー (統括主任、日本語課主任、図書情報課主任)		
4	8	29	土	終日	資料整理		
5	8	30	日	終日	資料整理		
6	8	31	月	10:00	MOJCスタッフインタビュー (IT/PCコース)	/	
				12:00	日本人専門家インタビュー (ビジネスコース運営)		
				16:00	MOJCスタッフインタビュー (日本語課、文化交流課)		
7	9	1	火	10:30	修了生インタビュー(IT/PCコース)	/	
				14:00	修了生インタビュー(日本語コース)		
8	9	2	水	10:00	修了生インタビュー (ビジネスコース)	/	
				14:00	修了生企業訪問 (Khugjil trade社、Bridge construction社)		
				17:40		ウランバートル着 (OM502)	
9	9	3	木	9:30	JICA事務所、日本人専門家、MOJCスタッフ打合せ		
				14:00	MOJC訪問(MOJC視察・MOJC活動ブリーフィング)		
				17:00	ダワー副所長との打合せ		
10	9	4	金	9:30	NUMダワー学長との意見交換		
				11:30	大蔵省(フレンバートル局長)との意見交換		
				14:00	団内打合せ		

11	9	5	土	AM	団内打合せ
				PM	資料整理・M/M(案)作成
12	9	6	日	AM	資料整理・M/M(案)作成
				PM	団内打合せ
13	9	7	月	10:00	中小企業庁(オトゴンバイル副長官)との意見交換
				14:00	カイゼン協会へのインタビュー
				16:30	修了生企業訪問(Chinggis beer社)
14	9	8	火	10:00	教育・文化・科学省(バーサンジャブ局長)との意見交換
				14:00	M/M(案)協議・修正
15	9	9	水	10:00	MOJC内打合せ
				14:00	EBRD BAS Programm訪問
				16:00	MOJC内打合せ
16	9	10	木	9:30	M/M署名
				11:00	JICAモンゴル事務所報告
				15:00	在モンゴル日本大使館報告(藁谷参事官・大川書記官)
				16:00	JICAモンゴル事務所報告
17	9	11	金	0:20	ウランバートル発(KE868)

1 - 4 主要面談者

(1)「モ」国

M. BAASANJAV	教育・文化・科学省 Director, Department of Higher and Vocational Education
B. KHURENBAATAR	大蔵省 Director General, Financing and Cooperation Development
U. OTGONBAYAR	中小企業庁 Vice Chairman

(2) C/P機関 (NUM)

S. DAVAA	学 長
D. BAYARSAIKHAN	国際部長
Ts DAVAADORJ	経済学部長兼MOJC副所長

(3) MOJC

<日本人専門家>

森川 秀夫	所 長
白石 真美	業務調整員
藤島 夕紀代	日本語コース運営
河口 真一郎	ビジネスコース運営

<現地スタッフ>

ガルマーバザル	統括主任（総務・相互理解促進）
ガンエルデネ	統括主任（ビジネス課）
エルデネツェツェク	主任（日本語課）
アズビレク	主任（図書館課）
ウラムバヤル	主任（総務課）
オチルチメグ	IT/PCコース運営、総務担当
サンサルトヤ	日本語課
ボロルマー	図書情報課

(4) カイゼン協会

D. OCHIRKYUYAG	会長 / Director (CHINGGIS BEER) * 企業訪問実施
J. KHISHIGJARGAL	副会長 / General Director (KONNEKT LLC)
D. ALTANTSETSEG	理事 / Executive Director (Everyday International, BRIDGE) * 企業訪問実施
B. UNGAMAL	会員 / Executive Director (KHUGJIL Trade) * 企業訪問実施

(5) MOJC実施コース修了生

<ビジネスコース>

中小企業診断指導コース	17名
ITコース	3名
PCコース	3名

<日本語コース>

日本語中級レベルコース	5名
ビジネス日本語コース	3名
日本語教育実習、日本語教授法演習コース	6名

(6) 在モンゴル日本大使館

石崎 高博	書記官
大川 陽一	書記官

(7) JICAモンゴル事務所

石田 幸男	所長
小貫 和俊	次長
矢向 禎人	所員

1 - 5 評価の方法

(1) 評価手法

本終了時評価では、「JICA事業評価ガイドライン」に基づいた評価手法を用いて評価を実施した。本評価調査では、2006年12月にR/Dにおいて締結されたPDM（付属資料2）に基づい

て評価デザインを作成した。評価のデザインについては付属資料3 . 評価グリッドを参照。評価対象期間は、本プロジェクトのフェーズ2 が開始した2007年 1月から2009年 6月末までである。

評価手順は次のとおりである。

- 1) 資料レビュー、評価グリッドの作成
- 2) 実績確認と評価指標に関して、事前の質問票調査と現地調査でのプロジェクト関係者との面談を通じた情報収集
- 3) 評価5項目に基づく調査結果の分析
- 4) プロジェクト関係者との協議と報告

< 評価5項目 >

有効性 (Effectiveness)	プロジェクトの「成果」が、どの程度達成されているか、およびそれが「プロジェクト目標」の達成にどの程度結びついているかを分析・評価する。
妥当性 (Relevance)	プロジェクトのめざしている効果が、受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、相手国と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か、公的資金であるODAで実施する必要があるかなどといった「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問う視点。
効率性 (Efficiency)	主にプロジェクトのコストと効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているかを問う視点。「投入」の、手段、方法、期間、費用の適切度を分析・評価する。
インパクト (Impact)	プロジェクトの実施によりもたらされる、より長期的、間接的効果や波及効果をみる視点。予期していなかった正・負の効果・影響を含む。
自立発展性 (Sustainability)	プロジェクトによりもたらされた成果が協力終了後も持続・拡大され得るかどうかを把握し、実施・関係機関の自立度を政策・組織面をはじめ財務面、技術面その他の観点から分析・評価する。

(2) 調査対象者およびデータ収集方法

本調査対象者と対象者ごとのデータ収集方法は次のとおりである。

< 「モ」国側 >

- ・本プロジェクトのC/PとMOJCスタッフ：質問票、インタビュー
- ・現コース受講生：質問票、インタビュー
- ・コース修了生：質問票、インタビュー

< 日本側 >

- ・現専門家：活動報告書、質問票、インタビュー
- ・元専門家（長期・短期）：活動報告書

第2章 プロジェクトの実績

2 - 1 投入実績

投入は、「モ」国側のプロジェクトアドバイザーの配置以外以下のとおりおおむね計画通り実施されている。詳細の投入実績については付属資料4を参照。

2 - 1 - 1 日本側投入実績

(1) 専門家派遣

本プロジェクトにおいて、2009年6月末までに投入された日本人専門家は以下のとおり。

(詳細は、付属資料4 - 1参照)

・長期専門家：延べ6名

(チーフアドバイザー、日本語コース運営、業務調整員)

・短期専門家：延べ26名

(ビジネスコース運営管理、日本的経営、経営戦略、販売管理、生産管理、財務管理、ビジネスプラン作成支援、品質管理・原価管理、労務管理、マーケティング、HACCP等取得指導、観光業商品開発/販売促進、日本語教育シンポジウムなど)

(2) モンゴル人スタッフの雇用

本プロジェクトでは、フェーズ1より延べ31名の現地スタッフを雇用し、うち19名が現在も勤務中である。詳細は付属資料4 - 2参照。

(3) 本邦研修

本プロジェクトでは、2名のC/Pが日本理解研修に、4名の現地スタッフが日本センター運営に関する研修参加したほか、ビジネスコースの成績優秀修了生など、延べ18名が本邦研修に派遣された。詳細は付属資料4 - 3参照。

(4) 機材供与

2009年6月末までの日本側の機材供与の実績は合計US\$107,691、レートはそれぞれの購入時。供与機材は、パソコン、プロジェクター、コピー機、DVDビデオカメラ、電話機・交換機、液晶テレビ等である。携行機材の合計は、US\$30,385.56。防犯カメラ、大型UPS、プロジェクター用ランプ等が含まれる。詳細は付属資料4 - 4参照。

(5) 現地業務費

2009年6月末までに、日本側の現地業務費(在外事業強化費)として合計US\$647,108がプロジェクトの活動のために投入された。

2 - 1 - 2 「モ」国側投入実績

(1) C/Pの配置

「モ」側からのC/Pの配置は、MOCJ副所長1名である。一方、R/Dに記載されているNUM教師によるプログラム・アドバイザーは、いまだ配置されていない。

(2) 運営コストの負担

「モ」国側から、光熱費、水道料金、暖房費、電気費が投入されている。また、掃除担当者2名が配置されている。

2 - 2 活動の実績

プロジェクト活動は、おおむね計画通り実施されている。各コースの活動実績は、付属資料5の各コースの活動実績と次節の各成果の指標の達成度を参照。

2 - 3 成果の達成度

プロジェクト活動を通じた成果は以下のとおり、おおむね計画通り達成されている。詳細は付属資料6を参照。

2 - 3 - 1 成果1：運営体制およびモニタリングシステムの強化により、MOJCが効果的、効率的に運営される。

成果1に関する活動は、おおむね計画通りに実施され、成果は計画通り達成されつつある。

MOJCの運営体制は改善され、効果的に実施する体制が整いつつある。合同調整委員会（Joint Coordinating Committee：JCC）は、毎年5月に開催され、前年（2007年はフェーズ1）の実績と年度計画が「モ」国政府やC/PであるNUM、在モンゴル日本大使館などからの参加者に共有されている。月間ミーティングのかわりに毎週月曜日に定例ミーティングが実施され、所長、副所長、日本人専門家、統括主任、各課の主任が出席し、2週間の活動内容の共有などがなされている。マネージャー制度が導入され、統括主任や主任が任命されたことによって、現地スタッフによる運営能力や効率を改善し、現地スタッフの自主的な運営を促進している（付属資料7・MOJC組織図）。

3事業間の連携は必要に応じて実施されている。例えば、ビジネスコースの日本語観光ガイド養成コースと日本語コースとの連携や、相互理解促進事業の地方での1日体験事業や折り紙教室、日本語月例テストなどの実施における日本語コースとの連携がある。また、2007年のMOJC設立5周年記念事業においても、3事業が連携したフォーラムが実施された。

MOJCの広報は、ホームページ、新聞広告、メーリングリスト、テレビやラジオ、ポスターの掲示、年報、パンフレット、毎月発行するメールマガジンなどを通じて行われている。別途、各コースが受講生募集の広報を行っている。特に日本語コースでは日本語教師回を通じた広報を行っている。MOJCのウェブサイトは、毎月の活動報告やMOJCの新規スタッフの紹介といったニュースや各コースの実施情報などを掲載している。

2 - 3 - 2 成果2：中小企業のニーズに即した実践的な知識とスキルを提供するビジネスコースが行われるとともに、コースにおける現地講師の割合が増加する。

成果2に関連したビジネスコースの活動も計画通り実施されており、成果は達成されつつある。ビジネスコースでは、通常コース、専門コース、特別コース、個別経営相談を通じたサービスの提供を行っており、フェーズ2の受講者数の実績は3,648名である。別途、ビジネス人材のためのIT/PCコースが実施されており、これまでに2,080名が受講した。ビジネスコースの活動実績の詳細は、付属資料5 - 1・ビジネスコースの実績1（ビジネス）、付属資料5 - 2・ビ

ジネスコースの実績 2 (IT/PC) を参照。

通常コースでは、「中小企業経営診断指導コース」として、約 7 週間、製造業およびサービス業の中小企業経営者・管理者を対象に日本的経営の基礎を教えている。フェーズ 2 の受講生は合計 165 名。そのうち 78% が修了した。受講生の内訳は、社長 96 名 (58%)、部長 20 名 (12%)、マネージャー 49 名 (30%) である。修了生のうち 90% が、その内容に満足したと回答している。また、修了生のうち優秀者は本邦研修に参加することになっており、これまでに 10 名が参加している。さらに、「中小企業経営診断指導コース」の終了生を対象にしたフォローアップセミナーや専門コースエルデネット市における地方セミナー、入門セミナーを開催している。2008 年度からはフォローアップセミナーではなく、「労務管理」等の専門コースを実施している。さらに、修了生が設立したビジネスコース内容の普及や相互学習を通じた活用を目的としたカイゼン協会が設立されている¹。

特別コースでは、対象の業種やテーマを絞った短期のコースやセミナーを行っており、フェーズ 2 に入って、新たに食品加工業を対象にしたコースを実施している。また、JICA の有償資金協力事業である「中小企業育成・環境保全ツーステップローン事業」との補完・相乗効果、融資を念頭に置いた「ビジネスプラン作成支援コース」等を提供している。「ビジネスプラン作成支援コース」は中小企業向けに加え、銀行のローンオフィサー向けのコースも実施している。2007 年度は MOTC 5 周年記念行事としてのセミナーも実施された。さらに、JETRO やヨーロッパ復興開発銀行 - ビジネスアドバイザーサービスプログラム (European Bank for Reconstruction and Development-Business Advisory Service : EBRD-BAS) といった他の機関との共催セミナーも実施されている。さらに受講生や修了生の会社を対象に、個別経営相談を実施している。2009 年度からモデル企業育成のため新たに 8 社 (実績 3 社) が選定され、企業診断指導を実施されている。

PC/IT コースは、フェーズ 2 ではビジネス人材養成として、ビジネスコースの一部に設置されている。これまでに IT コース 121 名、PC コース 1,959 名、現地小学生向けの PC セミナー 90 名を対象に実施された。

ビジネスコースにおける活動は、日本人専門家と統括主任により作成された、年間計画に基づいて実施されている。日常のコース運営は、統括主任を中心とした現地スタッフによって担われており、その運営能力や責任能力は向上している。各コースは、修了時に実施される修了生へのアンケートを通じて随時モニターされているが、制度としては整備されていない。

講義は主に、日本人短期専門家により実施されてきたが、現地講師育成のために NUM 経済学部長、NUM 経済学部教授 3 名、会社社長 2 名、その他 3 名、合計 9 名が現地講師として選ばれ、そのうち 3 名が 2009 年 8 月より本邦研修に参加している。中間評価時点で、現地講師が中心となっているコースは、「観光ガイド養成実践コース」である。さらに、通常コースと HACCP (総合衛生管理製造過程) において、日本人専門家との共同講義が実施されているが、今後その数は増加する予定である。PC/IT コースは、全講義が現地講師により行われている。コースの支出は受講生からの授業料による収益で賄われており、独立採算が実現している。

¹ 本評価の対象期間外だが、カイゼン協会会員のうち 8 名が 2009 年 7 月に JICA とのコストシェアにより日本での研修を実施した。協会による支出は、航空運賃と US\$1,500。後者はビジネスコースの収入となっている。

2 - 3 - 3 成果3：日本語教師のニーズに合致し、また市場のビジネス機会の拡大に向けた日本語コースが開催される。

成果3に関連した日本語コースの活動も計画通り実施されており、成果は達成されつつある。日本語コースでは中上級者向けの多様なコースを実施する通常コースのほかに、短期講座、日本語1日体験授業や月例実力テストの実施を通じたサービスを提供しており、これまでに延べ6,159名が受講している。他の高等教育機関や民間の日本語学校との重複を避けるために初級は実施されていない。日本語コースの実績の詳細は、付属資料5-2を参照。

通常コースは、日本語教育実習コース等の教師養成・育成を目的としたコースのほか、ビジネス日本語に関するコース、映画や新聞で学ぶ日本語コース、漢字に特化したコース、IT日本語コース、日本語試験対策のためのコース等を実施している。これまでに延べ1,393名が受講し、930名(67%)が修了した。そのほとんどがウランバートルからの参加者である。しかし、ウランバートル以外の人々のニーズにこたえるために、テレビ日本語講座を通じたサービスや教科書やDVDの出版を行っている。

短期講座では、無料で日本語の話し方などの講座や講演が提供され、延べ1,871名が参加した。特に2007年は、MOJC5周年記念行事の関係のセミナーが実施され、多くの参加者があった。

さらに、無料の日本語1日体験授業や日本語月例実力テストの実施を通じて、多くの日本語学習者がMOJCを訪問する機会を提供している。

日本語コースの活動は、日本人専門家に作成された年間計画が主任や現地スタッフとともに検討され、それに基づいた年間計画によって実施されている。コースの運営は主任を中心とした現地スタッフにより行われており、その運営能力や責任能力は向上している。すべてのコースは修了生からのアンケートが実施されており、その結果は各期(9月から12月の秋季、2月から5月の春季、7月から8月の夏季)の開始前のあとに実施される運営会議において検討され次期のコースに反映されている。

現地講師の養成のために候補となった13人中11人(約85%)が認定され、そのうち10人が現在コースで教えている。4名の常勤講師は、現地スタッフとしてコース運営にも従事している。現地講師(非常勤)には4名の日本人講師を含んでいる。これまでに、86.7%(3,485時間中3,021.5時間)が現地講師により実施された。一方、日本人専門家が中心となって実施しているコースとしては教師養成・育成のコースがある。

さらに、日本語コースでは日本語教育シンポジウム、毎月1回の日本語教育研究会例会、日本語教師会との共催でのスピーチコンテスト実施などを通じて、モンゴル日本語教育支援・推進・連携拠点としての役割を果たしている。

2 - 3 - 4 成果4：相互理解促進事業に関し、様々な分野(経済、社会、文化など)における「モ」国と日本の情報が双方向に発信される機能が強化される。

成果4の相互理解促進事業に関連した活動も計画通り実施されており、その成果も達成されつつある。詳細は、付属資料5-3・相互理解促進事業実績を参照。

これまでに、MOJCが主催した市民講座・IT折り紙教室・定期映画祭を通じて4,518名が、相互理解促進のための事業に参加した。さらに、日本と「モ」国の相互理解促進に貢献するような事業に対してMOJCのスペースの貸出を行っており、これまでに在モンゴル日本大使館、JICA、

NUMなどが主催となっている事業に対して230回の会場貸出が実施された。さらに、相互理解促進活動を促進しつつMOJCの収益性を高めるために、2008年度から延べ3件の事業を受託しており、さらに2件が検討中である。

また、MOJCは、モンゴル初の開架式図書室として、4,000冊以上の蔵書や約1,000枚のDVDやビデオなどの映像資料、コンピューター検索のための機材などを有している。特に、日本語教育に関する資料充実しているほか日本の大学への留学に関する資料も提供されている。その静かで便利な環境や資料検索のために、近隣の大学生をはじめとして広く利用されている。フェーズ2に入って、延べ51,644名が利用し、そのうちの5,412名が新規に利用者登録をしている。こうした年間利用者数と登録者数は年々増加している。図書室からも作家や書籍の紹介を通じた相互理解事業がこれまでに58回実施された。また図書室整備のために、ロッカーなどの図書室の整備や掲示などのコーナーの設置、図書の購入などの取り組みがなされている。

相互理解促進分野に日本人専門家は派遣されておらず、すべての活動は現地スタッフによって作成された年間計画に基づいて企画、運営、実施されている。すべての活動は、終了後のアンケートを通じてモニタリングされ、随時その結果が反映されている。しかし、そうしたモニタリングは制度として確立してはいない。

2 - 4 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標：「『モ』国における市場経済化に対応する人材育成」および「『モ』国・日本の相互理解促進」を行う拠点としてのMOJCの機能が強化される。

プロジェクトの成果はおおむね計画通り発現しており、プロジェクト目標は計画通り達成されることが見込まれている。一方、自立発展性促進のために残りのプロジェクト期間において、財政的自立のための収益性の強化やオーナーシップの醸成のためのNUMとの連携の強化の取り組みが必要である。

BOX1の通り、MOJCの来館者数はフェーズ1から延べ100万人を超え、ウランバートルの人口と同じ人数が来館しており、広く市民に根づいた活動を実施している。来館者数はほぼ毎年増加しており、認知度は向上している。また、各コースの参加者数も、ほぼ定員で実施されており、参加者の満足度も高く、新規コースの開催の期待の声も多い。さらに、図書館や新聞やテレビを設置したロビーの認知度や活用率は高く、NUMをはじめとした多くの学生や社会人に利用されている。さらに第二の産業都市であるエルデネット市において、地方セミナーを年に一度開催しており、地方でのニーズにもこたえている。日本語コースでは、テレビ日本語講座の提供によって、地方在住者などの広範囲な人々にサービスを提供している。

現地スタッフによる日常業務の遂行やコース運営、現地講師化の養成により、現地化は促進されつつある。マネージャー制度が整備され、2名の統括主任と各課の主任が配置され、各コースの運営はほぼ現地スタッフで担われる体制が整いつつある。相互理解促進事業やIT/PCコースには日本人専門家は配置されておらず、100%現地スタッフや現地講師により実施されている。日本語コースに関しても、86.7%が7名の現地講師によって実施されている。うち3名は現地在住の日本人、4名はモンゴル人である。一方、ビジネスコースは9名の現地講師の候補者が選定されたばかりであり、部分的に日本人講師との共同講義が始まっている。今後、その割合が増加してい

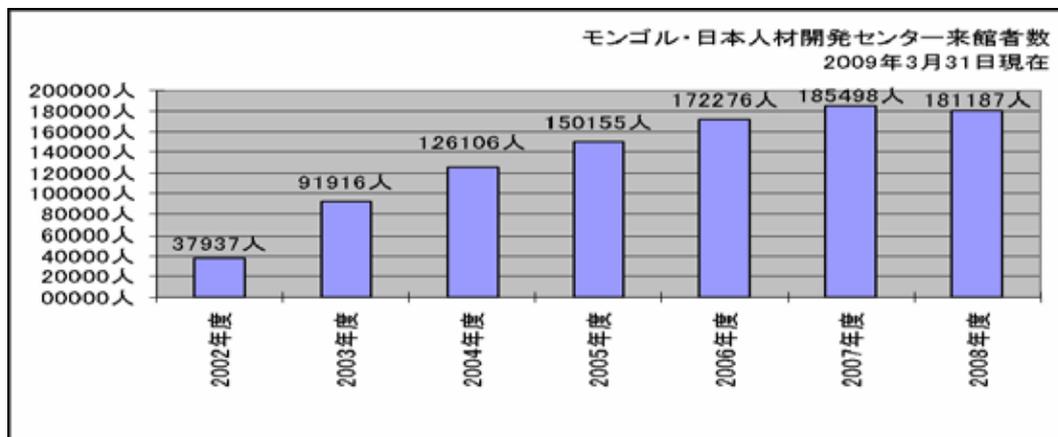
く予定である。一方、C/P機関であるNUMの関与は弱く、副所長1名が配置されているのみで、R/Dに記載されているプログラム・アドバイザーは未配置である。副所長は毎週ミーティングに参加する等、高いコミットメントを示しているものの、今後オーナーシップの醸成のために更なるNUMとの連携の強化が必要である。

財政的自立発展性としては、BOX 2 のとおり、2008年度の実績において支出額全体と比べた収入額の割合は18.92%である。MOJCの収益は増加しつつあるものの、目標とされている40%には至っていない。収益向上のために、2009年度にはコースの受講料やMOJC施設の利用料が増額された。収益向上のための更なる取り組みの必要性はスタッフに共有されており、今後の改善が計画されている。

関係機関とのネットワークは強化されつつある。ビジネスコースではJICA（旧JBIC）のツーステップローンとの連携として、対象者にビジネスプラン作成支援セミナーを開催している。さらに、他の開発機関の連携として、UNDPやJETRO、EBRDとの連携のセミナーが開催された。日本語コースでは、在モンゴル日本国大使館、ウランバートル市教育局、モンゴルナショナル教育テレビ、モンゴルナショナルラジオテレビ局等と連携したセミナーの開催等の活動を実施している。また、大使館・JASSOの主催、MOJCと「モ」国帰国留学生会の協力により日本留学説明会が毎月開催されている。しかし、更なる取り組みが必要である。

BOX 1：フェーズ1からの延べ来館者数

来館者数	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	合計
	37,937人	91,916人	126,106人	150,155人	172,276人	185,498人	181,187人	945,075人



* 2009年6月までに来館者数は100万人を超えている。2007年度は、MOJC 5周年記念行事を開催したため、来館者数の増加が著しい。

BOX 2 : MOJC における収支 (2006 ~ 2008 年度)

		単位 : USD ¹		
年度		2006	2007	2008
収入 (a)		47,882.00	56,553.00	55,789.00
支出 (b)		174,263.00	234,849.00	294,866.00
収支 (a-b)		126,381.00	178,296.00	239,077.00
費用回収率 (a/b)		27.48%	24.08%	18.92%
支出内訳	JICA 拠出 (e) ²	168,084.00	205,637.00	248,000.00
	センター拠出 (f)	6,179.00	13,128.00	23,203.00
	C/P機関からの拠出 (g)	データなし	16,084.00	23,663.00
	センター + C/P機関拠出充当率 ((f + g)/b)	3.55%	12.44%	15.89%
	貯蓄 (a-f)	41,703.00	43,425.00	32,586.00

¹ 為替レートは、各年度の JICA 平均レート

² e の「JICA 拠出」とは JICA 在外事業強化費

2 - 5 上位目標達成の見込み

上位目標：「モ」国の市場経済化に資する人材開発が促進される、「モ」国および日本両国の相互理解が促進される。

フェーズ 1 からの 7 年半の活動を通じて、上位目標の達成に向けた取り組みは進んでおり、一部は既に達成されつつある。なお、上位目標の指標についてデータを収集する手法がプロジェクト内で確立されていないものが多かったが、本調査を通じて指標が認知されるようになったと思われる。

< ビジネスコース >

モンゴルでは、各種の統計資料から推測して、2008年度の企業数が約43,130社である。そのうち87%が9名以下、6%が10名以上19名以下、4%が20名以上49名以下であり、約97%がMOJCの対象とする中小企業であると推測される。フェーズ 2 におけるビジネスコースの延べ受講者数は3,648名であり、各社から一人ずつ参加したと仮定すると、約8%が受講したと単純計算できる。仮に10名未満の零細企業を除くと15社に1社が参加した計算になる。

また修了生に関しては、コース終了後の活躍が報告されている。例えば、モンゴル商工会議所が毎年発表している優良企業ランキングにおいて、2008年度は100社中15社、ビジネスコースの修了生の経営する企業だった。うちトップ3社はすべて修了生の企業である。コースで習得した知識の活用としていまだ大きな収益の向上の事例はみられていないが、その実務的なコース内容は、日々の業務に広く適用されていることが報告されている。また、業務の改善を通じた効率性の向上の事例が報告されている。具体的な事例はBOX 3 ~ 5 を参照。

また、第2期(2003年度)の修了生を中心に設立された「カイゼン協会」では、ビジネスコースで習得した内容の自社内での活用と非参加者への波及を目的に、自主的な活動を行っている。またコースの地方セミナー実施の支援やJICAとのコストシェアリングによるメンバーの本邦研修の実施といったフォローアップについて、ビジネスコースとの連携や支援を行っている。個人コンサルタントとして、既に自立して経験を活用したビジネスを展開しているものもいる。カイゼン協会員以外の修了生たちも、修了後、社員へコースで習得した技術を紹介やのちのコースに社

員を送り込むなど、MOJCで得た技術の普及に貢献している。

一方、日本の企業とのビジネスについてはまだその総数自体が限定的であり、修了生からも報告は聞かれていない。今後、ビジネスコースからの連携の支援が期待されている。

< 日本語コース >

2006年の国際交流基金の調査によると、「モ」国の日本語教育機関は90機関となっているが、日本語能力試験の受付、国費留学試験の受付、私費留学試験の受付、大使館主催スピーチコンテストの受付等のMOJCの業務を通じて、そのすべてが当MOJCを認知していると考えられる。

日本語コースの受講生の多くは、その習得した知識を活用している。例えば、日本語コース修了生のうち、2008年終了時アンケートによると、全体では38.7%の受講生が日本語を使用していると回答している。また、教師対象コースの受講生では81.8%、ビジネス日本語コース受講生では52.5%が使用していると回答している。また、「日本語教授法演習コース」および「日本語教育実習コース」の修了生は、延べ111名のうち、約70%が教師を続けている。

< 相互理解促進事業 >

「モ」国から日本への国費留学生の数は、2009年5月末現在約1,145名となっている。MOJCの活動との直接的な関係性は証明することは難しいが、相互理解促進事業を通じた日本への興味の促進や図書室を通じた日本の大学情報の提供等、MOJCの活動の貢献が推測される。

BOX 3 : ビジネスコースでの技術の活用事例 国際的流通会社社長 / 女性

2003年に、2期生として中小企業経営指導診断コースに参加した。コースについては会長からの紹介で参加した。2006年度には副社長も参加した。またコース修了後、カイゼン協会の立ち上げにかかわり、現在理事をしている。

コースに参加してある程度知識としてあったビジネスについての情報を、包括的に学ぶ機会を得ることができてよかった。一番印象に残り、実際実践をしたのは マネージメント改善、5Sの実践、 職場や倉庫の改善である。

コース終了当時、別々の会社だったのだが合理性を考慮して合併され、今の会社になったためとてもよいタイミングだった。コース修了後、まず社内で5Sを実現する組織づくりとして、社内5S委員会を立ち上げた。さらにチーム体制を作り、チームを中心として社全体で5Sに取り組むように評価制度なども導入した。それによってマネージメント体制が整い、5Sも実践されていった。コースで学んだ内容をもとにして実際に経営戦略も検討しなおし、毎年具体的な目的や計画を作成してそれに沿った業務を行うようになった。さらに人材開発のために、5Sを研修に参加していない社員への勉強会の開催や能力向上を目的とした研修会を開催するようになっている。またスポーツ大会などを通じた、社内のコミュニケーションの機会ももつようになった。

具体的に改善した点として、輸入食品などを販売する店舗において、ロゴが目立つよう看板の設置方法を変更し、商品の陳列方法大きく改善した。倉庫内の在庫の管理においても、陳列方法を変更したことによって外から見やすく商品を取りやすくなり、保健衛生面も改善された。接客などの販売方法も変化し、販売増加につながっている。オフィスにおいても、同様に整理整頓が進み、オフィス環境が整備された。

結果として、社員たちは業務への理解が深まり、意欲が増したことで勤務姿勢や態度が改善

してきている。さらに、チームワークに基づく業務を行うようになり、勤務計画通りの勤務、ルールの遵守、効率的な業務の遂行が実現している。自分自身は、マネージャーとして従業員との接し方が改善され、関係性が変化したと思う。

直接的な収益の変化を確認するのは難しいが、この約3年間(2007年から2009年)において、平均で、販売率が25.6%、収益は53.5%、投資額は23%増加しており、上記のようなマネジメントやオフィス環境の改善の影響であると思われる。

今後、5Sなどの取り組みを継続するとともに、もっと多くの社員に研修の機会を与えたいと考えている。



見えやすくなった看板



目にとまるディスプレイと整理された商品の陳列

BOX 4 : ビジネスコースでの技術の活用事例 衛生製品製造会社社長 / 女性

2003年に、2期生として中小企業経営指導診断コースに参加した。コースについては、新聞広告で知った。当時、会社を設立して1年目であり、手探りで経営を始めたところだったため、非常によいタイミングであった。翌年には、同じく経営に携わっている夫が、2008年には従業員2名が同コースに参加した。コース修了後、カイゼン協会のメンバーになっている。

会社は、ウェットティッシュを生産している。会社を設立した2002年当時、輸入品はあったが「モ」国産の製品はなかったため、ビジネスになるのではないかというアイデアで家族を中心に従業員7名で会社を立ち上げた。しかし、生産の仕方や経営方法などなど全くわからなかった。コース内容は5年前のことなので詳しくは覚えていないが、直接的な講義と指導が役立ったのはよく覚えている。

例えば、マーケティング調査の方法について、正確に製品の中身を伝えることが重要性であると教わり、それ実践するために商品サンプルを作るようになった。販売方法についても、当時はわからなくて、金額を上げて売上を上げようとしていた。それを続けていたらビジネスはうまくいかなかったと思う。しかし、コースでマーケティングの多様な戦略を学び、その一つの薄利多売手法を知り、それを採用することとした。そのおかげで事業が軌道に乗り、当初ウェットティッシュのみ生産していたが、今は20種類以上の製品を生産している。現在、手狭になっているため新しく広い場所に移転する予定である。

5Sも実践しており、工場内の衛生管理や機械や道具の保管、社員のロッカールームの整備と、ロッカーの扉への業務態度などの標語の掲示などが、現在も実践されている。

さらに、5つのグループに分かれて行っていた、相互の会社訪問とアドバイスを行う実習活動(のちのカイゼン協会の活動につながる)を通じて新商品が開発された。当時、臭いがきつい商品しか生産していなかったが、グループのメンバーが水の不便な場所で入浴の代わりに使

用するための、無臭のウェットティッシュを提案し、それを製品化したところヒット商品となった。当時の仲間とは、現在もカイゼン協会を通じて協力しあっている。知識の習得だけでなく、こうした仲間に会えたこともコースを受講してよかったことの一つである。

2009年7月に、カイゼン協会から選ばれて日本での（JICAとの）コストシェアの研修に参加した。札幌での工場見学を通じて、勤務管理の仕方や効率的経営手法を学んだ。帰国して1ヵ月ほどだが、早速研修で学んだことを実践し、午前8時から6時だった勤務時間を8時から5時に短縮し、代わりに作業の効率化を図った。結果として、一日の目標である13,000個を、以前は達成できなかったのだが、現在は毎日上回る個数を生産できている。研修費用は、航空券とUS\$1,500を自分で支払った。多少高いが研修の機会は必要であり、参加し終わった今絶対に無駄ではない出費だったと感じている。また、2003年のコース参加当時は自分は優等生ではなく、修了生を対象にした本邦研修にも選ばれなかった。しかし、コース終了後約6年間を通じて少しずつ事業を改善し、研修に参加することができたことがうれしい。2009年度、ビジネスコースのモデル企業候補になっており、さらに業務体制や収益を改善していきたい。



たくさんの種類の製品が陳列されている。



スタッフのロッカー標語が掲示されている。

BOX 5 : ビジネスコースでの技術の活用事例 飲料品製造販売会社社長 / 男性

2003年に、2期生として中小企業経営指導診断コースに参加した。ビジネスコース終了後、3名の社員を社の負担でビジネスコースを受講させ、社全体で改善への取り組みを行っている。

会社を設立したのは1994年。ドイツから輸入した4種類の麦をブレンドしてドイツ式の半自動式生産手法によって、ビールを製造販売している。

ビジネスコースの内容で一番役立っているのは5Sである。具体的には、食品加工分野の業務のため整理、保健衛生の管理の方法についてはとても重要な視点であり、学ぶところが多かった。さらに、計画的作業といった考え方を全工程に導入した。人材管理という視点においても、社員一人一人に5Sを理解させるようにした。

具体的には、まず原料の保管方法を改善した。ドイツから輸入している原料を5Sを通じて衛生的に適切に保存することで、食品加工のビジネスにおいてもっとも重要である、商品の品質の保持をしている。さらに、コースで学んだ生産プロセスを分析を通じて人材の育成を行い、社員がすべての工程をこなせるように研修を行い、急な不在や欠員にも対応できるような制度に改善した。こうしてコース修了時から商品の製造過程の改善に取り組んだため一定の成果が出ている。会社設立当初は、1日500Lしか生産できなかったが、現在は日に3トンほど、ウランボトル市内の250のバーに生ビールを納品しており、販売率も向上している。競合の大企業もあるが、ビジネスコースの中で大企業と競合したとしても、品質を保持している限りは周

圏の小さな店舗との商売が成り立つことを学び、それを実践している。

販売においても、ビジネスコースで学んだ知識を活用している。社では商品の品質保持のために、販売店での商品の保存保管にも留意している。そのため週一度、納品先であるバーを訪問し、納品後の製品の保存状態などをチェックしている。さらに、ビールづくりのプロセスを知るとは、販売店の人たちの理解の促進と販売意欲の向上につながる。また、バーの店長などを工場に招いて工程を紹介する小規模なスタディーツアーを行った。それを通じて、保存方法や温度の維持の重要性なども伝えることができた。

5Sの実践を通じて、自分も社員も大きく変化している。一番変化したのは、ビールを運搬するドライバーだと思う。食品を運搬するという意識が強くなり、常に車の衛生管理を徹底し、ビールを衛生的に運搬できるよう取り組むようになってきた。

さらに、財務管理の改善も行った。それまで、販売率によって経営状態を確認していたが、詳細な財務管理を通じて利益率を高める努力が必要であることを学んだ。例えば、全体的な利益率が高いとしても、費目によってばらつきが見られることや節約できる費目と絶対にしてはいけない費目があることなどを学び、販売過程の効率化にも取り組むようになった。例えば、以前は、あるバーから納品の依頼があった場合、一つでも対応していた。しかし、燃料や車の時間、人件費やサービスの向上などを考慮して、周囲のバーへの在庫状態を確認するようにし、まとめて配達をするようになった。これらは、コースの講義内容だけでなく、実習におけるグループ活動において（のちのカイゼン協会）相互の経営状態について訪問したり意見交換をするなかで学んだ。こうした実習が含まれていたこともビジネスコースの利点の一つだったと思う。



4種類の麦の品質保持



清潔に保たれた工場内。制服姿の社員

第3章 評価結果

3 - 1 評価5項目ごとの評価

3 - 1 - 1 妥当性

以下の理由により、本案件の実施は妥当であると判断される。

(1) ニーズとの合致

「モ」国では、企業数の約97%がこれらの中小企業であり、その経営者・従業員などを主なターゲットとしてビジネスコースを開催することは、同国の経済成長およびマクロ経済の安定化に直接的に貢献するものである。市場経済化以降、ビジネス研修へのニーズは高いものの、「モ」国内で行われている経営講座やビジネスセミナーの多くがアカデミックな経営理論が中心であり、業務への応用に適していないものであった。MOJCでは、フェーズ1で好評であった実践的な講義内容や指導法を採用しており、ニーズに合致している。

民主化・市場経済化を選択した1990年以降、「モ」国と日本両国の関係が発展し、日本語の学習者数、教師数が増加しており、日本語教育への重要とニーズが高まっている。特に、「モ」国の日本語教育では大学での理論を中心としたものが多かったため、実習を中心としたMOJCのコースへのニーズは高い。また日本語教師養成コースは他にほとんどなく、そのニーズは高い。

相互理解促進分野では、現在までにMOJCの来館者が100万人を超え、図書館の利用者数が年2万人強、登録者数も年2,000人強いることや、定期的、不定期に実施される事業への参加者数の実績から、利用者のニーズに合致していると判断される。

(2) 優先度

事前評価で確認されたように、「モ」国政府は政府行動計画を実施するための「経済成長と貧困削減」を2003年に策定し、その中でマクロ経済の安定と民間セクターの振興は経済成長と貧困削減の重要課題となっている。本プロジェクトは、「モ」国の市場経済化を担う人材の育成をプロジェクト目標の一つとしており、「モ」国政府の重要開発課題に即している。

また我が国の「モ」国別援助計画において、マクロ経済の健全な運営のための制度整備および人材育成を公的、民間の両セクターにおいて支援することが重点分野として挙げられている。また、地域経済格差の是正、環境と両立した持続的な経済成長、外貨獲得産業の振興等経済活動の促進を援助重点分野として位置づけており、本プロジェクトの目的と合致している。

さらにビジネスコースは、日本型経営（5S改善）、品質管理・生産管理、労務管理等のコースが中心となっているが、これらは日本が高度なレベルを保持する比較優位のある分野である。また日本語教師の育成などの日本語教育に関して、「モ」国では理論を中心とした教員養成関連コースが中心であるため、実習を中心とした講義により効果的な教育を提供する日本における支援の優位性は高い。

3 - 1 - 2 有効性

以下の理由により、プロジェクトの有効性は高いと判断される。

(1) プロジェクト目標の達成の見込み

プロジェクト目標の達成の見込みについては、「 2 - 4 」を参照。

(2) 成果の適切性

成果 1 のMOJC運営体制の強化によって、成果 2、3、4 におけるMOJC事業の円滑な実施や現地化の促進が達成されており、成果の間に相互の関係性がみられ、有効性を高めている。

(3) 外部条件の充足

「モ」国政府は、市場経済化および中小企業支援政策を維持している。また、他の関係省庁や大学は、JCCへの参加を通じてMOJC運営に協力している。今後、新規に設立された中小企業庁とは連携も検討されている。さらに、C/P機関であるNUMからの支援を促進するために、2009年5月にNUM学長と経済学部長(C/P、MOJC副所長)が本邦研修に派遣された。

(4) 貢献・阻害要因

プロジェクト目標の達成には、さらにMOJCの実施する事業へのニーズの高さや、MOJCの立地、MOJCの位置づけといったプロジェクトの枠組みの設定の適切さが貢献要因と考えられている。コース内容に関しても口コミでの新規受講者も多く、利用者からの信頼を獲得している。また、図書室機能や新聞やテレビを設置したロビーは非常に好評であり、多くのリピーターを有している。またそうした機能の利用を通じて、MOJCの認知が促進されている。プロジェクト以外では、親日的感情や日本の技術力への信頼がMOJCの事業(特にビジネスコース)の成功に貢献している。

一方、現地スタッフの定着率は部署によっては低く、事業運営に影響を与える可能性がある。しかし、プロジェクトでは頻繁な交代に対応して全部署で運営マニュアルを作成している。また2名が日本への留学のために離職し、留学修了後、統括主任として復職し、留学で得た知識と留学以前からの経験を業務に活用している。

しかし、C/P(NUM)の関与は限定的であり、プロジェクト目標達成に向けて更なる関係性の強化が必要である。また、MOJCのスペースには限りがあり、多目的ホールや教室などが足りないことで、現地化に向けた収益の向上や事業の拡大が阻害されている。

3 - 1 - 3 効率性

以下の理由により、プロジェクトはほぼ効率的であると判断される。

(1) 成果の達成度

成果の達成度については、「 2 - 3 」を参照。

(2) 活動と成果の因果関係

計画された活動はどれも成果の達成に直結している。ビジネスコースではこれまで排出してきた多くの修了生から、フォローアップ支援の必要性が挙げられている。日本とのビジネスを促進するようなサービスの必要性もみられる。一方、日本語コースでは他の教育機関との競合を避けるために、初級コースを開講していないが初級コースへのニーズは高く収益性も高いため開始の検討が期待される。また相互理解促進のための日本文化を紹介する事業についても、更なるサービスを望む声がある。こうしたMOJCの活動内容について、ホームページのコンテンツの改善といった広報の強化の必要性も指摘されている。

(3) 投入の質・量・タイミング

本プロジェクトでは、日本語コース運営専門家は国際交流基金から派遣されてきており、その効率性と専門性が維持されている。一方、ビジネスコースはコース運営専門家が断続的に派遣されており、長期的なコース運営のアドバイスに限界がある。また、多くのコースが短期専門家に担われているが、その派遣までのタイミングの短さが指摘されている。

供与機材については計画通り投入されており、その内容や維持管理に特に問題はみられない。

MOJCのスタッフは、フェーズ1から延べ31名が雇用され、うち19名が現在も勤務中であり、配置に問題はない。スタッフの事業実施能力は向上しているものの、離職率に影響を受けている。一方、フェーズ1から勤務しているものを中心として、MOJCに愛着や誇りをもって勤務しているものも多い。

本邦研修は、C/P、現地スタッフ、ビジネスコースの成績優秀者が派遣されている。2009年度、C/P機関のNUMの学長と、MOJC副所長が、日本理解の促進を目的とした本邦研修に参加し、MOJCへの理解促進につながっている。現地スタッフの本邦研修への参加は、プロジェクトやJICA事業への理解を促進し、MOJCでの業務の遂行能力を向上させている。一方、ビジネスコースでの成績優秀者の本邦研修への派遣は、参加者の能力の向上という研修効果だけでなく、コース参加者のモチベーションの維持につながっている。しかし、その選定プロセスが不明瞭であると指摘がある。

MOJCは、非常に良い立地条件に立てられており、様々な事業を実施する機能を有している。しかし、スペースが十分ではなく、MOJCの事業拡大を難しいものにしている。図書室などの施設に関しても、利用者からスペースの改善の要望が多く挙げられている。

一方、「モ」国側からは、NUM自身が政府からの支援なしに自己資金で運営されていることから、副所長としてのC/Pの配置と光熱費などMOJCの全支出8%が投入されているのみである。守衛の費用は他の学部においてもNUMが支出しているため、今後負担を要請できる項目である。

(4) 貢献・阻害要因

現地スタッフの定着率は、部署によっては低く、事業運営に影響を与える可能性があるため、プロジェクトでは頻繁な交代に対応して全部署で運営マニュアルを作成しており、大きな問題は生じていない。一方、2名が離職して留学修了後統括主任として復職しており、留学で得た知識や留学以前からの経験を業務に活かしている。また、2007年から導入

されたマネージャー制度は、スタッフによる運営能力の向上を促進している。なお、ポストフェーズ2の方向性が明確ではなく、現地スタッフが不安に感じている。また、物価の急激な上昇によって、公務員などの給与が倍増されているなか、スタッフの給与などの雇用条件の改善の必要性も指摘されている。

3 - 1 - 4 インパクト

これまでの活動を通じて、以下のような波効果が生じている。

(1) 経済・社会面への波及効果

MOJCの事業への参加や図書室などの施設の利用を通じて、日本への関心の育成や親日的感情の醸成を推進している。コース内容に関しても、口コミでの新規受講者も多く、利用者からの信頼を獲得している。

またビジネスコースでは、フェーズ1から7期までの修了生が、モンゴルの経済界の中心的な役割を果たすようになってきている。また受講生の半数以上が女性であり、女性のビジネスへの参入を通じた経済的エンパワーメントを促進している。

(2) その他の波及効果

ビジネスコースでは、第二期の卒業生が中心となって「カイゼン協会」を設立し、自主的に修了生が参加しているが、2008年度の7期生は全員が加入した。カイゼン協会は、コースの地方セミナー実施の支援やJICAとのコストシェアリングによるメンバーの本邦研修の実施といったフォローアップについて、ビジネスコースとの連携や支援を行っている。カイゼン協会員以外の修了生たちも、終了後、社員へコースで習得した技術を紹介やのちのコースに社員を参加させるなど、MOJCで得た技術の普及に貢献している。また獲得した技術を積極的に日常の業務に適用している（BOX3～5を参照）。

日本語コースでは、日本語教育シンポジウム、毎月1回の日本語教育研究会例会、日本語教師会との共催でのスピーチコンテストの実施などを通じて、モンゴル日本語教育支援・推進・連携拠点としての役割を果たしている。さらに、モンゴルの日本語教育の様々な知識や情報が集まる総本山的な位置づけともなっている。近隣の学生たちは日本語コースへの参加や図書室の利用などを通じて、MOJCからの便益を受けている。

負の影響は特にみられない。

3 - 1 - 5 自立発展性

自律発展性については、以下のような取り組みや課題がみられた。

(1) 政策・制度的側面

「モ」国側の関係者からはMOJCの機能の有効性が確認されている。特に、C/PであるNUMの学長やMOJC副所長はその機能と有効性を評価しており、将来的にNUMから所長を任命する考えも有している。MOJCは、NUMの独立した付属機関であると学長令による「定款」に定められている。しかし、財政面の確保に関してはオーナーシップは醸成されておらず、財源が確保されていない。

(2) 組織面

スタッフの配置に関しては、現在配置されているスタッフが将来的にも継続して勤務する場合、その能力や配置場所に問題はない。特に、統括主任と主任の一部は高い運営管理能力を有しており、マネージャー制度の導入によって、その自主的運営体制が確立されてきている。しかし、プロジェクト終了後、「モ」国側の予算によるスタッフの配置は極めて困難である。

(3) 財政・事業面

MOJCの自己収入額は増加してきているものの、目標金額（現地での支出の40%）には達しておらず、更なる自己収入源の発掘が必要である。現地化の促進によって更なる自己収入の増加の必要性はスタッフ間で共有されており、2009年度から受講料の見直しが行われた。今後も新コースの設定、収益性の高い事業の拡大などの取り組みが実施、もしくは計画されており、収入増加が期待されている。自己収入額を増幅させる取り組みとして「モ」国側より提案されている貯蓄資金の定期預金化は検討中である。

日本の関係機関との連携は促進されている。特に、上記の自己収入額の増加を促進するために受託事業の増加とそのための現地スタッフの能力向上が必要である。

(4) 技術的側面

現地スタッフの能力は強化されてきている。マネージャー制度の導入によって統括主任と主任の一部は高い企画運営管理能力を有するようになってきている。その他のスタッフについても底上げされており、プロジェクト終了までに更なる能力向上が期待されている。現地スタッフはMOJCへの継続的勤務を通じて、強いコミットメントをもつようになっている。そのため、プロジェクト終了後も継続した勤務を希望しているものも多いが、そのための待遇や体制の整備は必要である。

現地講師については、日本語コースについてはほぼ現地化が達成されつつある。一方、ビジネスコースに関しては候補者が選定され、実務を通じた養成が始まったばかりである。企業診断を担う現地コンサルタントについても同様であり、プロジェクト終了までに能力向上に向けて今後更なる取り組みが計画されている。

各コースで開発された教材に関しては、プロジェクト終了後も使用される可能性がある。しかし、定期的な見直しや加筆・訂正の方法について、その予算や担当者の能力について、検討する必要がある。

MOJC事業実施を通じて他の機関との連携は強化されているものの、今後も継続した取り組みが必要である。

一方、供与機材に関してはフェーズ1から継続勤務しているスタッフを中心として維持管理が適切に行われており、継続が可能であると考えられる。

(5) 貢献・阻害要因

MOJCの機能の持続には、これまでに養成されてきた現地スタッフと現地講師の貢献が大きいと考えられる。彼らが継続して勤務し、さらに能力を向上させることがMOJCの持続性の強化につながると考えられる。

また、C/P機関でのNUMとの連携が弱いため、今後教員との交流の促進といった関係性の強化のための取り組みが不可欠である。

3 - 2 結 論

MOJCは、ウランバートル市の中心に位置するスフバートル広場および政府宮殿の隣にあるNUMの一角に位置し、国内大手旅行誌の地図にも記載されるなど、日本と「モ」国とを結ぶ代表的な施設としてのビジビリティは高い。また、市の中心にあることから市民のアクセスもよい。2009年7月に、開所以来の来館者数がウランバートル市民数に匹敵する100万人を突破するなど、広くモンゴル国民に根付いた活動を行っている。スタッフのほぼ全員が日本語を理解し、来館者への対応マナーも良く、ビジネスや日本語コースの質も高いことから、「モ」国にしながら日本を体験できる貴重な場所となっている。

ビジネスプログラムでは、通常コースと呼ばれる延べ5週間の中小企業診断指導コースに加え、特定テーマを短期で教える、入門コース、特別コース、専門コースおよび地方セミナーやIT/PCコースも提供し、多様化するモンゴルのビジネス界のニーズに対応している。今フェーズに入ってから受講者数も既に5,500名を超えている。通常コースの卒業生が結成したカイゼン協会は自分たちの企業の経営改善のみならず、他の中小企業にもカイゼン活動を広めていきたいとの意欲をみせ、日本センターの技術協力の面的拡大の可能性が芽生えている。また、日本語教師を育成する組織が限られている「モ」国においては、実質MOJCがその役割を果たしており、また日本語教師会、日本語教育研究会において中心的役割を果たすなど、「モ」国における日本語教育の総本山として機能している。

しかし、将来的な自立発展に向け、NUMとの関係強化と財務的自立に課題が見られる。NUMとの関係強化のためには、日本の大学との学術交流や留学支援、企業への就職支援が考えられる。また、将来NUMから所長を配置するための共同所長化も考えられる。また財政的自立を促進するために、ビジネス、日本語コースの受講料や施設貸与料の見直し、比較的空間に余裕がある時間帯（昼間）でのコースの導入、受託事業の拡大等が考えられる。これらを実現するために現在行っている事業の見直しが必要である。

第4章 提言と教訓

4 - 1 提言

4 - 1 - 1 NUMとの人的交流・連携活動の拡大

- (1) MOJCがNUMにとってメリットのある活動を行うことを通じ、関係性の強化を図る。
例えば、日本の大学との間の、学术交流や学生間交流の斡旋、学生向け就職フェア、日本留学フェア等の取り組みが挙げられる。
- (2) MOJCは「モ」国側と日本側の共同経営により運営される機関であるため、運営管理、財政基盤の強化、事業内容等の経営全般について、両方で協議しながら進める。
- (3) 将来的にNUMから所長が配置されることが望ましいので、それに向け、まずは早期に共同所長体制に移行するため、役割・責任について明確にする。
- (4) R/Dに記載されているプログラム・アドバイザーの配置が実現されていないため、実現のための方策を大学との間で協議する。

4 - 1 - 2 財政基盤の強化のための取り組み

共同経営者として「モ」国側の負担を求めていくものの、NUMは各学部も独立採算で運営されており、大学からのMOJCに対する予算措置を期待することは現時点で困難であるという現状も踏まえ、独立採算により自立的に運営できる体制に向けて更なる努力の必要がある。具体的には以下のとおり。

- (1) 受講料・施設使用料は2009年度当初に見直しを行っているものの、受講生からは内容の質の高さから、より高くても受講の価値があるとの意見もあった。上記の独立採算で運営する体制を念頭に、更なる見直しを行う必要がある。
- (2) 収益性を考慮したコースの見直しを行う。
- (3) 既に取り組みを開始している受託事業について、体制を整備し、拡充する。同時に、既存の共催事業で過度の負担となっている事業については、効率性と収益性の観点から負担の軽減のための整理、方法の見直しを行う。

4 - 1 - 3 活動スペースの確保

活動スペースの不足が各関係者から指摘されており、既存の施設の増築や別施設の建設のアイデアが挙げられてきたが、技術的問題があったり、時間がかかったりするために少なくともフェーズ2中には確保することが困難である。特定の時間帯にはこれ以上活動を拡大できないのは事実であるが、まずは午前中の空いている時間を活用するなどの工夫を行う必要がある。

4 - 1 - 4 モニタリング体制の改善

各コースの実施後に、受講者へのアンケート調査が実施されている一方で、アンケート結果の集約や十分な活用を行うシステムが不十分である部分があるため、よりニーズに即した効果的な事業実施のためモニタリングシステムの改善が求められる。また、ターゲット層のニーズ調査に基づくコースの企画や修了生のフォローアップ調査によりコースの成果を把握し、次の計画にフィードバックする体制を強化する必要がある。

4 - 1 - 5 ビジネスコース内容の見直し

ビジネスコースのコース設計について、2008年度から一部変更している（具体的には、特別コース、専門コースの設置）がその結果のレビューを行い、必要に応じて見直しを行う。見直しの結果を2010年度のコース計画に反映するため、2009年12月までにコース内容を確定する。

また、あわせて現在開始している日本人講師との共同講義を通じた通常コースにおける現地講師育成の取り組みを一層促進し、各科目において現地講師で実施可能な講義のコマの割合を増加させる。さらに、特別コース等について現地講師を積極的に活用する。

4 - 1 - 6 日本語コース現地講師の育成

日本語コースは、既にモンゴル人常勤スタッフ（4名。講師を兼ねる）による運営が行われているが、MOJCがモンゴル日本語教育界の核として機能していくために更なる育成をめざし、以下を実施する。

- （1）現地スタッフの勤務時間に占める担当授業数を増やす。
- （2）現地スタッフのモンゴル日本語教師会の研究部会への参加を推奨する。

4 - 2 教 訓

- （1）事業の方向性について、C/P機関、プロジェクト、JICAとの間で共通認識を形成する時期が遅れた。これは本部からの調査団派遣が長期にわたり行われていなかったこともあり、対話が不足していたことが原因である。
- （2）ビジネスコース運営管理専門家の派遣期間が十分でなく、コース全体の統括を行うことが困難であった。

付 属 資 料

- 1 . M/M
- 2 . PDM0
- 3 . 評価グリッド
- 4 . 投入実績
 - 4 - 1 . 専門家派遣実績
 - 4 - 2 . 現地スタッフ雇用実績
 - 4 - 3 . 本邦研修実績
 - 4 - 4 . 機材リスト
- 5 . 活動実績
 - 5 - 1 . ビジネスコースの実績 1 (ビジネス)
 - 5 - 2 . ビジネスコースの実績 2 (IT/PC)
 - 5 - 3 . 日本語コースの実績
 - 5 - 4 . 相互理解促進事業実績
- 6 . 成果の達成度
- 7 . MOJC組織図

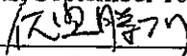
MINUTES OF MEETING BETWEEN THE JAPANESE
MID-TERM REVIEW TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF
THE GOVERNMENT OF MONGOLIA
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
"THE MONGOLIA-JAPAN CENTER
FOR HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT PROJECT (Phase II)"

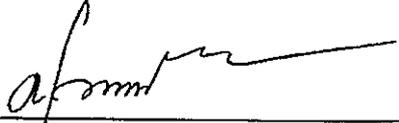
The Japanese Mid-term Review Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") headed by Mr. Katsutoshi FUSHIMI, visited Mongolia from August 12 to 18 and August 26 to September 11, 2009, and had a series of discussions with the authorities concerned of the Government of Mongolia (hereinafter referred to as "GOM") for the purpose of conducting the mid-term review concerning the Japanese Technical Cooperation on the Mongolia-Japan Center for Human Resources Development Project (Phase II) (hereinafter referred to as "the Project").

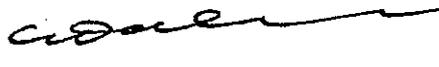
During its stay in Mongolia, the Team also had a series of discussions with the Mongolia-Japan Center for Human Resources Development (hereinafter referred to as "MOJC") and exchanged views on the achievement of the Project to fulfill the Record of Discussions signed on January 19, 2007.

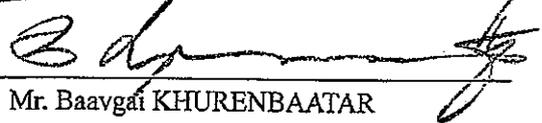
Based on these discussions, the Team and GOM exchanged views on the mid-term review and future directions of cooperation in the Project, and both sides agreed upon the matters referred to in the document attached hereto.

Ulaanbaatar, September 10, 2009


Mr. Katsutoshi FUSHIMI
Leader, Japanese Mid-term Review
Team, Japan International Cooperation
Agency, Japan


Mr. Mijid BAASANJAV
Director, Department of Higher and
Vocational Education,
Ministry of Education, Culture and Science
of Mongolia


Dr. Suren DAVAA
President,
The National University of Mongolia


Mr. Baavgai KHURENBAATAR
Director General, Development Financing
and Cooperation Department,
Ministry of Finance of Mongolia

(Attached)

Mid-term Review Report
For
THE MONGOLIA-JAPAN CENTER
FOR HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT PROJECT
(Phase II)

September, 2009

The Mid-term Review Team



1
BA
CD

TABLE OF CONTENTS

1. Outline of the Review
 - 1-1. Objectives
 - 1-2. Methodology of the Review
 - 1-3. Members of the Team
 - 1-4. Schedule of the Review

2. Outline of the Project

3. Achievement of the Project
 - 3-1. Input
 - 3-2. Progress of the Activities
 - 3-3. Achievement of the Outputs
 - 3-4. Achievement of the Project Purpose

4. Evaluation
 - 4-1. Relevance
 - 4-2. Effectiveness
 - 4-3. Efficiency
 - 4-4. Impact
 - 4-5. Sustainability

5. Conclusion and Recommendations
 - 5-1. Conclusion of the Evaluation
 - 5-2. Recommendations

(ANNEXES)

- ANNEX 1: PDM
- ANNEX 2: Evaluation Grid
- ANNEX 3: Performance of the Input
- ANNEX 4: Organizational Chart
- ANNEX 5: Record of Business Course Activities 1 (Business)
- ANNEX 6: Record of Business Course Activities 2 (IT/PC)
- ANNEX 7: Record of Japanese Language Course Activities
- ANNEX 8: Record of Mutual Exchange Activities

Handwritten mark

Handwritten signature

2
Handwritten signature

1. Outline of the Review

1-1 Objectives

The Project was initiated in January 2007 and will be completed in January 2012. The purposes of the mid-term review were as follows:

1. To review and confirm the achievements and the implementation process of the Project, as indicated by documents such as the Record of Discussions (R/D) and the Project Design Matrix (PDM, Annex 1).
2. To evaluate the activities and achievement in terms of five evaluation criteria, namely relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability, and discuss them.
3. To clarify issues and recommendations with both the Project and the Mongolian authorities based on the discussion, and exchange views on the project activities planned for the second half of the Project term.
4. To revise the PDM, if necessary.
5. To compose the Mid-term Review Report based on the discussion and exchange the minutes of meetings (M/M) based on the results of the evaluation.
6. To clarify the responsibility, expectation, and achievements of MOJC based on the review, and exchange views on the activities and framework of MOJC among GOM and Japanese side.

1-2 Methodology of the Review

1-2-1 Procedure

According to the JICA Evaluation Guidelines, the methodology and procedure of evaluation are as follows:

- 1) Set up evaluation questions and make the Evaluation Grid (See Annex 2), based on the review of the documents related to the Project,
- 2) Understand the implementation processes, and collect the monitoring data and relevant information through questionnaire and interview,
- 3) Evaluate the Project based on five evaluation criteria (Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact and Sustainability),
- 4) Discuss the findings.

1-2-2 Points for the evaluation

Achievement level and Implementation Process of the Project

The achievement levels in terms of Inputs, Activities, Outputs, and Project Purpose were assessed in comparison with the PDM and the actual progress of the Project. The implementation process of the Project was also confirmed from the various viewpoints such as monitoring and communication.

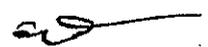
Evaluation Criteria

In addition to verification of achievement level and implementation process of the Project, the mid-term review assesses the Project from the following five evaluation criteria.

- (1) Relevance: An overall assessment of whether the project purpose and overall goal are in



3



- line with policy of both sides and with partner country's needs.
- (2) Effectiveness: A measure of whether the project purpose has been achieved. This is then a question to the degree to which the outputs contribute towards achieving the intended project purpose.
- (3) Efficiency: A measure of the production of outputs (results) of the Project in relation to the total resource inputs.
- (4) Impact: The positive and negative changes, produced directly and indirectly as the result of the Project.
- (5) Sustainability: An overall assessment of the extent to which the positive changes achieved by the Project can be expected to last after the completion of the project.

1-3 Members of the Team

The Team consists of the following members.

(1) Katsutoshi FUSHIMI	Team Leader	Director, Japan Center Program Division, Governance Group, Public Policy Dept, Japan International Cooperation Agency, Tokyo
(2) Tatsuya NAKAGOME	Japanese Language Course Evaluation	Language Education Specialist, Japanese-Language Institute, Japan Foundation, Kansai
(3) Sachi TAKAHASHI	Japanese Language Education	Sakura Network Section, Teacher and Institutional Support Dept, Japanese-Language Group, Japan Foundation, Tokyo
(4) Rie SATO	Evaluation Planning	Deputy Assistant Director, Governance Group, Public Policy Dept, Japan International Cooperation Agency, Tokyo
(5) Mariko HOMMA	Evaluation Analysis	Consultant, INTEM Consulting Inc., Tokyo

1-4 Schedule of the Review (12th – 18th August, and 26th August to 11th September 2009)

The review was conducted as follows.

(1) 12th – 18th August by Nakagome and Takahashi

Date	Week	Time	NAKAGOME and TAKAHASHI
12 th Aug	Wed	22:40	Arrival at Ulaanbaatar (OM502)
13 th Aug	Thu	10:00-10:45	Visit and Briefing at MOJC
		11:00-12:30	Briefing about Japanese Language Education in Mongolia by Japanese expert
		14:10-14:40	Meeting with Vice Director of MOJC
		15:00-15:30	Observation of Japanese Class (Delgermar)
		15:45-16:15	Interview with participants (RAKURAKU Kanji)
		16:30-17:00	Interview with Section Chief of Japanese Language Course
		17:15-17:45	Interview with part-time lecturer of Japanese Language Course
14 th Aug	Fri	10:00-11:00	Interview with Mongolian Japanese Language Education Association

4

ml

afm *SD*
ca

		11:30-12:00	Interview with part-time lecturer of Japanese Language Course
		12:15-14:30	Lunch meeting with part-time lecturers
		15:00-16:30	Meeting with JICA Office
		17:00-17:30	Interview with staff of Japanese Language Course
		17:40-18:10	Interview with participants (WAKUWAKU Kanji)
		18:20-19:20	Meeting with Japanese expert of Japanese Language Education
15 th Aug	Sat	12:00-13:00	Lunch meeting with JOCV of Japanese Language Education
16 th Aug	Sun		Data analysis
17 th Aug	Mon	10:00-11:20	Observation of Japanese Class (Class of Japanese Language Teaching)
		15:30-16:30	Visit to Japanese Embassy
		17:00-18:00	Reporting of the result to MOJC
12 th Aug	Tue	6:20	Leaving Ulaanbaatar to Tokyo

(2) 26th August to 11th September 2009 by Fushimi, Sato and Homma

Date	Week	Time	HOMMA	FUSHIMI	SATO
26 th Aug	Wed	17:40	Arrival at Ulaanbaatar (OM502)		
27 th Aug	Thu	9:30-11:00	Briefing by JICA		
		11:00-12:30	Visit and Briefing at MOJC		
		14:00-20:00	Interview with Japanese Experts (Director, Coordinator, Japanese Course Management)		
28 th Aug	Fri	10:00-11:00	Meeting with Vice Director of MOJC		
		11:30-12:30	Interview with MOJC Staff (Project Manager)		
		14:00-19:00	Interview with MOJC Staff (Project Manager, Section chief of Japanese Language Course, Library)		
29 th Aug	Sat		Data analysis		
30 th Aug	Sun		Data analysis		
31 st Aug	Mon	10:00-11:30	Interview with MOJC Staff (IT/PC Course)		
		12:00-13:30,	Interview with Japanese Expert (Business Course Management)		
		14:00-15:30			
		16:00-17:30	Interview with MOJC Staff (Japanese Language Course, Mutual Exchange Activities)		
1 st Sep	Tue	10:30-12:00	Interview with Course Graduates (IT/PC Course)		
		14:00-16:00	Interview with Course Graduates (Japanese Language Course)		
2 nd Sep	Wed	10:00-12:00	Interview with Course Graduates (Business Course)		
		14:00-18:30	Visit to the Business Course Graduates (Khugjil trade, Brigde)	Arrival at Ulaanbaatar (OM502)	
3 rd Sep	Thu	9:30-12:30	Meeting with JICA, Japanese experts and the Project Staff		

14

rfm

5
SD
ca

		14:00-17:00	Visit and Briefing about MOJC
		17:00-18:00	Meeting with Vice Director of MOJC
4 th Sep	Fri	9:30-10:30	Meeting with Director of NUM
		11:30-12:00	Meeting with Ministry of Finance of Mongolia
		14:30-20:00	Team Meeting
5 th Sep	Sat	AM	Team Meeting
		PM	Data Analysis and Report Writing
6 th Sep	Sun	AM	Report Writing
		PM	Team Meeting
7 th Sep	Mon	10:00-11:00	Meeting with Ministry of SMEs
		14:00-16:30	Interview with KAIZEN Association
		17:00-18-30	Visit to the Business Course Graduates (Chinggis beer)
8 th Sep	Tue	10:00-11:00	Discussion on Draft of MM
		PM	Discussion and Revision on Draft of MM
9 th Sep	Wed	AM	Delivery of the Final Version of MM
		16:00	Meeting with EBRD-BAS program Office
10 th Sep	Thu	10:00	Signature on MM (GOM and the Team)
		11:00	Report to JICA Office
		15:00	Report to Japan Embassy
11 th Sep	Fri	0:20	Leaving Ulaanbaatar to Tokyo (KE868, KE)

2. Outline of the Project

The Project has been carried out since January 2007. The expected Overall Goal, Project Purpose and Outputs written in the PDM are as follows:

Overall Goal:

1. Human resource development contributing to the market economy in Mongolia will be promoted
2. Mutual understanding between the two countries will be promoted

Project Purpose:

The function of MOJC, which are 1) to contribute to human resource development of Mongolia towards a market economy, 2) to promote mutual understanding between the people of Mongolia and Japan, will be strengthened

Outputs:

1. MOJC will be managed effectively and efficiently by strengthened management and monitoring system
2. Business courses will be offered to provide practical knowledge and skills to meet the needs of small and medium sized industry with the involvement of larger number of local lecturers

ll

afmt

SA

cd

3. Japanese language courses will be offered to meet the needs of Japanese language teachers and to expand business opportunities for the society
4. The exchange activities on various fields (economy, society, and culture etc) between both Mongolia and Japan will be strengthened

3. Achievement of the Project

3-1 Input

Inputs have been done nearly as scheduled as follows.

3-1-1 Inputs from the Japanese Side

Dispatch of Japanese experts

The following numbers of experts were dispatched and assigned. Refer to Annex 3-1 for detail information.

- Six Japanese long-term experts as Director, Coordinator and Japanese Language Course Management.
- Twenty-six Japanese short-term experts on Business Course Management, Japanese Management, Quality Control, Management Strategy, Business Planning, Marketing, HACCP, Japanese Language Education Symposium, and so on.

Employment of Mongolian staff

The accumulated number of assigned Mongolian staff for MOJC management is thirty since the 1st Phase started in 2002. Nineteen of them have still been working for the center. Refer to Annex 3-2 for detail information.

Provision of equipment

The amount of the provision of equipment made by the Project has been about US\$ 138,000. The Equipment includes the facilities of the center, such as, computers, projectors, a DVD camera, a telephone, a TV, etc. Refer to Annex 3-3 for detail information.

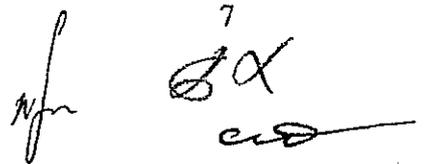
Training in Japan

To date, 2 counterparts, 4 MOJC staff and 10 course graduates were sent to Japan for training. Refer to Annex 3-4 for detail information.

Local cost allocated by Japanese side

Local cost allocated by JICA for the implementation of the Project activities is 647,108 US dollars as of the end of June, 2009. Budget includes salary for MOJC staff, costs of administration of MOJC, implementation of Business training courses, Japanese Language courses, and mutual exchange activities.

3-1-2 Inputs from the Mongolian Side



GOM has assigned Director of School of Economic Studies of The National University of Mongolia (NUM) as a Vice Director of MOJC. NUM contributed to the maintenance of MOJC, such as electricity fee, water bill, heating fee and sanitary fee.

3-2 Progress of the Activities

The Project activities have been implemented according to the PDM. Refer to 3-3 Achievement of Outputs for the detail.

3-3 Achievement of the Outputs

The achievement level of each Output is shown below.

Output 1:	MOJC will be managed effectively and efficiently by strengthened management and monitoring system
-----------	---

Indicators:	<ol style="list-style-type: none">1) Annual JCC meetings to be held2) Monthly MOJC meetings to facilitate communication between three programs3) Annual operational, financial, and organizational plans to be formulated, implemented, monitored and revised quarterly4) Staff training plan of MOJC5) No. of joint activities combining business including IT, Japanese language and mutual understanding activities6) Types and no. of publicity works contributed to increase of the number of participants or the improvement MOJC activities7) The website to be updated every month8) No. of access to the website
-------------	--

Activities to achieve Output 1 have generally been conducted as are planned. The management system of MOJC was improved and the operation has been conducted effectively. JCC meetings were held to share the MOJC's achievements and annual plan with participants from GOM, NUM and GOJ in May every year. Instead of monthly meeting, weekly meetings among Japanese experts, C/P, national staff are held to share weekly plan and discuss issues. Manager system, such as assignment of general managers and sector chiefs, was introduced to strengthen the management of the national staff (Annex 4: Organizational Chart)

The collaborations with other sections have been growing up. For example, Business program section organizes Japanese Tourist Guide Course by the collaboration with Japanese Language section, and exchange activities section and Japanese Language section organized seminar in local cities (Cinema class, ORIGAMI class, and Japanese Monthly Examination).

Publicity of MOJC is enhanced through website of MOJC, advertisement on newspaper, mailing list, TV and Radio program, poster, annual report, brochure and mail magazine. Each program also provides information on the recruitments of participants of newly opened courses through these media. The website is updated monthly and provides information about courses and activities, and management of MOJC.

u:

afm

8
BA
CD

Output 2: Business courses will be offered to provide practical knowledge and skills to meet the needs of small and medium sized industry with the involvement of larger number of local lecturers

- Indicators:
- 1) Annual implementation policy and course plan to be formulated and implemented as scheduled
 - 2) Improved monitoring system
 - 3) No. of participants by region/sector/title, etc.
 - 4) No. of participants who completed full course
 - 5) % of fulfillment of course completely
 - 6) Satisfaction level of participants
 - 7) No. of improved courses and teaching materials
 - 8) No. of identified and trained local lecturers
 - 9) No. of business courses cooperated and consulted with other aid organizations
 - 10) No. of courses initiated and implemented by local staff
-

Activities to achieve Output 2 have generally been conducted as are planned. For the detail information, refer to Annex 5. Business Program provides services through Small and Middle sized business advisory course (Regular course), Special courses, Extra courses and Individual advisories. The number of participants to these courses is 3,648 so far. In addition, Business IT/PC course served to 2,080 persons (121 persons in IT course, 1,959 persons in PC course. MOJC also provide PC training to 90 elementary school students as an introduction of Japanese Culture.

Small and Middle sized business advisory course is the core of the business program and it provides Japanese business management skills to directors and managers of small and middle sized business for about seven weeks. Each year, about 50 persons participate in the course and 83% of them in average completed the course. According to the questionnaire to the graduates, 90 % of them were satisfied with the contents. The companies managed by the graduate are selected and provided individual consultation. In 2009, eight companies were selected to be model companies.

It also provides Local seminars in Erdenet city and Introduction seminars. Since 2008, Special course for the graduates of Small and Middle sized business advisory course has started to follow up their needs. Extra courses include short-term courses and seminars covering specific fields and theme, such as HACCP. Seminars on Business Planning in collaboration with ex-JBIC (JICA), and others with JETRO and EBRD have also been held. Several seminars were conducted in commemoration of the 5th anniversary of MOJC in 2007.

All these activities are planned annually by Japanese Experts and general manager of Business program, and implemented based on the plan.

Daily management of the courses is conducted by national staff independently. The skill and responsibility of the staff have increased. Every course is monitored through questionnaire to the participants and refer the feedback to the future activities. However, monitoring has only been conducted on a case by case basis and systematic monitoring system has not been established yet.

Currently, lectures are mainly provided by Japanese short-term experts. However, local lecturers are also to be developed in order to improve the sustainability of the MOJC. Nine persons such as

14

9
BIC
cu

9
BIC
cu

teachers of NUM faculties, general manager of MOJC, and others including graduates of the Small and Middle sized business advisory course were selected, and three of them were sent to training in Japan. Some courses are scheduled to start to be lectured by in collaboration with both Japanese and local lecturers. The figure of the achievement is limited, however, it will increase.

All of the PC courses are managed by national staff and conducted by local lecturers. It is also independently managed financially.

Output 3: Japanese language courses will be offered to meet the needs of Japanese language teachers and to expand business opportunities for the society

- Indicators:
- 1) Annual implementation policy and course plan to be formulated and implemented as scheduled
 - 2) Improved monitoring system
 - 3) No. of participants by region/profession/aim, etc.
 - 4) No. of participants who completed full course
 - 5) % of fulfillment of course completely
 - 6) Satisfaction level of participants
 - 7) No. of improved courses and teaching materials
 - 8) No. of identified and trained local lecturers
 - 9) No. of courses initiated and implemented by local staff
-

Activities to achieve Output 3 have been conducted as are planned. For the detail information, refer to Annex 6. Japanese Language Program provides Regular course, Short-term session, One-day introduction session, and Implementation of Monthly Examination.

Regular course includes only teachers training courses on Japanese Language Education in Mongolia. It also provides courses on Business Japanese language, learning Japanese through cinemas and news papers, Kanji, Japanese language for IT, preparation for Japanese Language Examination. 1,393 persons participated in the courses and about 67 percent of them completed the courses. According to the questionnaire to the participants, 85 percent of them answered to be satisfied with the courses. Several seminars were conducted in commemoration of the 5th anniversary of MOJC in 2007. 96.6 percent of the participants are from Ulaanbaatar. It, however, provides services to the people outside of Ulaanbaatar through radio and TV program, books and DVDs.

All these activities are planned annually by Japanese Expert and discussed with national staff, and then implemented based on the plan. Daily management of the course is conducted by national staff independently. The skill and responsibility of the staff has increased. Every course is monitored through questionnaire to the participants and refers the feedback to the future activities in the management meeting held at the timing of beginning and closing of every semesters (autumn from September to December, spring from February to May, and summer from July to August).

Four national staff and seven temporary local lecturers teach at classes. 86.7 percent of classes (3,021.5 hours among 3,485 hours in total) were lectured by these local lecturers.

Output 4: The exchange activities on various fields (economy, society, and culture etc) between

u

afm Bg

both Mongolia and Japan will be strengthened

- Indicators:
- 1) Annual implementation policy and course plan to be formulated and implemented as scheduled
 - 2) Improved monitoring system
 - 3) No. of mutual understanding activities initiated and implemented by local staff
 - 4) No. of participants (both Mongolian and Japanese) for mutual understanding activities
 - 5) Satisfaction level of visitors and participants
 - 6) No. of participants by region
 - 7) No. of visitors of the library
-

Activities to achieve Output 4 have been conducted as are planned. For the detail information, refer to Annex 7. As many as 4,518 persons were counted as participants of these activities in total. Unfortunately, Japanese participants and participants from outside of Ulaanbaatar are still limited because of the number of Japanese residents and un-easy access to the capital from local cities.

The library and lobby is widely recognized as an ideal place for studying, reading books, searching information through internet, watching DVDs among students and learners. The number of visitors to the library has reached to 51,644 persons in total since the 2nd Phase of the Project started.

Exchange activities, such as Open Seminar, ORIGAMI class and Cinema class are offered periodically. MOJC also rent its facility to other organizations, such as NGOs and Universities, when they organize Japanese and Mongolian exchange activities. It also accepts consignment activities from Japanese organizations for its income generation.

All the mutual exchange activities are planned annually and implemented by national staff. The library is also managed by only national staff. Every activity is monitored through questionnaire to the participants and referred the feedback to the future activities. However, it has only been conducted on a case by case basis and systematic monitoring system has not yet been established.

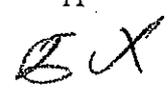
3-4 Achievement of the Project Purpose

The function of MOJC, which are 1) to contribute to human resource development of Mongolia towards a market economy, 2) to promote mutual understanding between the people of Mongolia and Japan, will be strengthened

The major outputs have been produced and the Project activities are to be achieved according to the fulfillment of the indicators. In order to reach the purpose, financial sustainability and networking needs to be strengthened.

MOJC has been widely recognized. The number of the visitors to MOJC since its establishment has reached to the same figure of population of Ulaanbaatar (over one million), and many training courses and activities have been implemented with full number of the participants. Many participants answered as being satisfied with the courses and activities. The library and lobby are widely considered as an ideal place for reading and studying among students and learners. MOJC also tries to expand its services outside of Ulaanbaatar through implementation of local seminar in Erdenet city, and TV program to meet the needs of local residents.



11



Localization of MOJC's management and its activities has also developed through enhancement of responsibility of the national staff and capacity development of local lecturers. The rate covered by the local lectures has been increasing. Introduction of manager system, such as assignment of general managers and sector chiefs, has also strengthened the management of the national staff. Unfortunately the assignment of Program Advisor which is mentioned in R/D has not been materialized. However, some local lecturers are selected from the faculty of NUM and further involvement of NUM is expected.

Regarding financial sustainability, 18.92 percent of the operational cost of MOJC has been covered by the income from course fee and earning from other activities, such as facility rental and adoption of consignment activities.

There are also collaborative activities with development organizations. The Business course conducted a seminar collaborated with two-step loan program (by ex-JBIC) and provided practical consultation to about a hundred of companies which were financed by the two-step loan assistance. The Business section also implemented activities in collaboration with other organizations, such as UNDP and EBRD-BAS. Japanese Language section also collaborated with other organizations, such as Japanese embassy, Municipality of Ulaanbaatar City, TV and Radio broadcasting organization. Further effort is to be provided to secure the achievement of the Project purpose.

BOX 1 Number of visitors to the Center since the 1 st Phase (until the end of March 2009)								
Fiscal year	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	Total
Person	37,937	91,916	126,106	150,155	172,276	185,498	181,187	945,075*(person)

**The figure has already climbed over one million in end of June 2009.*

4. Evaluation

4-1 Relevance

The Team concluded that the Project remains highly relevant.

Relevance of the Project for the GOM's policy

GOM established the 'Economic Growth Support Poverty Reduction Strategy, and has been implementing various policies to promote economic growth and to reduce poverty since 2003. In the Strategy, GOM indicates that the primary basis for ensuring pro-poor economic growth is the macro-economic stabilization, and places this as one of its priority goals.

Relevance of the Project for JICA Country Assistance Strategy

According to the assistance strategy, JICA has focused its assistance on institutional development and human resource development for macro-economic management both in public and private sector. Adjustment of regional gap, sustainable economic development and enhancement of economic activities for acquisition of foreign currency is also listed as focused fields.

Relevance of the Project for the target areas

64

afmt BD

In Mongolia, 96 percent of enterprises are in the middle or small sized. Many of them manage their business based on limited experience and knowledge. Therefore, there is high need for training on business skills. Based on the experience during the first phase of the Project, MOJC provided training to face the needs of the Mongolian people. At the same time, there is also high need to the follow-up activities for the graduates whose number has already reached to 350.

Regarding Japanese Language education, there is limited organization which provides practical language training although there are strong needs for it. MOJC is the only organization which trains Japanese Language teachers and is considered as the core of Japanese education and Japanese teachers training in Mongolia. At the same time, there is high need for the beginners' class which has not been implemented in order to avoid competition with other Japanese language schools.

The number of visitors, which has reached over one million, proves the high needs for the activities of MOJC in Mongolia.

4-2 Effectiveness

The Team judges the effectiveness of the Project implementation is high.

Contribution of the Outputs to the Project Purpose

The Project purpose is to be achieved through the achievement of Output 2, 3, 4. The implementation of the activities related to Output 2, 3, 4 has been strengthened through the achievement of Output 1.

External Factors

Supports from other organizations, such as related ministries, universities and development organizations, have been maintained through participation in Joint Coordination Committee and collaboration activities. Development of local lecturers is also expected to establish the network with other organizations.

Enhancing and Hindering Factors to Achieve the Project Purpose

Strong commitment of national staff is judged as an enhancing factor to achieve the Project purpose. Positive feeling and attitude to Japanese people and Japanese culture can also be counted as an enhancing factor.

Limited mutual exchange between MOJC and NUM can hinder the achievement. Frequent replacement of staff can also affect the implementation of the Project activities.

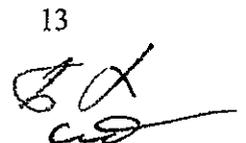
4-3 Efficiency

The Team judges the efficiencies of the Project implementation is modest to high.

Causal relationships between inputs and activities

All the activities implemented are related to achievement of outputs. Some activities, however, are needed to be conducted for the further efficient achievement, such as follow up activities for the graduates of the Business courses, beginners' class for the Japanese Language program and expansion of publicity of these courses.



13


Dispatch of the Japanese experts

A long-term expert on Japanese Language course management has continuously been provided by the Japan Foundation on its cost. It, therefore, is judged as an efficient input. On the other hand, experts on Business course management were assigned only for short-term, which prevents continuous management of the course.

Assignment of the national staff

National staff is assigned properly so far, regarding the number and ability. Through OJT, capacity of the MOJC national staff has been improved generally. At the same time, 11 among 30 staff who have been employed since the 1st Phase started left the MOJC. In order to cope with such frequent or sudden replacement of staff, management manual for all the sections are being developed. Manager system is working effectively.

Provision of equipment

All the equipment provided are utilized and maintained properly. The location of MOJC is good considering the access. However, the space and capacity is limited, which prevent the center from expanding the activities.

Counterpart personnel allocation

One counterpart, Vice Director of MOJC, is assigned. The Program Advisor whose assignment is mentioned in R/D has not been assigned.

Training in Japan

All the participants positively evaluated the contents of the training. The training enhances not only the capacity of the participants, but also the commitment of other staff who may be selected as candidate for the future training.

4-4 Impact

The Project has had a certain positive impact, and it does not seem to have caused any negative impact.

Social and Economical Impacts

More than half of the participants of the Business courses are women. It, therefore, is judged that MOJC contributes to the empowerment of female entrepreneurs. Graduates of the course established a NGO named KAIZEN Association and works on sharing the knowledge and skills obtained in the courses.

The Japanese Language program is recognized as a leader of Japanese Language education in Mongolia and functions as the core of this area.

Other impact

64

[Handwritten signatures]

Through the participation in the activities of MOJC, such as Business and Japanese courses and mutual understanding activities, the number of Mongolians who are interested in Japan and feel sympathy to Japan increased.

4-5 Sustainability

To increase MOJC's sustainability, several measures should be taken.

Organizational Aspects

The status of MOJC has been agreed as an independent organization under NUM in the President Order. The capacity and number of MOJC national staff is judged to be proper to manage the center after the termination of the Project. More efforts need to be put to improve the capacity of the staff in order to secure the sustainability.

Financial Aspects

The effort to increase income of MOJC has been conducted in 2009, such as increase of training fee and fee for mutual exchange activities. For the further income generation, introduction of profitable courses and activities, and facility renting are planned. Opening a fixed deposit account to turn over accumulated income is also considered.

Technical Aspects

Human resource development can be counted as an enhancing factor for the sustainability of MOJC. Capacity of MOJC national staff has been improved generally. Securing employment of the national staff will contribute to the organizational sustainability of MOJC. Relationship with other organization is not so strong. Establishment of strong network with NUM can also be an important factor for further enhancement of the activities of MOJC.

5. Conclusion and Recommendations

5-1 Conclusion of the Evaluation

The Team concludes that expected outputs have been achieved. Business program have offered practical courses and seminars to over 5,500 people so far and MOJC is contributing to develop human resources of Small and Medium sized business. Japanese Language Program is functioning as the core of Japanese language education and teachers training in Mongolia. Also, the total number of visitors to MOJC proves that MOJC is already functioning as a Symbol of Mongolia-Japan friendship.

However, as mentioned in the previous chapter, among the five evaluation criteria, sustainability still needs to be improved. To do so, profitable activities needs to be increased and those not might be reduced. In terms of organizational sustainability, further involvement of NUM is indispensable. To realize it, exchange of human resources between NUM and MOJC should be increased.

5-2 Recommendations

The Project has produced optimal achievements and the management of MOJC has been improved through the daily activities. In order to ensure self-reliance of MOJC, however, the Team indicates

ku

for

15
BX
ced

some propositions to enhance more fruitful results in the latter half of the project period. Towards the end of the project lifespan, recommendations described here are expected to be reviewed by the project management and implemented in a realistic and effective manner.

5-2-1 Enhancement of Human Exchange and Collaborated Activities with NUM

- (1) The human resources exchange between NUM and MOJC should be strengthened through the implementation of the activities which benefit both NUM and MOJC. Providing linkages of academic exchange or student exchange between NUM and Japanese universities could be an example. Fair for students of NUM on recruitment for companies or study in Japanese universities could be also suggested.
- (2) MOJC is to be co-managed by NUM and the Project as equal partners. Therefore whole the management such as administration, finance and activities is to be considered by both sides.
- (3) In order to assign Director of MOJC from NUM in the future, it is suggested to introduce Co-Director system in MOJC and to start discussion between NUM and MOJC to clarify expected roles and responsibilities of the Co-Director.
- (4) Both sides agreed to assign the Program Advisor stipulated in R/D. Unfortunately, it has not been assigned yet. The Team suggests NUM and the Project to take further actions to realize the assignment.

5-2-2 Enhancement of the Activities to Strengthen the Financial Sustainability of MOJC

The Team suggests that MOJC conduct activities to increase the proportion of its income by the termination of the Project, as follows.

- (1) The fee for training and rent was increased in 2009. There, however, is possibility to increase the amount further according to the interview to the graduates. Considering the necessity of strengthening the financial self-reliance, MOJC is suggested to revise the price again,
- (2) MOJC is suggested to plan courses considering the profitability,
- (3) MOJC is suggested to strengthen the management system of consignment activities. The implementation process or the types of activities need to be reconsidered according to the efficiency and profitability.

5-2-3 Securing Spaces for the Activities

Various stakeholders pointed out the limitation of spaces of MOJC for the activities. It might be, however, difficult to provide additional spaces, such as expansion of existing building or building new facilities during the current Project, simply because it takes time. Therefore, the Team suggests that NUM and the Project put more efforts to develop ideas to utilize the limited spaces.

5-2-4 Improvement of the Monitoring System

Every course provides questionnaire to the participants. However, they are not systematically collected and analyzed for the feedback to future activities. In order to implement activities which meet the needs of the target group effectively, the monitoring system should be improved. It is also suggested that MOJC strengthen the system for planning Business and Japanese Language courses

based on the needs assessment and monitoring based on feedbacks from the graduates.

5-2-5 Improvement of the Contents of Business Program

The contents of MOJC Business Program have partly been improved since 2008, such as establishment of Special Courses and Extra Courses. They are suggested to be monitored and revised based on the monitoring result. In order to feedback the result to the courses held in the next semester starting in 2010, the revision is to be completed by December 2009.

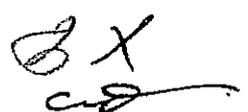
At the same time, collaborated lectures with local lecturers and Japanese experts needs to be enhanced. The number of the classes conducted by local lecturers will be increased. They are also suggested to be utilized in Special courses.

5-2-6 Development of Local Lecturers on Japanese Language

Japanese Language Program has been successfully managed by the national staff. In order to strengthen the function as the core of Japanese Language Education in Mongolia, MOJC are suggested to implement new activities as follows.

- (1) Increase the number of classes taught by the national staff in order to develop their capacity.
- (2) Encourage the national staff to participate in study groups of Mongolian Japanese Language Education Association to support their capacity development and strengthening networking.



17


Annex 1 : Project Design Matrix (PDM)

Project Title : Mongolia -- Japan Center for human resources development project (MOJIC) (Phase 2) Duration : January 2007 ~ January 2012 Ver. No. : 0 Date : 4 December 2006

Narrative Summary (request)	Objective/Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
<p>Overall Goal</p> <p>1. Human resource development contributing to the market economy in Mongolia will be promoted</p> <p>2. Mutual understanding between the two countries will be promoted</p>	<ul style="list-style-type: none"> No. of private company recognizing MOJIC No. of Japanese language teaching institutions and teachers recognizing MOJIC No. of participant who utilize knowledge and skills acquired from MOJIC courses No. of participants' companies starting business with Japanese companies No. of participants of Japanese language course passed the Japanese Language Proficiency Test No. of participants becoming Japanese teachers No. of participants using Japanese in their job No. of Mongolian students who study in Japan 	<ul style="list-style-type: none"> Sample survey to the members of the Chamber of Commerce and Industry Sample survey to the members of Japanese Language Teachers Association and other university faculty members Questionnaire to participants Biannual project reports Follow-up survey reports on ex-participants Government reports 	<p>Political condition of Mongolia is stable</p>
<p>Project Purpose</p> <p>The function of MOJIC, which are 1) to contribute to human resource development of Mongolia towards a market economy, 2) to promote mutual understanding between the people of Mongolia and Japan, will be strengthened</p>	<ul style="list-style-type: none"> Improvement in recognition No. of visitors No. of participants of all MOJIC activities Satisfaction level of visitors and participants Proportion of participants from the region other than Ulaanbaatar city Ownership promotion Proportion of local lecturers out of total course hours No. of academics of National University of Mongolian assigned to program advisers of MOJIC No. of local staff assigned to program managers of MOJIC Upper-level functions undertaken by the local staff Financial sustainability Proportion of MOJIC own revenue to local expenditure Networking No. of activities in cooperation with related organizations (JIBC, UNDP, EBRD, etc.) No. of activities in cooperation with returnees of scholarship program in Japan 	<ul style="list-style-type: none"> Biannual project reports Questionnaire to participants and visitors Monitoring and evaluation reports Balance sheet 	<p>The Government of Mongolia maintains the current policy to promote market economy and small and medium sized industry</p>
<p>Output</p> <p>1. MOJIC will be managed effectively and efficiently by strengthened management and monitoring system</p> <p>2. Business courses will be offered to provide practical knowledge and skills to meet the needs of small and medium sized industry with the involvement of larger number of local lecturers</p> <p>3. Japanese language courses will be offered to meet the needs of Japanese language teachers</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. Annual JCC meetings to be held 1. Monthly MOJIC meetings to facilitate communication between three programs 1. Annual operational, financial, and organizational plans to be formulated, implemented, monitored and revised quarterly 1. Staffing plan of MOJIC 1. No. of joint activities combining business including IT, Japanese language and mutual understanding activities 1. Types and no. of publicity works contributed to increase of the number of participants or the improvement MOJIC activities 1. The website to be updated every month 1. No. of access to the website 2. Annual implementation policy and course plan to be formulated and implemented as scheduled 2. Improved monitoring system 2. No. of participants by region/section/ite, etc. 2. No. of participants who completed full course 2. % of fulfillment of course completely 2. Satisfaction level of participants 2. No. of improved courses and teaching materials 2. No. of identified and trained local lecturers 2. No. of business courses cooperated and consulted with other aid organizations 2. No. of courses initiated and implemented by local staff 3. Annual implementation policy and course plan to be formulated and implemented as scheduled 3. Improved monitoring system 3. No. of participants by region/profession/aim, etc. 	<ul style="list-style-type: none"> 1. Record of JCC meetings 1. Record of monthly MOJIC meetings 1. Biannual project reports 1. Monitoring and evaluation reports 1. Questionnaire to participants 1. MOJIC annual plans of operation and revised plans 1. Balance sheet 1. Organization chart 1. List of local staff 1. Record of meetings with related organizations 1. List of inquiry 2. MOJIC annual plan of operation 2. Annual course outline 2. Annual course implementation plan 2. Record of course implementation 2. Monitoring and evaluation reports 2. List of teaching materials 2. List of focal lecturers 3. MOJIC annual plan of operation 3. Annual course outline 3. Annual course implementation plan 3. Record of course implementation 3. Monitoring and evaluation reports 	

4

afm
BD
ad

<p>and to expand business opportunities for the society</p> <p>4. The exchange activities on various fields (economy, society, and culture etc) between both Mongolia and Japan will be strengthened</p>	<p>3. No. of participants who completed full course 3. % of fulfillment of course completely 3. Satisfaction level of participants 3. No. of improved courses and teaching materials 3. No. of identified and trained local lecturers 3. No. of courses initiated and implemented by local staff</p> <p>4. Annual implementation policy and course plan to be formulated and implemented as scheduled 4. Improved monitoring system 4. No. of mutual understanding activities initiated and implemented by local staff 4. No. of participants (both Mongolian and Japanese) for mutual understanding activities 4. Satisfaction level of visitors and participants 4. No. of participants by region 4. No. of visitors of the library</p>	<p>3. List of teaching materials 3. List of local lecturers</p> <p>4. MOJIC annual plan of operation 4. Record of activity implementation 4. Monitoring and evaluation reports 4. Questionnaire of participants 4. Attendance record of participants 4. List of local staff</p>	<p>The cooperation to MOJIC is continuously maintained by Mongolian ministries, universities and other related organizations</p>
<p>Activities</p> <p>1-1. To form Joint Coordination Committee (JCC) to review and discuss the annual plan of the project</p> <p>1-2. To design and monitor an action plan (annual operational plan, financial plan, organization plan and staff training plan) taking into account the links between business including IT, Japanese language and mutual understanding activities</p> <p>1-3. To train local staff according to the staff training plan</p> <p>1-4. To provide necessary materials for MOJIC operation</p> <p>1-5. To design and implement the strategy of the public relations in order to advertise MOJIC activities widely in Mongolia</p> <p>1-6. To improve monitoring system for the whole center activities and to apply it to reflect lessons learned onto the planning for the following year</p> <p>2-1. To conduct needs survey and design the business course implementation plan based on the local needs</p> <p>2-2. To advertise the business courses for applicants and select participants</p> <p>2-3. To implement the business courses for the service, manufacturing and IT industry sector</p> <p>2-4. To design and implement the strategy for recruitment of the local lecturers</p> <p>2-5. To enhance teaching skills of local lecturers by mainly OJT</p> <p>2-6. To improve monitoring system to evaluate the outcome of the courses and reflect lessons learned in future courses</p> <p>2-7. To coordinate with other development aid organizations to consolidate the effect of business courses</p>	<p>Inputs</p> <p>Mongolian Government</p> <p>1. Site for the MOJIC 2. Staff of MOJIC (Vice-Director, Cleaners etc) 3. Program advisers of MOJIC 4. General administrative expenses for the MOJIC (water, heating, electricity, etc)</p> <p>Japanese Government</p> <p>1. Long-term experts (Director of MOJIC, Project coordinator, Expert on Japanese language course) 2. Short-term experts for business course etc 3. Training in Japan and / or the third country 4. Equipment</p>	<p>3. List of teaching materials 3. List of local lecturers</p> <p>4. MOJIC annual plan of operation 4. Record of activity implementation 4. Monitoring and evaluation reports 4. Questionnaire of participants 4. Attendance record of participants 4. List of local staff</p>	<p>The cooperation to MOJIC is continuously maintained by Mongolian ministries, universities and other related organizations</p>
<p>3-1. To conduct needs survey and design the Japanese language course implementation plan based on the local needs</p> <p>3-2. To develop new courses and teaching materials according to implementation plan</p> <p>3-3. To advertise the Japanese language courses for applicants and select participants</p> <p>3-4. To implement the Japanese language courses on the Japanese language education, business, IT industry and mutual understanding</p> <p>3-5. To design and implement the strategy for Recruitment of the local lecturers</p> <p>3-6. To improve teaching skills of local lecturers by implementation of OJT</p> <p>3-7. To support employment with using the network of Japanese teachers and educational institutions</p> <p>3-8. To improve monitoring system to evaluate the outcome of the courses and reflect lessons learned in future courses</p> <p>4-1. To conduct needs survey and design mutual understanding activity plan based on the local needs</p> <p>4-2. To strengthen information service functions (library, internet, website, JICA-Net etc) about both Mongolia and Japan</p> <p>4-3. To advertise mutual understanding events to both Mongolian and Japanese</p> <p>4-4. To offer MCJ facilities to other organizations and exchange programs</p> <p>4-5. To improve monitoring system to evaluate the outcome of the activities and reflect lessons learned in mutual understanding activities</p>	<p>Precondition:</p>	<p>3. List of teaching materials 3. List of local lecturers</p> <p>4. MOJIC annual plan of operation 4. Record of activity implementation 4. Monitoring and evaluation reports 4. Questionnaire of participants 4. Attendance record of participants 4. List of local staff</p>	<p>The cooperation to MOJIC is continuously maintained by Mongolian ministries, universities and other related organizations</p>

101

[Handwritten signatures and initials]

Annex 2: Midterm Evaluation Grid "THE MONGOLIA-JAPAN CENTER FOR HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT PROJECT (Phase II)"

Five Evaluation Criteria

Major Items		Evaluation Questions		Minor Items		Data Needed		Information Sources		Method of Data Collection	
Relevance Necessity		Is the Business Course in line with the needs of the target region and society?	Information about needs View of stake holders	Participants, Graduates, Enterprises, Industrial Sectors, Experts, C/P, Staff	Result of Questionnaire Interview						
		Is the Japanese Course in line with the needs of the target region and society?	Information about needs View of stake holders	Participants, Graduates, Other Japanese Language School, Experts, C/P, Staff	Result of Questionnaire Interview						
		Is the Mutual Understanding Activities in line with the needs of the target region and society?	Information about needs View of stake holders	Participants, Experts, C/P, Staff	Result of Questionnaire Interview						
Priority		Consistency with Mongolian policy	Position in policy View of stake holders	Policy of GOM, Stakeholders	Review of report Interview						
		Consistency with Japanese policy	Japanese ODA strategy to Mongolia View of stake holders	ODA Plan and strategy	Review of report Interview						
Others		Changes in the environment of the project (politics, economy, society, etc.) since the ex-ante evaluation?	Information on Mongolian policies and socio economic situation, View of stake holders	Reports of Experts, Experts, C/P, Staff	Review of report Interview						
Effectiveness	Achievement forecast for the project objective	Are there prospects that the project objective (To increase the number of pregnant women and mothers who receive quality services for Safe Motherhood) will be achieved?	Achievement Report	Achievement Report	Achievement Report						
		Is there any external factors to enhance achieving project purpose found?	Information about implementation process View of stake holders	Reports of Experts, Experts, C/P, Staff	Review of report Interview						
		Has Frequent Resign of staff negatively affected to the achievement of the project purpose?	View of stake holders	Experts, C/P, Staff	Questionnaire, Interview						
		Is there any other factor to hinder achieving project purpose found?	View of stake holders	Reports of Experts, Experts, C/P, Staff	Review of report, Questionnaire, Interview						
		Is the output achievement level adequate?	Achievement Report	Achievement Report	Achievement Report						
		Were the activities sufficient to produce the output?	View of stake holders	Experts, C/P, Staff	Interview						
		Are there any activities needed to achieve the outputs	View of stake holders	Experts, C/P, Staff	Interview						
		Is the number, timing, quantity and field of Japanese expert adequate?	Record of assignment, View of stake holders	Record of assignment Experts, C/P, Staff	Review of report, Questionnaire, Interview						
		Is the number of type, spec, number and timing of equipment input adequate?	Result of granted equipments View of stake holders	Record of maintenance of equipments Experts, C/P, Staff	Review of report, Questionnaire, Interview						
		Is the timing, number, subject of in-country training adequate?	Record of training in Japan, View of stake holders	Report about training in Japan, Experts, C/P, Staff	Review of report, Questionnaire, Interview						
Relationships Causal inputs and activities	Timing, quantity, quality of inputs	Is the number, timing, quantity and field of Mongolian Staff adequate?	Record about assignment of C/P and staff, View of stake holders	Experts, C/P, Staff	Review of report, Questionnaire, Interview						
		Is the number, timing, quantity and field of Mongolian Lecturers adequate?	Record of assignment of lecturers, View of stake holders	Experts, C/P, Staff	Review of report, Questionnaire, Interview						
		Is the size and space of MOJIC adequate?	Space of MOJIC, View of stake holders	Situation of facilities of MOJIC (class room, Office space, Equipments), Experts, C/P, Staff	Review of report, Observation, Interview						
		Is the size, timing and quality of input by Mongolian side adequately?	Record of contributed cost by GOM, View of stake holders	Report about contribution of cost by GOM, Experts, C/P, Staff	Review of report Interview						
		Is there any effective cooperation established with other development organization?	View of stake holders	Experts, C/P, Staff	Questionnaire						
		Are all the inputs used effectively?	Status of equipments, View of stake holders	Report about equipments Experts, C/P, Staff, Observation	Review of report Questionnaire, Observation						

goal	Does national staff leave frequently? What is the main reason of the resign?	Record of assignment of staff View of stake holders	Report of assignment of staff Experts, C/P, Staff.	Review of report Interview
Impact				
Economical Impact	Do Knowledge and technical skills transferred in business course produce profits of the participants' companies?	Information by stake holders	Enterprise, Industrial circles, Experts, C/P, Staff.	Questionnaire, Interview
Social Impact	Is the relationship between Mongolian and Japanese strengthened through MOJIC activities?	Information by stake holders	Report of experts, Chamber of commerce and industry, Experts, C/P, Staff.	Review of report Questionnaire, Interview
Other Impact	Is there any positive or negative impact to other organization and universities?	Information by stake holders	Report of experts, Experts, C/P, Staff.	Review of report Questionnaire
	Is there any other positive or negative impact produced by the Project?	Information by stake holders	Experts, C/P, Staff.	Questionnaire
Sustainability				
Political Aspects	Is it possible to sustain the support to MOJIC by Mongolian side?	Policies and plans of GOM	Governmental Policy, Government officials in related fields	Review of report Interview
Systematical Aspects	Is the vision and status of MOJIC clear?	Information about view an status of MOJIC, View of stake holders	Rules and norms of MOJIC Government officials in related fields	Review of report Interview
Organizational Aspects	Are the plans developed on assignment of staff and capacity building of staff and development of local lecturers?	View of stake holders	Experts	Questionnaire
	Are all the responsibilities and roles planned systematically?	View of stake holders	Experts, C/P, Staff	Questionnaire
	Does national staff develop capacity to manage MOJIC property?	View of stake holders	Record of profit of MOJIC,	Review of report Questionnaire
Financial Aspects	Is the profitability of MOJIC improved through the progress of the staff?	Data about profits View of stake holders	Experts, C/P, Staff,	Questionnaire
Management Aspects	Is there any possibility to expand the function of MOJIC through the networking with Japanese related organization?	View of stake holders	Experts, C/P, Staff,	Interview Questionnaire
Technical Aspects	Have the staff developed their capacity of annual planning of MOJIC and management (planning, preparation, implementation and evaluation) of each courses?	View of stake holders	Experts, C/P, Staff,	Questionnaire
	Will the staff and local lecturers continuously be hired to MOJIC?	View of stake holders	Record of assignment of staff and lecturers, Experts, C/P, Staff	Review of report Questionnaire
	Is the amount and quality of the teaching materials proper?	View of stake holders	Experts, C/P, Staff	Questionnaire
	Will the technical and financial support be provided to MOJIC?	View of stake holders	Experts, C/P, Staff	Questionnaire
	Is the granted equipments to be maintained properly?	View of stake holders	Experts, C/P, Staff	Questionnaire
Enhancing and hindering factors	What are the enhancing and hindering factors to affect the Project's sustainability?	View of stake holders	Experts, C/P, Staff	Questionnaire

Verification of the Implementation Processes		Evaluation Questions		Information Source	Method of Data Collection
Major Items	Minor Items				
Planning, implementation and revision of the project activities	Are there any issues to be tackled? How are the issues solved?	Report of Experts, Experts, C/P, Staff,		Review of report, Interview	
Improvement of capacity development of the staff	If any, which filed and what kinds of problems found? How are they solved?	Experts, C/P, Staff,		Interview	
Implementation of the Project monitoring	Is the system to monitor the arrangements and contents of courses established?	Experts, C/P, Staff,		Interview	
Ownership of the Indian government	Is the assignment of staff and their revenue considered properly?	Record of assignment of staff and lecturers, Revenue		Review of report	
Management system of the project	Are JCC held to discuss about issues related to the Project? Other periodical meetings are also held to discuss about issues related to the Project?	Progress report, Experts, C/P		Review of report, Questionnaire, Interview	
	How the progress of the Project monitored? Is the communication between Japanese experts and Mongolian stakeholders well?	Experts Experts, C/P, Staff,		Interview Questionnaire	
	Is the communication with JICA office and JICA-HQR without any problem?	Experts		Interview	

Annex 3-1 Japanese Experts

Long-term Experts

	Name	Title	Dispatched Term
1	Mistuo NAKAMURA	Chief Advisor	2nd May 2007 to 15th July 2009 (Continuously dispatched from the 1st
2	Junichi ARAI	Coordinator	4th March 2005 to 26th May 2007 (Continuously dispatched from the 1st
3	Mami SHIRAISHI	Coordinator	5th May 2007 to now
4	Chiyoko SAKURAI	Japanese Language Course Management	7th April 2006 to 6th April 2008 (Continuously dispatched from the 1st
5	Yukiyo FUJISHIMA	Japanese Language Course Management	1st May 2008 to now

Short-term Experts

	Name	Field	Dispatched Term
1	Masami SAITO	Marketing	3rd to 14th January 2007
2	Masatada SATO	Consultation for certification of HACCP	5th to 18th March 2007
3	Tetsuo SATOMI	Tourism Planning / Sales Promotion	14th to 24th March 2007
4	Yoshisuke KOBAYASHI	Japanese Management/ Management Strategy	26th September to 8th October 2007
5	Kenji KURAHARA	Business Course Management / Planning	1st November 2007 to 29th February 2008
6	Katsuhiko SAKUMA	Japanese Language Symposium	18th to 22nd October 2007
7	Akira KATO	Sales Management	25th October to 4th November 2007
8	Yasuo HONDA	Production Management	5th to 25th November 2007
9	Akihiko YOSHIMURA	Financial Management/Business Planning	5th to 24th December 2007
10	Masahiro HAMANO	Quality Management/Cost Management	10th to 20th January 2008
11	Shinichiro KAWAGUCHI	Personnel Management	24th January to 3rd February 2008
12	Masami SAITO	Marketing	17th to 27th February 2008
13	Masatada SATO	Consultation for certification of HACCP	28th February to 18th March 2008
14	Yukio SAKUMA	Tourism Planning/ Sales Promotion	5th to 24th March 2008
15	Yoshio KOBAYASHI	Management Consultation (Japanese Management)	30th April to 12th May 2008
16	Akihiko YOSHIMURA	Financial Management	16th June to 6th July 2008
17	Yasuo HONDA	Production Management (Process Management)	1st to 15th September 2008
18	Kenji KURAHARA	Business Course Management	6th August to 4th October 2008
19	Naoya NISHIGAKI	Quality Management	22nd September to 6th October 2008
20	Kyoko YAMAZAKI	Personnel Management	8th to 29th November 2008
21	Jun NISHIDA	Marketing	5th to 15th December 2008
22	Masatada SATO	Tourism Planning / Sales Promotion	2nd to 16th February 2009
23	Takao HAYASHI	Business Planning	7th to 24th January 2009
24	Kenji KURAHARA	Business Course Management / Company Diagnoses and Advice	24th November 2008 to 20th February 2009
25	Shinichiro KAWAGUCHI	Business Course Management Human Resource Development	9th June to 8th July 2009, 26th August to now
26	Jun NISHIDA	Marketing / Enterprise Strategy	17th to 29th June 2009

ml

afm

*SA
CD*

Annex 3-2 Allocation of National Staff

	Name	Department	Position	Dispatched Term	
1	Ochirbat	Management Dept	Driver/ Facilities Management	21st April 2002 to now	
2	Bolorsalkhan		Section Chief	9th September 2002 to 13th March 2009	Retired
3	Munkhaya		Staff	7th October 2002 to 30th April 2007	Retired
4	Uyanga		Staff	10th April 2003 to 25th May 2009	Retired
5	Oyunchimeg	Human Resource Development Dept	PC Course Management	1st February 2004 to now	
6	Tseguun		Staff	2nd February 2004 to 31st October 2008	Retired
7	Azbileg	Mutual Exchange Activities Dept	Library Management	13th April 2005 to now	
8	Bolor		Staff	13th April 2005 to 22nd October 2008	Retired
9	Erdenebuvd		Staff	13th April 2005 to 20th January 2009	Retired
10	Enkhjargal		Staff	1st March 2006 to 21st January 2007	Retired
11	Erdenetsetseg	Human Resource Development Dept	Japanese Language Course Management	1st March 2006 to now	
12	Odgere		Staff	13th June 2006 to 31st December 2008	Retired
13	Battulga	Human Resource Development Dept	IT Management Support, PC Course	22nd June 2006 to now	
14	Sansartuya	Human Resource Development Dept	Japanese Language Course Management	18th September 2006 to now	
15	Ganbolor		Staff	24th April to 23rd June 2007	Retired
16	Bolormaa	Mutual Exchange Activities Dept	Library Management	1st February 2008 to now	
17	Enkhtsolmon		Staff	1st February 2008 to 30th January 2009	Study Abroad
18	N.Delgermaa	Human Resource Development Dept	Japanese Language Course Management	24th July 2008 to now	
19	Nyamjargal	Human Resource Development Dept	Business Course Management	1st April 2008 to now	
20	Ulambayar	Mutual Exchange Activities / Management Dept	Citizens' Class, Equipment Management	17th July 2008 to now	
21	Saruul	Human Resource Development Dept	Business Course Management	17th July 2008 to now	
22	Oyun		Staff	17th July to 16th September 2008	Retired
23	Mungunsolongo	Human Development Dept	Japanese Language Course Management	17th July 2008 to now	
24	Ulamtsengel	Mutual Exchange Activities Dept	Library Management	17th July 2008 to now	
25	D.Delgermaa	Management Dept	Finance(Income)	24th July 2008 to now	
26	Gan-Erdene	Management Dept	General Manager	2002 to 2006, 1st January 2009 to now	2006~2008 Study in Japan
27	Garmaabazar	Management / Human Development / Mutual Exchange Dept	General Manager	2002 to 2005, 1st January 2009 to now	2005~2007 Study in Japan
28	Batnasan	Mutual Exchange Activities Dept	Library Management	1st March 2009 to now	
29	Belgin		Staff	1st March to 30th June 2009	Retired
30	Orkhon	Mutual Exchange Activities / Human Resource Development	Accounts for Activities	1st March 2009 to now	
31	Ochir-Erdene	Mutual Exchange Activities Dept	Reception	1st March 2009 to now	

67

[Handwritten signatures]

Annex 3-3 Provision of Equipments

31st March 2009

1. Carried Equipments

Date	Item	Manufacture	Specification	Unit	Unit Price	Price	Currency	Rate	Price (Yen)
Year 2007									
07.10.22	30cm Scale (Straight) Triangle Scale (Handy size) (divisions of scale: 1/100-1/200-1/300-1/400-1/500)	Crown	CR-RR103	60	153	9,180	Yen	1	¥9,180.00
07.10.22		KOKUYO	TZ-1562	60	595	35,700	Yen	1	¥35,700.00
07.10.22	Drafting Board (Parallel Scale A2 MP-400FL)	MAX	MP92161	1	26,500	26,500	Yen	1	¥26,500.00
08.03.24	Exchange Lamp for Projector (Lamp Unit)	TOSHIBA	TLPLW6	15	29,700	445,500	Yen	1	¥445,500.00
Total					56,948.00	516,880.00	Yen		¥516,880
						4,831.56	USD	106.98	
Year 2008									
09.02.24	Security Camera	PLANET	IP Camera System	1set	14,771.00	14,771.00	USD	96.94	¥1,431,900.74
09.03.19	large UPS	APC	Smart-UPS SURT 2000UXICH	1set	10,783.00	10,783.00	USD	96.61	¥1,041,745.63
Total					25,554.00	25,554.00	USD		¥2,473,646.37

31st March 2009

2. Granted Equipments

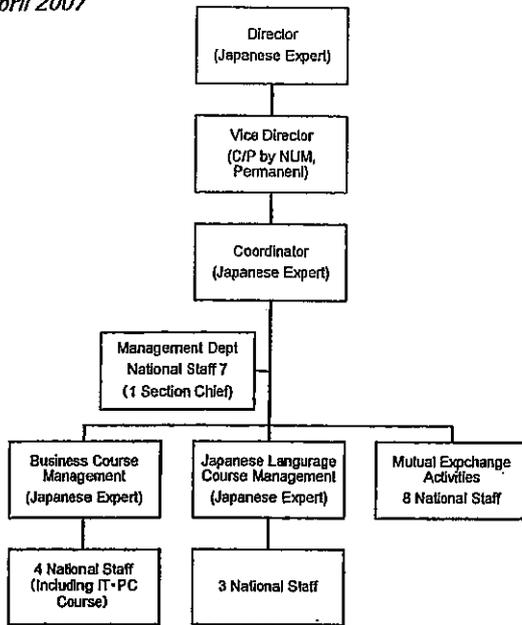
Date	Item	Manufacture	Specification	Unit	Unit Price	Price	Currency	Rate	Price (Yen)
Year 2006									
2007/3/30	Personal Computer (note)	NEC	VersaE6211	8	1,718.91	13,751.3	USD	116.2	¥1,597,898.74
2007/3/30	Personal Computer (desk top)	NEC	PowerMateX8601	19	1,737.18	33,006.4	USD	116.2	¥3,835,346.00
2007/3/30	Personal Computer (desk top)	NEC	PowerMate8111	7	1,445.45	10,118.2	USD	116.2	¥1,175,729.03
2007/3/30	Projector	NEC	NP50DLP	4	2,554.90	10,219.6	USD	116.2	¥1,187,517.52
2007/3/30	Photocopy Machine	Canon	IR2022i	1	5,894.55	5,894.6	USD	116.2	¥684,946.71
Total					13,350.99	72,990.0	USD		¥8,481,438.00
Year 2007									
2008/2/15	Personal Computer (note)	NEC	Versa6301	5	1,525.40	7,627.0	USD	106.98	¥815,936.46
2008/2/15	Personal Computer (desk top)	NEC	PowerMate8111	6	1,090.0	6,540.0	USD	106.98	¥699,649.20
2008/2/15	TV (Lobby)	JVC	JVC-LT-42FX77	1	2,137.0	2,137.0	USD	106.98	¥228,616.26
2008/2/15	Photocopy Machine	Canon	IR2022i	1	3,189.0	3,189.0	USD	106.98	¥341,159.22
2008/2/19	DVD Video Camera	Sony	DCR908E	1	1,010.0	1,010.0	USD	106.48	¥107,543.79
2008/2/21	Projector	Panasonic	PT-D3500E	1	3,597.0	3,597.0	USD	106.98	¥384,807.06
2008/3/24	Telephone and Switchboard	Panasonic	Telephone system KX-TDA200	1set	10,601.0	10,601.0	USD	106.98	¥1,134,094.98
Total					12,548.40	34,701.0	USD		¥2,577,711.99
Grand Total						138,076.56	US		¥14,049,676.36

Annex 3-4 Training in Japan

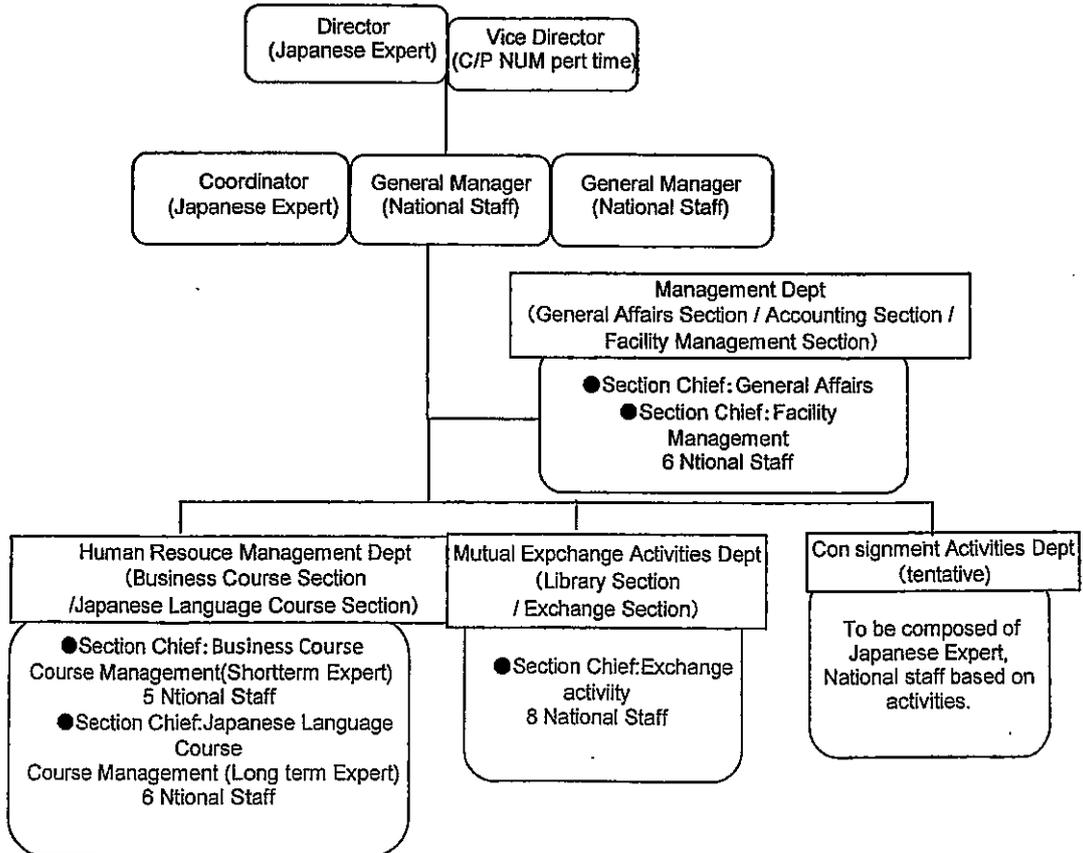
Topic	Name	Title	Objectives	Recipient	Training period
1	Mr. Bilguun Jargatsaikhan	Graduates of IT course	1) Understand the quality and process of software which are required in Japanese market through lectures, exercises, observation 2) Develop the capacity to propose tryout methodology for quality improvement to the software company	Kyoto ComputerGakuin	18th February to 10th March 2007
2	Ms. Otgontsetseg Syрмааjav				
3	Mr. Baatarjav Munkhзaya	Graduates of Business Course	1) Develop ideas how to apply the knowledge and skills acquired at MOJC through observation and exchange views at Japanese Company 2) Develop capacity to distribute information acquired through the training and provide advice on Japanese Management to manager in both their own company and other company	Northern Advancement Center for Science & Technology	12th Aug to 1st September 2007
4	Mr. Dontor Gantulga				
5	Mr. Yadamsuren Chinbaatar				
6	Ms. Dashchimed Ulzijiargal				
7	Ms. Namjildorj Erdenesurd				
8	Ms. Gantulga Oyun				
9	Ms. Tumurbaatar Sansartuya				
10	Mr. Tseveenjar Ochirbat				
11	Mr. Baasanbyamba Erdeneбуиган	Project National Staff	1) Acquire the knowledge on the center management, such as leadership, planning, time management, profitability 2) Apply the Japanese organizational management skill to management of MOJC.	Northern Advancement Center for Science & Technology	14th January to 2nd February 2008
12	Mr. Garam Barsbold				
13	Mr. Soyolsuren Ganzorig				
14	Ms. Enebish Odgerel				
15	Mr. Khatanbaatar Ulambayar	Graduates of Business Course	1) Understand Japanese Management System and apply it to future management of MOJC business course 2) Develop capacity to conduct speaker of a seminar on Japanese management 3) Develop capacity to apply Japanese Management System trained in MOJC training course to the their own company as directors or managers	Northern Advancement Center for Science & Technology	17th August to 6th September 2008
16	Ms. Tuvdendorj Bolormaa				
17	Dr. Suren DAVAA (Director of NUM)	Project Counter Parts	1) Acquire the knowledge on the center management, such as leadership, planning, time management, profitability 2) Apply the Japanese organizational management skill to management of MOJC.	Northern Advancement Center for Science & Technology	12th February to 2nd March 2009
18	Dr. Tsendavaa DAVAADORJ (Vice Director of MOJC and Dean of Department of Economics of NUM)				

Annex 4 Organizational Chart

Until April 2007



Current system since April 2009



* Number of national staff is counted more the real figure because some staff are in chage of more than two task.

ll

nfn *SD*
cuo

Annex 5: Record of Business Course Activities 1 (Business)

2006 он (Сургалтанд хамрагдсан хүний тоо : 566 хүн)

	Сургалтын нэр	Оролцогч	Давтамж	Хугацаа	Хүний тоо	Сургалтын төлбөр	Багш
1	"ЖДҮ-ийн газрын менежмент, үнэлгээ шинжилгээ" сэдэвт бизнесийн практик сургалт (5-дахь удаа)	Үйлдвэрлэл болон үйлчилгээний салбарт бизнес эрхэлдэг компани, аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан	1 удаа	Нийт 3.5 сар	58 хүн	Үйлдвэрлэлийн анги: \$180 Үйлчилгээний анги: \$150	Япон багш
2 ※	Бизнесийн ахисан төвшний сургалт	"ЖДҮ-ийн газрын менежмент, үнэлгээ шинжилгээ" сэдэвт бизнесийн практик сургалтыг төгсөгч	7 удаа	1 өдөр	128 хүн	Төлбөргүй	Япон багш
3 ※	Орон нутгийн сургалт (Дархан хот)	Компани, ААН байгууллагын удирдах албан тушаалтан	6 удаа	1 өдөр	161 хүн	Төлбөргүй	Япон багш
4	"Шинээр бизнес эхлүүлэгчдийг дэмжих нь" сэдэвт сургалт	Өөрийн гэсэн бизнесийг эхлүүлэх, хөгжүүлэх зорилготой хувь хүмүүс	1 удаа	Нийт 4 долоо хоног	30 хүн	Tg 60,000	Орон нутгийн зөвлөхүүдийн баг
5 ※	Шинэ эздэд зориулсан бизнесийн практик сургалт	2-оос доошгүй жил бизнес эрхэлсэн хүмүүс	1 удаа	Нийт 2 долоо хоног	21 хүн	Tg 45,000	Орон нутгийн зөвлөхүүдийн баг
6	НАССР	Хүнсний үйлдвэрлэл эрхлэгч, технологич, бизнесийн байгууллагын удирдах албан тушаалтан	1 удаа	5-н өдөр	28 хүн	Tg 50,000	Япон багш
7	Аялал жуулчлалын бүтээгдэхүүн төлөвлөлтийн практик сургалт	Аялал жуулчлалын бизнес эрхэлдэг ААН байгууллагын удирдах албан тушаалтан	1 удаа	5-н өдөр	23 хүн	Tg 50,000	Япон багш
8 ※	Япон хэлтэй хөтчийн ур чадварыг хөгжүүлэх практик сургалт	Япон хэлний хөтөч болох хүсэлтэй хүмүүс	1 удаа	Нийт 3 долоо хоног	28 хүн	Tg 60,000	Япон болон Монгол багш нар
9	Эдийн засгийн форум	Бизнес сургалтыг төгсөгчид, бизнес эрхлэгчид, хамтран ажилладаг албан байгууллагууд	1 удаа	1 өдөр	89 хүн	Төлбөргүй	Япон болон Монгол багш нар
10 ※	Ганцаарчилсан зөвлөгөө	Сургалтанд хамрагдаж буй хүмүүс болон төгсөгчид	-	2~3 цагийн хугацаатай	30 компани (давхардсан тоогоор)	Төлбөргүй	Япон багш

※ : Төслийн нэгдүгээр шатны (~2007 оны 1-р сарын 21) тайлан. Дээрх 1-10 -ын хүрээнд ганцаарчилсан зөвлөгөөнд хамрагдсан 30 компаниас 27 компани нь төслийн нэгдүгээр шатанд хамаарна.

Handwritten signature

Handwritten signatures

2007 он (Сургалтанд хамрагдсан хүний тоо : 1,275 хүн (5 жилийн ойд зориулсан үйл ажиллагааг тооцолгүй 843хүн))

	Сургалтын нэр	Ороогч	Давтмаж	Хугацаа	Хүний тоо	Сургалтын төлбөр	Бичиг	
1	"ЖДУ-ийн газрын менежмент, үнэлгээ шинжилгээ" сэдэвт бизнесийн практик сургалт (5-дахь удаа) <нийт 7 сэдвээр үргэлжилнэ>	Үйлдвэрлэл болон үйлчилгээний салбарт бизнес эрхэлдэг компани, аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан	1 удаа	Нийт 5 сар (1 сэдвийн үргэлжилэх хугацаа 1 долоо хоног, нийт 7-н долоо хоног)	56 хүн	Tg 280,000	Япон багш	
2	Ахисан төвшний сургалт	"ЖДУ-ийн газрын менежмент, үнэлгээ шинжилгээ" сэдэвт бизнесийн практик сургалтыг төлсөгч	6 удаа	1 өдөр	110 хүн	Tg 20,000	Япон багш	
3	Орон шүтгийн сургалт (Эрдэнэт хот)	Компани, ААН байгууллагын удирдах албан тушаалтан	5 удаа	1 өдөр	79 хүн	Төлбөргүй	Япон багш	
4	Танилцуулах хичээл	"ЖДУ-ийн газрын менежмент, үнэлгээ шинжилгээ" сэдэвт бизнесийн практик сургалтын талаар сонирхож буй ААН байгууллагын удирдах албан тушаалтан	7 удаа	1 өдөр	259 хүн	Tg 5,000	Япон багш	
5	Бизнесийн тусгай сургалтууд	НАССР-ын сургалт	Хүнсний үйлдвэрлэл эрхлэгч, технологич	1 удаа	5 өдөр	38 хүн	Tg 50,000	Япон багш
6		НАССР семинар	Төрийн байгууллагын ажилтнууд	1 удаа	2 өдөр	2 хүн	Төлбөргүй	Япон багш
7		Аялал жуулчлалын бүтээгдэхүүн төлөвлөлтийн практик сургалт	Аялал жуулчлалын бизнес эрхэлдэг ААН байгууллагын удирдах албан тушаалтан	1 удаа	5 өдөр	25 хүн	Tg 50,000	Япон багш
8		Аялал жуулчлалын хөтчийн семинар	Япон хэлтэй хөтчийн ур чадварыг хөгжүүлэх практик сургалтыг төлсөгчид	1 удаа	1 өдөр	14 хүн	Tg 2,000	Япон багш
9		Япон хэлтэй хөтчийн ур чадварыг хөгжүүлэх практик сургалт	Япон хэлний хөтөч болох хүсэлтэй хүмүүс	1 удаа	2 долоо хоног	30 хүн	Tg 70,000	Япон болон Монгол багш нар
10		"Бизнес төлөвлөгөө боловсруулах нь" сэдэвт сургалт	Бизнес сургалтыг төлсөгчид	1 удаа	4 өдөр	39 хүн	Tg 60,000	Япон багш
11		ISO9001-2000 семинар	Бизнес сургалт төлсөгчид, ISO хариуцсан ажлаачид	1 удаа	1 өдөр	20 хүн	Tg 30,000	Япон багш
12		Бараа бүтээгдэхүүний чанарыг дээшлүүлэх талаархи семинар	UNDP-ийн хэрэгжүүлсэн "Нэг тосгон нэг бүтээгдэхүүн" хөдөлгөөнд хамрагдсан хүмүүс	1 удаа	1 өдөр	24 хүн	Төлбөргүй	Япон багш
13		"Монгол-Японы эдийн засгийн хамтын ажиллагаа" семинар Зохион	Бизнес эрхлэгчид, оюутан залуус, жирийн иргэд	1 удаа	1 өдөр	147 хүн	Төлбөргүй	Япон багш нар (4 хүн)
14		Монгол-Японы Төвийн 5-н жилийн ойд зориулсан эдийн засгийн форум	Компани, аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан, шинээр бизнес эрхлүүлэгчид	1 удаа	1 өдөр	152 хүн	Төлбөргүй	Япон багш
15	"Япон маягийн менежмент ба 5S"-ийг танилцуулах семинар (5 жилийн ойн арга хэмжээ)	Компани, аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан, шинээр бизнес эрхлүүлэгчид	1 удаа	1 өдөр	72 хүн	Төлбөргүй	Монгол багш нар (Бизнес сургалтын төлсөгчид)	
16	Бизнес үзэсгэлэн (5 жилийн ойн арга хэмжээ)	Компани, аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан, шинээр бизнес эрхлүүлэгчид	1 удаа	1 өдөр	208 хүн	Төлбөргүй	(Бизнес сургалт төлсөгчдийн албан байгууллага)	
17	Ганцаарчилсан зөвлөгөө	Сургалтанд хамрагдаж буй хүмүүс болон төлсөгчид	-	-	31 компани (Давхардсан тоогоор)	Төлбөргүй	Япон багш	

ш

н/м

BDX
сид

2008 он (Сургалтанд хамрагдсан хүний тоо : 890 хүн)

	Сургалтын нэр	Ориллогчид	Даатгамж	Хугацаа	Хүний тоо	Сургалтын төлбөр	Багш	
1	Жижиг дунд үйлдвэрийн газрын менежмент үнэлгээ, шинжилгээ" сэдэвт практик сургалт (7-долоо удаа) <5-н сэдэв > +(англи бүртгэ 1 тусгай сэдэв) ※	Үйлдвэрлэл болон үйлчилгээний салбарт бизнес эрхэлдэг компани, аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан	1 удаа	Нийт 7 сар (1 сэдвийн үргэлжлэх хугацаа 1 долоо хоног, нийт 7-н долоо хоног)	51 хүн +1 (нэг сэдвийн хичээлд 32 хүн)	Tg 280,000	Япон багш (Сэдэв бүрийн 2 цагийг Монгол багш)	
2	Орон нутгийн сургалт (Эрдэнэт)	Компани, аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан	3 удаа	2 өдөр	108 хүн	Төлбөргүй	Япон багш	
3	Тангилуулах хичээл	"ЖДҮ-ийн газрын менежмент, үнэлгээ шинжилгээ" сэдэвт бизнесийн практик сургалтын талаар сонирхож буй аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан	5 удаа	1 өдөр	198 хүн	Tg 10,000	Япон багш	
4	Мэргэжлийн сургалтууд	Хүний нөөцийн удирдлага	Бизнес сургалтыг төгсөгчид	1 удаа	4 өдөр	33 хүн	Tg 40,000	Япон багш
5		Дунд болон урт хугацааны үйл ажиллагааны төлөвлөгөө	Бизнес сургалтыг төгсөгчид	1 удаа	2 өдөр	29 хүн	Tg 30,000	Япон багш
6	Тусгай сургалтууд	Дэлгүүр болон үйлчилгээний газрын зохион байгуулалт	Үндсэн сургалтын үйлчилгээний анги, үйлчилгээний салбарт бизнес эрхлэгч	1 удаа	5 өдөр	40 хүн Үндсэн сургалт: 22 хүн Нэмэлт бүртгэл: 18 хүн	Үндсэн сургалт: Tg 30,000 Нэмэлт бүртгэл: Tg 50,000	Япон багш
7		Үйлдвэрлэлийн удирдлага	Үндсэн сургалтын үйлдвэрлэлийн анги, үйлдвэрлэлийн салбарт бизнес эрхлэгч	1 удаа	5 өдөр	Нийт 30 хүн Үндсэн сургалт : 16 хүн Нэмэлт бүртгэл : 14 хүн	Үндсэн сургалт: Tg 30,000 Нэмэлт бүртгэл: Tg 50,001	Япон багш
8		НАССР сургалт	Хүнсний үйлдвэрлэл эрхлэгч, технологич, байгууллагын удирдах албан тушаалтан	1 удаа	5 өдөр	40 хүн	Tg 50,000	Япон багш
9		НАССР семинар	Төрийн байгууллагын албан хаагчид	1 удаа	2 өдөр	2 хүн	Төлбөргүй	Япон багш
10		НАССР семинар (Төрийн байгууллагуудад зориулсан)	Төрийн байгууллагын албан хаагчид (Хүнсний үйлдвэрлэл үйлчилгээ харилцсан)	1 удаа	1 өдөр	19 хүн	Төлбөргүй	Япон багш
11		НАССР сургалт (Үйлдвэр дээрхи практик сургалт)	Архи спирт үйлдвэрлэгч компаниуд	1 удаа	1 өдөр	17 хүн	Төлбөргүй	Япон багш
12		Япон хэлтэй хөгчийн ур чадварыг хөгжүүлэх практик сургалт	Япон хэлний хөтөч болох хүсэлтэй хүмүүс	1 удаа	Нийт 2,5 долоо хоног	30 хүн	Tg 70,000	Монгол багш
13		"Бизнес төлөвлөгөө боловсруулах нь" сэдэвт сургалт	Аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан, банкны эзэл хариуцсан ажилтнууд	2 удаа	5 өдөр / 3 өдөр	45 хүн / 17 хүн	Tg 60,000	Япон багш
14		ISO9001 - 14001 семинар	Бизнес сургалт төгсөгчид, ISO хариуцсан ажилтан	1 удаа	4 өдөр	12 хүн	Tg 40,000	Япон багш
15		"SS ба сайжруулалт" сургалт	Аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан, SS-ийн талаар сонирхож буй хүмүүс	2 удаа	3 өдөр	66 хүн	Tg 30,000	Япон багш
16	Монголоос Япон руу чиглэсэн бизнес (Хүнсний салбар) Зохион байгуулагч.ЖЕТРО Хамтран зохион байгуулагч.	Аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан, SS-ийн талаар сонирхож буй хүмүүс	1 удаа	1 өдөр	121 хүн	Төлбөргүй	Япон багш	
17	ЖЕТРО-той хамтарсан гандарчилсан	Хүнсний бүтээгдэхүүн үйлдвэрлэгч компаниуд	-	-	9 компани	Төлбөргүй	Япон багш	
18	Гандарчилсан зөвлөгөө	Бизнес сургалтыг төгсөгчдийн компани	-	-	37 компани (Давхардсан тоогоор)	Төлбөргүй	Япон багш	

※ "Үйлдвэрлэлийн удирдлага" хичээл нь үйлдвэрлэлийн анги, "Дэлгүүр болон үйлчилгээний газрын зохион байгуулалт" хичээл нь үйлчилгээний ангийн сонгон судлах хичээл болно. Дээрх 2 хичээлийг тусгай сургалт гэх ба үүнд нэмэлт бүртгэлийн ангийг хамтатгаж авч үзвэ.

✓

afm

SD

2009 он (даахдмн төлвийг хамтатган авч үзсэн болно.) (Сургалтад хамрагсан хүний тоо : 917 хүн)

	Сургалтын нэр	Оролцогч	Длигнэж	Хугацаа	Хүний тоо	Сургалтын төлбөр	Багш
1	Жижиг дунд үйлдвэрийн газрын менежмент үнэлгээ, шинжилгээ" сэдэвт практик сургалт (8-дахь удаа) <5-н сэдэв> + (салбар бүрт 1 тусгай сэдэв) ※	Үйлдвэрлэл болон үйлчилгээний салбарт бизнес эрхэлдэг компани, аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан	1 удаа	Нийт 8 сар (1 сэдвийн ургэлжлэх хугацаа 1 долоо хоног, нийт 7-н долоо хоног)	62 хүн + Соёлогч 2 хүн	Tg 300,000 (5 x Тв 60,000)	Япон багш (Сэлэн бүрийн 2 цагийг Монгол багштай хамтран аавт.)
2	Орон нутгийн сургалт (Эрдэнэт)	Компани, аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан	3 удаа	3~4 өдөр	90 хүн (Анг дүүргэлт 30 хүний багтаамжтай x 3 удаагийн сургалт)	Төлбөргүй	Япон багш
3	Танилцуулах хичээл	"ЖДУ-ийн газрын менежмент, үнэлгээ шинжилгээ" сэдэвт бизнесийн практик сургалтын талаар сонирхож буй аж ахуйн нэгж байгууллагын удирдах албан тушаалтан	7 удаа	1 өдөр	350 хүн (Анг дүүргэлт 50 хүний багтаамжтай 7 удаагийн сургалт)	Tg 10,000	Япон багш
4	Аж ахуйн төлөвлөгөөний сургалт	Хүний нөөцийн удирдлага	1 удаа	3 өдөр	40 хүн	Tg 40,000	Япон багш
5	Тусгай сургалт	Үйлдвэрлэлийн удирдлага	1 удаа	5 өдөр	Нийт: 45 хүн Үндсэн сургалт : 30 хүн Нэмэлт бүртгэл : 15 хүн	Tg 60,000	Япон багш
6		Дэлгүүр болон үйлчилгээний газрын удирдлага	1 удаа	5 өдөр	Нийт: 45 хүн Үндсэн сургалт : 30 хүн Нэмэлт бүртгэл : 15 хүн	Tg 60,000	Япон багш
7		НАССР сургалт	1 удаа	5 өдөр	30 хүн	Tg 50,000	Япон багш
8		НАССР семинар (Төрийн байгууллагуудад зориулсан)	1 удаа	1 өдөр	25 хүн	Төлбөргүй	Япон багш
9		Япон хэлтэй хөгчийн ур чадварыг хөгжүүлэх практик сургалт	1 удаа	Нийт 2 долоо хоног	30 хүн	Tg 70,000	Монгол багш
10		"Бизнес төлөвлөгөө боловсруулах нь" сэдэвт сургалт	2 удаа	5 өдөр	90 хүн	Tg 60,000	Япон багш
11		"SS ба сайжруулалт" сэдэвт сургалт	1 удаа	1 өдөр	29 хүн	Төлбөргүй	Монгол багш (Монгол-Япон тавийн ажилтан)
12		Орон нутгийн зөвлөхүүдийг бэлтгэх сургалт	2 удаа	3 өдөр	50 хүн	Tg 40,000	Япон багш
13		МУИС, ЕСБХБ-тай хамтарсан семинар (Эдийн засгийн хямралын нөлөө ба түүний эсрэг авах арга хэмжээ)	1 удаа	1 өдөр	29 хүн	Төлбөргүй	Япон болон Монгол багш нар
14		Аж ахуйн нэгж байгууллагын үнэлгээ, шинжилгээ (Загаар ААН-ийг хөгжүүлэх)	Загаар аж ахуйн нэгжид нэр дэвшигч байгууллагууд	-	-	8 компани (3 компани)	1 удаа Tg 30,000
15	Галчарчилсан зөвлөгөө	Бизнес сургалтыг төгсөгчдийн компани	-	-	40 компани	Одоо сургалтад хамрагдаж байгаа болон өмнөх жилийн төгсөгчдөл үнэгүй. Бусад компаниуд Tg 30,000	Япон багш (Зарим хэсэгт Монгол багш хамтран удирдана)

※ 2009 оны 6-р сарын сүүлийн байдлаар дээрх 1-15 дугаарын ажлуудаас 1, 3, 9, 11, 13 нь хэрэгжээд байна.

el

afm

B.K. sid

Annex 5: Record of Business Course Activities 1 (Business)

2006年度 (受講者数合計: 566名)

	コース名	ターゲット層	回数	期間	受講者数	参加料	講師現地化状況
1 ※	中小企業経営診断指導コース (第5回) <7課目連続講座>	製造業・サービス業の経営者及び管理者	1回	約3.5ヶ月 (内、講義期間は約7週)	58名	製造業: \$180 サービス業: \$150	日本人講師
2 ※	フォローアップセミナー	中小企業経営診断指導コース修了生	7回	1日間	128名	無料	日本人講師
3 ※	地方セミナー (於・ダルハン)	中小企業経営者、管理職員	6回	1日間	161名	無料	日本人講師
4	起業家支援セミナー	中小企業経営者、管理職員、起業を目指す個人	1回	約4週	30名	Tg 6,000	現地コンサルティングチーム
5 ※	若手オーナーのためのビジネス実践セミナー	経営歴2年以上の若手経営者	1回	約2週	21名	Tg 45,000	現地コンサルティングチーム
6	HACCP	食品加工業経営者、技術担当者、行政機関役員	1回	5日間	28名	Tg 50,000	日本人講師
7	観光商品開発・セールスプロモーション	観光関連企業経営者、管理職員	1回	5日間	23名	Tg 50,000	日本人講師
8 ※	日本語観光ガイド養成実践コース	日本語観光ガイドを目指す者	1回	約3週	28名	Tg 60,000	日本人講師/現地講師
9	日本センター経済フォーラム	修了生、ビジネス界の一般人、関連機関の参加者	1回	1日	89名	無料	日本人/モンゴル人講演者
10 ※	個別経営相談	受講生及び修了生企業	-	2時間~3時間程度	30社 (累計)	無料	日本人講師

※: フェーズ1期間 (~2007年1月21日) の実績。10の個別経営相談は、30社中27社がフェーズ1期間実績。

2007年度 (受講者数合計: 1,275名 (5周年記念事業を除くと、843名))

	コース名	ターゲット層	回数	期間	受講者数	参加料	講師現地化状況
1	中小企業経営診断指導コース (第6回) <7課目連続講座>	製造業・サービス業の経営者及び管理者	1回	約5ヶ月 (内、講義期間は約7週)	56名	Tg 280,000	日本人講師
2	フォローアップセミナー	中小企業経営診断指導コース修了生	6回	1日間	110名	Tg 20,000	日本人講師
3	地方セミナー (於・エルデネット)	中小企業経営者、管理職員	5回	1日間	79名	無料	日本人講師
4	入門セミナー	中小企業経営診断指導コースに関心のある経営者・管理職員	7回	1日間	259名	Tg 5,000	日本人講師
5	特別コース	HACCP 指導コース	1回	5日間	38名	Tg 50,000	日本人講師
6		HACCP ワークショップ	1回	2日間	2名	無料	日本人講師
7		観光商品企画セールスプロモーション実践講座	1回	5日間	25名	Tg 50,000	日本人講師
8		観光ガイドセミナー	1回	1日間	14名	Tg 2,000	日本人講師
9		日本語観光ガイド養成実践コース	1回	約2週	30名	Tg 70,000	日本人講師及び現地講師

UP

WPM B2
WPM

10	ビジネスプラン作成支援セミナー	修了生	1回	4日間	39名	Tg 60,000	日本人講師
11	ISO9001-2000 セミナー	修了生、管理職員	1回	1日間	20名	Tg 30,000	日本人講師
12	商品の品質向上について	UNDP一村一品運動関係者	1回	1日間	24名	無料	日本人講師
13	モンゴル・日本経済交流セミナー 主催: JETRO 共催: MOJ&JICA	経営者、一般人、学生	1回	1日間	147名	無料	日本人講師 講演4名
14	特別経済フォーラム (5周年記念事業)	中小企業経営者、起業家	1回	1日間	152名	無料	日本人講師
15	日本的経営及び5S紹介セミナー (5周年記念事業)	中小企業経営者、起業家	1回	1日間	72名	無料	現地講師 (修了生)
16	展示会 (5周年記念事業)	中小企業経営者、起業家	1回	1日間	208名	無料	(修了生企業)
17	個別経営相談	受講生及び修了生企業	-	-	31社 (累計)	無料	日本人講師

2008年度 (受講者数合計: 890名)

	コース名	ターゲット層	回数	期間	受講者数	参加料	講師現地化状況	
1	中小企業経営診断指導コース (第7回) <5課目連続講座> + 各クラス1科目 (特別※)	製造業・サービス業の経営者及び管理者	1回	約7ヶ月 (内、講義期間は約7週)	51名 + 1課目のみの受講者 32名	Tg 280,000	日本人講師 (一部課目は現地講師と連携)	
2	地方セミナー (於・エルデネット)	中小企業経営者、管理職員、公務員	3回	2日間	108名	無料	日本人講師	
3	入門セミナー	中小企業経営診断指導コースに関心のある経営者・管理職員	5回	1日間	198名	Tg 10,000	日本人講師	
4	専門コース	労務管理	修了生	1回	4日間	33名	Tg 40,000	日本人講師
5		中長期経営計画	修了生	1回	2日間	29名	Tg 30,000	日本人講師
6	特別コース	店舗管理コース	通常コースサービス業クラス受講者、一般人 (経営者)	1回	5日間	40名 通常: 22名 一般: 18名	通常: Tg 30,000 一般: Tg 50,000	日本人講師
7		工程管理コース	通常コース製造業クラス受講者、一般人 (経営者)	1回	5日間	30名 通常: 16名 一般: 14名	通常: Tg 30,000 一般: Tg 50,000	日本人講師
8		HACCP 指導コース	食品加工業経営者、技術担当者	1回	5日間	40名	Tg 50,000	日本人講師
9		HACCP ワークショップ	行政機関役員	1回	2日間	2名	無料	日本人講師
10		HACCP セミナー (行政機関対象)	行政機関職員 (食料品製造・サービス担当)	1回	1日間	19名	無料	日本人講師
11		HACCP コース (工場実践コース)	アルコール・アルヒ製造者	1回	1日間	17名	無料	日本人講師
12		日本語観光ガイド養成実践コース	日本語観光ガイドを目指す者	1回	約2.5週	30名	Tg 70,000	現地講師
13		ビジネスプラン作成支援セミナー	中小企業経営者/銀行ローンオフィサー	2回	5日間/3日間	45名/17名	Tg 60,000	日本人講師
14	ISO9001・14001 セミナー	修了生、管理職員	1回	4日間	12名	Tg 40,000	日本人講師	
15	5S 及び改善コース	経営者、一般人	2回	3日間	66名	Tg 30,000	日本人講師	

ll

afu

5d
con

16	対日ビジネスセミナー (食品分野) 主催:JETRO 共催:MOJC/商工会協所	経営者、一般人	1回	1日間	121名	無料	日本人講師
17	JETRO 共催個別相談会 (食品分野)	食品製造企業	-	-	9社	無料	日本人講師
18	個別経営相談	受講生及び修了生企業	-	-	37社 (累計)	無料	日本人講師

※:「工程管理」は製造業、「店舗管理」はサービス業の選択科目。これら2科目は特別コースとし、一般受講生を含む。

2009年度(見込み含む) (受講者数合計:917名)

	コース名	ターゲット層	回数	期間	受講者数	参加料	講師現地化状況
1	中小企業経営診断指導コース(第8回) <5 課目連続講座>+各 クラス1科目(特別)	製造業・サービス業 の経営者及び管理者	1回	約8ヶ月 (内、講義期 間は約5週)	62名+聴 講生2名	Tg 300,000 (5×Tg 60,000)	日本人講師 (一部課目 は現地講師 と連携)
2	地方セミナー(於:エル デネット)	中小企業経営者、管 理職員、公務員	3回	3~4日間	90名 (定員30×3 回)	無料	日本人講師
3	入門セミナー	中小企業経営診断指 導コースに関心のある 経営者・管理職員	7回	1日間	350名 (定員50×7 回)	Tg 10,000	日本人講師
4	専 門 コース 労務管理	修了生	1回	3日間	40名	Tg 40,000	日本人講師
5	特 別 コ ー ス	工程管理コース	1回	5日間	45名 通常:30名 一般:15名	Tg 60,000	日本人講師
6		店舗管理コース	1回	5日間	45名 通常:30名 一般:15名	Tg 60,000	日本人講師
7		HACCP 指導コース	1回	5日間	30名	Tg 50,000	日本人講師
8		HACCP セミナー (行政機関対象)	1回	1日間	25名	無料	日本人講師
9		日本語観光ガイド 養成実践コース	1回	約2週	30名	Tg 70,000	現地講師
10		ビジネスプラン作 成支援セミナー	2回	5日間	90名	Tg 60,000	日本人講師
11		5S 及び改善コ ース	1回	1日間	29名	無料	現地講師(ス タッフ)
12		現地コンサルタント 養成講座	2回	3日間	50名	Tg 40,000	日本人講師
13	モンゴル国立大学、 EBRD-BAS との共催セ ミナー(経済危機の影響と 対応策)	大学関係者、省庁関 係者、修了生、他	1回	1日間	29名	無料	日本人講師 及び現地講 師
14	企業診断指導(モデル企 業育成)	モデル企業候補企業	-	-	8社(3社)	1回 Tg 30,000	日本人講師 (一部現地 講師と連携)
15	個別経営相談	受講生及び修了生企 業	-	-	40社	受講生および2 年前までの修了 生は無料。それ以 前の修了生は、1 回 Tg 30,000	日本人講師 (一部現地 講師と連携)

※2009年6月末実施時点での実施済りは、1の一部、3の内2回、9・11・13のみ。

以上

164

[Handwritten signatures]

Аппенд 6: Record of Business Course Activities 2 (IT/PC)

1. Мэдээллийн технологийн ахлах инженерүүдийн сургалт

№	Сургалтын нэр	Сургалтын үе	Сургалтын эхний өдөр	Сургалтын төгсөх өдөр	Туслах ажилтан	Сургалтын үнэ	Сургалтын төгсөх өдөр	Сургалтын төгсөх өдөр
1	Ажлын шатны IT Япон хэлний сургалт (4 дахь удаагийн IT сургалт)	Япон хэлний сургалтын төв гэрээгээр явсан	2006.11.06 - 2007.02.28	25	80000Tg	25	IT Инженер 25 хүн	
2	Дунд шатны IT Япон хэлний сургалт	Оюк, Ито, Ёшика	2007.02.28 - 2008.06.30	25	180,000Tg	25	IT Инженер 25 хүн	
3	Програмы хангамж боловсруулалтын яриа (4 дахь удаагийн IT сургалт)	Д. Дэлгэрсайхан	2008.02.20 - 2008.02.26	20	Оюутан 15,000Tg Ажилчин 20,000Tg нийт - 350,000Tg	20	Оюутан 8 хүн IT Инженер 12 хүн	
4	Програмы хангамж боловсруулалтын яриа (4 дахь удаагийн IT сургалт)	Д. Дэлгэрсайхан	2008.02.21 - 2008.02.24	14	Оюутан 15,000Tg Ажилчин 20,000Tg нийт - 250,000Tg	14	Оюутан 6 хүн IT Инженер 8 хүн	
5	JAVA-хэл (4 дахь удаагийн IT сургалт)	Д. Дэлгэрсайхан	2008.02.27 - 2008.03.09	9	Оюутан 25,000Tg Ажилтан 30,000Tg нийт - 280,000Tg	9	Оюутан 2 хүн IT Инженер 7 хүн	
6	Database design/MS-SQL (4 дахь удаагийн IT сургалт)	Д. Өлзий-Орших Д. Сойл-Эрдэнэ	2008.03.14 - 2008.03.26	10	Оюутан 25,000Tg Ажилтан 30,000Tg нийт - 280,000Tg	10	Оюутан 4 хүн IT Инженер 6 хүн	
7	Project Management (4 дахь удаагийн IT сургалт)	Ц. Уранбилэг Д. Дэлгэрсайхан	2008.03.26 - 2008.03.29	6	Оюутан 20,000Tg Ажилтан 24,000Tg нийт - 172,000Tg	6	Оюутан 5 хүн IT Инженер 3 хүн	
8	Workshop (4 дахь удаагийн IT сургалт)	Д. Дэлгэрсайхан	2008.06.11 - 2008.07.08	10	Оюутан 80,000Tg Ажилтан 100,000Tg нийт - 980,000Tg	10	Оюутан 4 хүн IT Инженер 6 хүн	
				121		121		
					Нийт			

2. Компьютерийн сургалт

№	Сургалтын нэр	Сургалтын үе	Сургалтын эхний өдөр	Сургалтын төгсөх өдөр	Туслах ажилтан	Сургалтын үнэ	Сургалтын төгсөх өдөр	Сургалтын төгсөх өдөр
1	Бичээч	Б. Оюунцацег	2006.06 - 2009.06	303	138	10,000Tg	15,000Tg	16 удаа 56 удаа
2	Компьютертай танилцах сургалт	Б. Оюунцацег	2006.06 - 2009.06	358	187	5,000Tg	10,000Tg	21 удаа 49 удаа
3	Excel	Б. Оюунцацег	2006.06 - 2009.06	273	126	7,000Tg	10,000Tg	16 удаа 24 удаа
4	Word "Бизнес бичиг баримт боловсруулах сургалт"	Б. Оюундарь А. Ганхуял	2006.06 - 2009.06	273	100	8,000Tg	15,000Tg	16 удаа 19 удаа
5	Интернет	Б. Оюунцацег	2006.06 - 2009.06	400	236	7,000Tg	10,000Tg	20 удаа 59 удаа
6	PowerPoint "Илтгэл тавьж сурах сургалт"	Б. Оюундарь П. Эрдэнатулга	2006.06 - 2009.06	115	54	15,000Tg	15,000Tg	11 удаа 22 удаа
7	Publisher	Б. Оюунцацег	2006.06 - 2009.06	146	88	6,000Tg	10,000Tg	9 удаа 11 удаа
8	Dreamweaver	Б. Оюунцацег	2006.06 - 2009.06	91	38	20,000Tg	25,000Tg	7 удаа 19 удаа
				1959	947			
					Нийт			

* Сургалт тус бүрт бүртгэх хүний тоо/6 хүн

3. Бага ангийн хүүхдүүдэд зориулсан компьютерийн нэг ө

№	Сургалтын нэр	Сургалтын үе	Сургалтын эхний өдөр	Сургалтын төгсөх өдөр	Туслах ажилтан	Сургалтын үнэ	Сургалтын төгсөх өдөр	Сургалтын төгсөх өдөр
1	Нэг өдрийн компьютерийн танилцах сургалт	2008.10.28/2008.10.29	Төвийн ажилчид	26 хүүхэд	Үнэгүй		Төвөөс хийсэн гарын аялага тарааж өгнө	
2	Нэг өдрийн компьютерийн танилцах сургалт	2009.01.09, 15, 16.28	Төвийн ажилчид	26 хүүхэд	Үнэгүй		Төвөөс хийсэн гарын аялага тарааж өгнө	

Annex 6: Record of Business Course Activities 2 (IT/PC)

1. シニアITエンジニアコース

番号	講座名	講師名	期間	受講者数	修了者数	受講料(一人当たり)	受講料(総額)	受講者内訳
1	IT初級日本語コース (第4回シニアITエンジニアコース)	日本語センターに委託	2006年11月06日～2007年02月28日	25	25	80000Tg		現役エンジニア 25人(100%)
2	IT中級日本語コース (第4回シニアITエンジニアコース)	オノン、伊藤、吉池様	2007年02月26日～2008年06月30日	25	25	180,000Tg		
3	SW開発専門語習得 (第4回シニアITエンジニアコース)	D.デルゲルサイハン	2008年2月20日～2008年2月26日	20	20	学生 15,000Tg/人 一般 20,000Tg/人		IT系学生 8人(40%) 現役エンジニア 12人(60%)
4	UML表記法 (第4回シニアITエンジニアコース)	D.デルゲルサイハン	2008年2月21日～2008年2月24日	14	14	学生 15,000Tg/人 一般 20,000Tg/人		IT系学生 6人(43%) 現役エンジニア 8人(57%)
5	Java言語 (第4回シニアITエンジニアコース)	D.デルゲルサイハン	2008年2月27日～2008年3月9日	9	9	学生 25,000Tg/人 一般 30,000Tg/人		IT系学生 2人(22%) 現役エンジニア 7人(78%)
6	Database design/ MS-SQL/ (第4回シニアITエンジニアコース)	D.ウルジー・オルシホ、 D.ソヨルエルテネ	2008年3月14日～2008年3月26日	10	10	学生 25,000Tg/人 一般 30,000Tg/人		IT系学生 4人(40%) 現役エンジニア 6人(60%)
7	PM概論 (第4回シニアITエンジニアコース)	Ts.オランビレグ	2008年3月20日～2008年3月29日	8	8	学生 20,000Tg/人 一般 24,000Tg/人		IT系学生 5人(62.5%) 現役エンジニア 3人(37.5%)
8	Workshop (第4回シニアITエンジニアコース)	D.デルゲルサイハン	2008年6月11日～2008年7月8日	10	10	学生 80,000Tg/人 一般 100,000Tg/人		IT系学生 4人(40%) 現役エンジニア 6人(60%)
合計				121	121			

2. コンピュータコース

番号	コース名	講師	期間	受講者数	修了者数	2006年～2009年3月までの受講料	2009年4月以降受講料	年間コース回数	現在までの実施回数
1	タイピング	B.オユンツェツェグ	2006年6月～2009年6月	303	138	10,000Tg	15,000Tg	16回	56回
2	ペーシック	B.オユンツェツェグ	2006年6月～2009年6月	358	187	5,000Tg	10,000Tg	21回	49回
3	エクセル	B.オユンツェツェグ	2006年6月～2009年6月	273	126	7,000Tg	10,000Tg	16回	24回
4	ワード「正式レターの書き方」	B.オユンダリ/A.ガントール	2006年6月～2009年6月	273	100	8,000Tg	15,000Tg	16回	19回
5	インターネット	B.オユンツェツェグ	2006年6月～2009年6月	400	236	7,000Tg	10,000Tg	20回	59回
6	パワーポイント「効果的なプレゼンテーションのやり方」	B.オユンダリ P.エルネトウルガ	2006年6月～2009年6月	115	54	15,000Tg	15,000Tg	11回	22回
7	パブレスチャー	B.オユンツェツェグ	2006年6月～2009年6月	146	68	6,000Tg	10,000Tg	9回	11回
8	ドローラムエバ	B.オユンツェツェグ	2006年6月～2009年6月	91	38	20,000Tg	25,000Tg	7回	19回
合計				1959	947				

* コースごとの募集人数は16名

3. 初めてのPC教室

科目名	期間	講師	受講者数	修了者数	受講料	その他備考(使用テキスト・教材)
初めてのPC教室	2008.10.28、2008.10.29	センターのスタッフ	小学校 26人	小学校 26人	無料	センター開発教材
初めてのPC教室	2009.01.09、15、16、28	センターのスタッフ	小学校 64人	小学校 64人	無料	センター開発教材

Annex7: Record of Japanese Language Course Activities

2006 онд явагдсан сургалтууд /Нийт суралцагчдын тоо: 3,455 хүн, Шалгалт өгөгчдийг оролцуулахгүйгээр: 1,958 хүн, Нийт төгсөгч: 270 хүн/

№	Сургалтын нэр	Суралцагч	Хичээлийн агуулга	Хичээлийн тоо	Суралцагчдын тоо	Нийт хамрагдсан хүн	Нийт төгссөн хүн	Төлбөр	Хичээлд заасан багшын харьяалал
1	06-07 оны "Япон хэлний багш нарын мэргэжил дээшлүүлэх сургалт" /эхний хагас/	Япон хэлний багш, Япон хэлний багш бол оныг хураагч	Конспект, гарын авлага бэлтгэх, бодит тоор хичээл заах, хичээл үзэх	21	10	10	10	100007	Япон хэлний мэргэж илтэн багш
2	06-07 оны "Япон хэлний багш нарын мэргэжил дээшлүүлэх сургалт" /сүүлийн хагас/	Япон хэлний багш, Япон хэлний багш бол оныг хураагч	Конспект, гарын авлага бэлтгэх, бодит тоор хичээл заах, хичээл үзэх	26	10	9	10	100007	Япон хэлний мэргэж илтэн багш
3	06-07 оны "Япон хэлний анхан шатны давтан сургалт" /эхний хагас/	Анхан шатны мэдлэгтэй хүн	Ярианы дасгалыг чухалчилсан анхан шатны дүрэм, яриа	21	20	20	12	100007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Япон)
4	06-07 оны "Япон хэлний анхан шатны давтан сургалт" /сүүлийн хагас/	Анхан шатны мэдлэгтэй хүн	Ярианы дасгалыг чухалчилсан анхан шатны дүрэм, яриа	25	20	15	10	100007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Япон)
5	06 оны зун "Кино ашиглан суралцах япон хэлний дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Кино үзэх, агуулгыг ойлгож авах, ярианы дасгал хийх, үгийн сан ба ханзны дасгал хийх	22	32	30	24	200007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
6	06 оны намар "Кино ашиглан суралцах япон хэлний дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Кино үзэх, агуулгыг ойлгож авах, ярианы дасгал хийх, үгийн сан ба ханзны дасгал хийх	42	32	32	15	200007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
7	07 оны хавар "Кино ашиглан суралцах япон хэлний дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Кино үзэх, агуулгыг ойлгож авах, ярианы дасгал хийх, үгийн сан ба ханзны дасгал хийх	30	32	35	27	200007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
8	06 оны намар "Кино ашиглан суралцах япон хэлний дунд шатны сургалт"	2-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Кино үзэх, агуулгыг ойлгож авах, ярианы дасгал хийх, үгийн сан ба ханзны дасгал хийх	29	32	14	9	200007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
9	06 оны намар "Бизнесийн япон хэлний ярианы дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Төрөлжсөн бизнесийн япон хэл гланилцуулах, мөндчилэх, зөвшөөрөл авах, хүсэлт гаргах, утсанд хариу өгөх, цаг авах зэрэг	18	32	32	16	200007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
10	07 оны хавар "Бизнесийн япон хэлний ярианы дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Төрөлжсөн бизнесийн япон хэл гланилцуулах, мөндчилэх, зөвшөөрөл авах, хүсэлт гаргах, утсанд хариу өгөх, цаг авах зэрэг	17	32	32	24	200007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
11	08 оны намар "Бизнесийн япон хэлний ярианы дунд шатны сургалт"	2-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Төрөлжсөн бизнесийн япон хэл гланилцуулах, мөндчилэх, зөвшөөрөл авах, хүсэлт гаргах, утсанд хариу өгөх, цаг авах зэрэг	16	32	32	12	200007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
12	07 оны хавар "Бизнесийн япон хэлний бичгийн дунд шатны сургалт"	2-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Төрлөөр хуваасан, хэлбэрээр хуваасан, бизнесийн бичгийн япон хэл	15	32	27	15	200007	Япон хэлний мэргэж илтэн багш
13	06 оны зун "Анхан шатны 300 ханзны сургалт"	Ханз үсэг эхлэн суралцагч	Ханз бичих аргачлал, анхан шатны 300 ханзыг унших, бичих, холбоо үг, т өгс, ханзны тэмдэг	22	32	30	20	200007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
14	07 оны хавар "Анхан шатны 300 ханзны сургалт"	Ханз үсэг эхлэн суралцагч	Ханз бичих аргачлал, анхан шатны 300 ханзыг унших, бичих, холбоо үг, т өгс, ханзны тэмдэг	27	32	32	14	200007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
15	06-07 он "Мэдээллийн технологийн ахлах инженерүүдэд зориулсан япон хэлний анхан шатны сургалт"	Мэдээллийн технологийн ахлах инженер	"Минна но нихонго" сурах бичгийн 1-44 хичээл, төвшин тогтоох тест	292.5 цаг	25	23	13	800007	Гадны байгууллагад хүсэлт гаргасан
16	06 он "Мэдээллийн технологийн ахлах инженерүүдэд зориулсан япон хэлний дунд шатны сургалт"	Мэдээллийн технологийн ахлах инженер	"Минна но нихонго" сурах бичгийн 37-50 хичээл, Бизнесийн япон хэлний дунд шатны ярианы хичээл, Компьютерийн япон хэлний ярианы дунд шатны сургалт	250.5 цаг	30	22	8	300007	Мэргэжилтэн, Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
17	07 он Мэдээллийн технологийн ахлах инженерүүдэд зориулсан япон хэлний дунд шатны сургалт	Мэдээллийн технологийн ахлах инженер	"Минна но нихонго" сурах бичгийн 45-50 хичээл, Компьютерийн мэргэжлийн үг хэллэг, Бизнесийн япон хэлний ярианы дунд шатны сургалт	250 цаг	25	23	19	900007	Мэргэжилтэн, Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
18	06 оны намар "Япон хэлний дунд дээд төвшний суралцагчдад зориулсан үндсэн чадавцыг дээшлүүлэх сургалт"	3-2 төвшний мэдлэгтэй хүн	Мэргэжлийн сэдвүүдийг унших аргачлал	3	32	32	13	200007	Япон хэлний мэргэж илтэн багш
19	06 он Тусгай лекц "Японоор уран яруу ярих урлаг"	Жирийн иргэд сонирхогчид болон япон хэл суралцагчид	Япон хэлний аяна зүй, Японоор дуудагч сурах, Японы соёл болон үгийн хамраал, асуулт хариулт	2	-	220	-	Үнэ төлбөргүй	Цагайн багш (Япон)
20	06 он "Япон хэлний нэг өдрийн танилцуулах хичээл"	Япон хэл сонирхогчид	Хирагана, Катакана үсэг бичих, ханзны танилцуулга, өөрийгөө танилцуулж сурах, мөндчилж сурах	40	-	633	-	Үнэ төлбөргүй	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
21	07 он "Япон хэлний нэг өдрийн танилцуулах хичээл"	Япон хэл сонирхогчид	Хирагана, Катакана үсэг бичих, ханзны танилцуулга, өөрийгөө танилцуулж сурах, мөндчилж сурах	35	-	655	-	Үнэ төлбөргүй	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
22	06 он "Япон хэлний сар бүрийн тест"	Япон хэлний төвшин т огтоох шалгалт өгөх гэж байгаа хүн	Төвшин тус бүр дээр өмнөх жилүүдийн шалгалтанд өгөгдөж байсан материалууд дээр ажиллуулах	20	-	415	-	140007 (нийт 7у даа)	Япон хэлний мэргэж илтэн багш, Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
23	07 он "Япон хэлний сар бүрийн тест"	Япон хэлний төвшин т огтоох шалгалт өгөх гэж байгаа хүн	Төвшин тус бүр дээр өмнөх жилүүдийн шалгалтанд өгөгдөж байсан материалууд дээр ажиллуулах	28	-	1082	-	140007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
				855.5		3455	270		

lee

efm

8x
CS

ЖЭнэхүү тэмдэглэгээгээр тэмдэглэсэн нь төслийн 1-р үе шатнаас буюу 2007 оны 1-р сарын 21-нд дууссан сургалт болно. ЖШЛгийн хувьд 2 цагаар 1наар хичээл 2007 онд явагдсан сургалтууд /Нийт суралцагчдын тоо: 1,949 хүн, Шалгалт өгөгчдийг оролцуулаагүй: 1,173 хүн, Нийт төгсөгч: 342 хүн/

№	Сургалтын нэр	Суралцагч	Хичээлийн агуулга	Хичээлийн т ог	Сурал цагчд ыг тоо	Нийт х амраг дсан х үн	Нийт т өгсөй хүн	Төлбөр	Хичээл заасан баг шын харъяалал
1	07-08 оны "Япон хэлний багш нарын мэргэжил дээшлүүлэх сургалт" /Хэний хагас/	Япон хэлний багш, Япон хэлний багш бол охыг хураач	Конспект, гарын авлага бэлтгэх, бодн тоор хичээл авах, хичээл үзэх	22	10	10	10	100007	Япон хэлний мэргэж илтэн багш
2	07-08 оны "Япон хэлний багш нарын мэргэжил дээшлүүлэх сургалт" /Сүүлийн хагас/	Япон хэлний багш, Япон хэлний багш бол охыг хураач	Конспект, гарын авлага бэлтгэх, бодн тоор хичээл авах, хичээл үзэх	26	10	10	10	100007	Япон хэлний мэргэж илтэн багш
3	07 он "Япон хэлний заах аргын нээлттэй сөмийгэр"	Япон хэлний багш нар ын мэргэжил дээшлүү лэх сургалтад хамраг дасил	Хичээлийг боловсруулах, анхан шатн ы чухал дүрмүүдийг заах аргачлал, ко нспект бичих аргачлал, дадлага хичээ л	2	40	43	-	Үнэ төлбөрг үй	Япон хэлний мэргэж илтэн багш
4	07 "Powerpoint дээр хичээлийн материалыг бэлдэх а ргачлалын сургалт"	Япон хэлний багш нар ын мэргэжил дээшлүү лэх сургалтад хамраг дасил	PPT-г ашигласан хичээлийг боловсру улах аргыг эзэмшүүлэх	2	10	10	-	Үнэ төлбөрг үй	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол)
5	07 он "Дунд сургуулийн япон хэлний багш нарын заа х аргын үр чадварыг дээшлүүлэх сургалт"	ЕБС-ийн япон хэлний багш нар болон хөдөө орон нутгийн япон хэл ний багш нар	Хичээлийг боловсруулах, анхан шатн ы чухал дүрмүүдийг заах аргачлал, ко нспект бичих аргачлал, дадлага хичээ л	30 цаг	20	12	12	100007	Мэргэжилтэн, Монго лд ажиллаж амьдар ч буй багш (Монгол, Япон)
6	07-08 оны "Япон хэлний анхан шатны давтан сургал т" /Хэний хагас/	Анхан шатны мэдлэгтэ й хүн	Ярианы дасгалыг чухалчилсан анхан шатны дүрэм, яриа	21	20	20	14	100007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Я пон)
7	07-08 оны "Япон хэлний анхан шатны давтан сургал т" /Сүүлийн хагас/	Анхан шатны мэдлэгтэ й хүн	Ярианы дасгалыг чухалчилсан анхан шатны дүрэм, яриа	25	20	20	14	100007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Я пон)
8	07 оны зун "Кино ашиглан суралцах япон хэлний дун д шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэ й хүн	Кино үзэх, агуулгыг ойлгож авах, яриа ны дасгал хийх, үгийн сан ба ханзны дасгал хийх	30	32	27	20	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол, Япон)
9	07 оны намар "Кино ашиглан суралцах япон хэлний дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэ й хүн	Кино үзэх, агуулгыг ойлгож авах, яриа ны дасгал хийх, үгийн сан ба ханзны дасгал хийх	41	32	23	10	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол, Япон)
10	08 оны хавар "Кино ашиглан суралцах япон хэлний дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэ й хүн	Кино үзэх, агуулгыг ойлгож авах, яриа ны дасгал хийх, үгийн сан ба ханзны дасгал хийх	37	32	21	6	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол, Япон)
11	07 оны намар "Кино ашиглан суралцах япон хэлний дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэ й хүн	Кино үзэх, агуулгыг ойлгож авах, яриа ны дасгал хийх, үгийн сан ба ханзны дасгал хийх	15	32	15	11	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол, Япон)
12	07 оны намар "Бизнесийн япон хэлний ярианы дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэ й хүн	Төрөлжсөн бизнесийн япон хэл /тани лдуулах, мэндчилэх, зөвшөөрөл авах, хүсэлт гаргах, угсанд харуу өгөх, цаг авах зэрэг/	17	32	27	20	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол, Япон)
13	08 оны хавар "Бизнесийн япон хэлний ярианы дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэ й хүн	Төрөлжсөн бизнесийн япон хэл /тани лдуулах, мэндчилэх, зөвшөөрөл авах, хүсэлт гаргах, угсанд харуу өгөх, цаг авах зэрэг/	17	32	22	16	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол, Япон)
14	07 оны хавар "Бизнесийн япон хэлний 6с хаягийн д ээд шатны сургалт"	2-р төвшний мэдлэгтэ й хүн	Ухагдахуун, ярилцлагын шалгалт өгөх үеийн дэ жаяг, угсаар ярих урлаг, аж лын байрны соёл, бие хүний соёл, яр илцлагын шалгалт	6	32	30	21	70007	Мэргэжилтэн /дарга/
15	08 оны хавар "Бизнесийн япон хэлний 6с хаягийн д ээд шатны сургалт"	2-р төвшний мэдлэгтэ й хүн	Ухагдахуун, ярилцлагын шалгалт өгөх үеийн дэ жаяг, угсаар ярих урлаг, аж лын байрны соёл, бие хүний соёл, яр илцлагын шалгалт	8	32	32	23	70007	Мэргэжилтэн /дарга/
16	07 оны намар "Бизнесийн япон хэлний ярианы дээд шатны сургалт"	2-р төвшний мэдлэгтэ й хүн	Төрөлжсөн бизнесийн япон хэл /тайл барлах өгөх, ятгах, голцол халах, илт гэлт хэлэх зэрэг/	17	32	23	15	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол, Япон)
17	08 оны хавар "Бизнесийн япон хэлний бичгийн дээд шатны сургалт"	2-р төвшний мэдлэгтэ й хүн	Төрлөөр хуваасан, хэлбэрээр хувааса н, бизнесийн бичгийн япон хэл	17	32	29	18	300007	Мэргэжилтэн, Монго лд ажиллаж амьдар ч буй багш (Монго л)
18	07 оны зуны үдээс хойших сургалт "Анхан шатны 300 ханзны сургалт"	Ханз үсэг эхлэн сурал цагч	Ханз бичих аргачлал, анхан шатны 300 ханзыг унших, бичих, холбоо үг, т аст, ханзны тэмцээн	27	32	32	30	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
19	07 оны зуны оройн сургалт "Анхан шатны 300 ханз ны сургалт"	Ханз үсэг эхлэн сурал цагч	Ханз бичих аргачлал, анхан шатны 300 ханзыг унших, бичих, холбоо үг, т аст, ханзны тэмцээн	27	32	32	24	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол, Япон)
20	07 оны намар "Анхан шатны 300 ханзны сургалт"	Ханз үсэг эхлэн сурал цагч	Ханз бичих аргачлал, анхан шатны 300 ханзыг унших, бичих, холбоо үг, т аст, ханзны тэмцээн	27	32	34	21	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол)
21	08 оны хавар "Дунд шатны ханзны сургалт"	Анхан шатны ханз үсг ийг эзэмшсэн хүмүүс	Дунд шатны ханзыг унших, бичих, хол боо үг, тест, ханзны тэмцээн	20	32	22	16	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол)
22	07-08 он "Мэдээллийн технологийн ахлах инженеру үздэг зориулсан япон хэлний анхан шатны сургалт"	Мэдээллийн технолог ийн ахлах инженер	"Минна но нихонго" сурах бичгийн 1-44 хичээл, төвшин тогтоох тест	265 цаг	25	24	17	900007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол, Япон)
23	08 он "Мэдээллийн технологийн ахлах инженерүүдэ д зориулсан япон хэлний дунд шатны сургалт"	Мэдээллийн технолог ийн ахлах инженер	"Минна но нихонго" сурах бичгийн 45-60 хичээл, Бизнесийн япон хэлний дун д шатны ярианы хичээл, Компьютер ийн япон хэлний ярианы дунд шатны сургалт	150 цаг	25	20	14	900007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол, Япон)
24	07 он тусгай лекц "Япон хэлний багш нарт зориулса н авиа зүйн заах аргын сургалт"	Япон хэлний Монгол б агш нар	Оролцогч нэг бүрийг хамруулсан авиа зүйн зааварчилгаа, асуулт хариулт	2	30	30	-	Үнэ төл бөргүй	Цэгийн багш (Япо н)
25	07 он тусгай лекц "Япон хэлийг сурах нь"	Жирийн иргэд сонирхо гчид болон япон хэл су ралцагчид	Япон хэлний онцлог өнгө аяс болон а ливээ зүйлийг шууд бус тойруу аргаа р хархэн илдэрхийлэх арга	2	-	180	-	Үнэ төл бөргүй	Цэгийн багш (Япо н)
26	08 он "Япон хэлний нэг өдрийн танилцуулах хичээл"	Япон хэл сонирхогчид	Хирагана, Катакана үсэг бичих, ханз ны танилцуулга, өөрийгөө танилцуулж сурах, мэндчилж сурах	32	-	425	-	Үнэ төл бөргүй	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол, Япон)
27	08 он Япон хэлний сар бүрийн тест	Япон хэлний төвшин т огтоох шалгалт өгөх гэ ж байгаа хүн	Төвшин тус бүр дээр өмнөх жилүүдий н шалгалтанд өгөгдөж байсан матери алууд эзэр ажиллуулах	28	-	776	-	140007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (М онгол)

Нийлбэр дүн

890.6 1949 342

ЖШЛгийн хувьд 2 цагаар 1наар хичээл

601

Handwritten signatures and marks at the bottom of the page.

2008 онд явагдсан сургалтууд /Нийт суралцагчдын тоо: 755 хүн, шалгалт өгөгчдийг оролцуулаагүй: 720 хүн, Нийт төгсөгч: 318 хүн/

№	Сургалтын нэр	Суралцагч	Хичээлийн агуулга	Хичээлийн тоо	Суралцагчдыг тоо	Нийт хамрагдсан хүн	Нийт төгссөн хүн	Төлбөр	Хичээл яваасан багшын харьцалал
1	08-09 оны "Япон хэлний багш нарын мэргэжил дээшлүүлэх сургалт" /эхний хагас/	Япон хэлний багш, Япон хэлний багш бол хэсэг хусагч	Конспект, гарын авлага бэлтгэх, бодит тоор хичээл заах, хичээл үзэх	22	10	10	10	100007	Япон хэлний мэргэжл итгэн багш
2	08-09 оны "Япон хэлний багш нарын мэргэжил дээшлүүлэх сургалт" /сүүлийн хагас/	Япон хэлний багш, Япон хэлний багш бол хэсэг хусагч	Конспект, гарын авлага бэлтгэх, бодит тоор хичээл заах, хичээл үзэх	26	10	8	8	100007	Япон хэлний мэргэжл итгэн багш
3	08 он "Япон хэлний заах арга" нээлттэй семинар	Япон хэлний багш нар өмн мэргэжил дээшлүүлэх сургалтанд хамрагдагчид	Хичээлийн явц, залж оруулах, үндсэн дасгал, бодит дасгал	2	25	25	-	Үнэ төлбөргүй	Япон хэлний мэргэжл итгэн багш
4	08 "Powerpoint дээр хичээлийн материалыг бэлдэх аргачлалын сургалт"	Япон хэлний багш нарын мэргэжил дээшлүүлэх сургалтанд хамрагдагчид	PPT-г ашигласан хичээлийг боловсруулах аргыг эзэмшүүлэх	1	10	10	-	Үнэ төлбөргүй	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол)
5	08 он "Япон хэлний багш нарын заах аргын ур чадавж дээшлүүлэх сургалт"	ЕБС-ийн япон хэлний багш нар болон хөдөө орон нутгийн япон хэлний багш нар	Хичээлийн явц, хичээл үзэх, багаар х арилцан ярилцах, конспект бичих арг ачлал, дадлага хичээл	27,5 цаг	20	16	16	100007	Мэргэжилтэн, Монголд ажиллаж амьдарч буй багш (Монгол, Япон)
6	08-09 оны "Япон хэлний анхан шатны давтан сургалт" /эхний хагас/	Анхан шатны мэдлэгтэй хүн	Ярианы дасгалыг чухалчилсан анхан шатны дүрэм, яриа	23	20	20	13	100007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Япон)
7	08-09 оны "Япон хэлний анхан шатны давтан сургалт" /сүүлийн хагас/	Анхан шатны мэдлэгтэй хүн	Ярианы дасгалыг чухалчилсан анхан шатны дүрэм, яриа	26	20	20	15	100007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Япон)
8	08 оны зун "Юнио ашиглан суралцах япон хэлний дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Юнио үзэх, агуулгыг ойлгож авах, ярианы дасгал хийх, үгийн сан ба ханзны дасгал хийх	15	32	31	26	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
9	08 оны хавар "Юнио ашиглан суралцах япон хэлний дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Юнио үзэх, агуулгыг ойлгож авах, ярианы дасгал хийх, үгийн сан ба ханзны дасгал хийх	34	32	19	10	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
10	09 оны хавар "Юнио ашиглан суралцах япон хэлний дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Юнио үзэх, агуулгыг ойлгож авах, ярианы дасгал хийх, дүрмийн тайлбар, үгийн сан ба ханзны дасгал хийх	20	32	19	11	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
11	08 оны хавар "Сонигоор суралцах япон хэлний дунд дээд шатны сургалт"	2-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Сониго гүйцлэгж унших, нэг бүрчлэн унших зэрэг аргуудыг зааж хурдан унших тэхник эзэмшүүлэх	10	32	31	23	150007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Япон)
12	08 оны намар "Бизнесийн япон хэлний ярианы дунд шатны сургалт"	3-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Төрөлжсөн бизнесийн япон хэл /тангилдуулах, мандчилэх, зөвшөөрөл авах, хүсэлт гаргах, угсаанд хариу өгөх, цаг авах заалт/	17	32	22	15	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
13	08 оны намар "Бизнесийн япон хэлний ярианы дээд шатны сургалт"	2-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Төрөлжсөн бизнесийн япон хэл /тайлбарлаж өгөх, ятгах, гомдол хэлэх, илтгэл тавих зэрэг/	17	32	14	6	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
14	08 оны хавар "Бизнесийн япон хэлний бичгийн дээд шатны сургалт"	2-р төвшний мэдлэгтэй хүн	Төрлөөр хуваасан, хэлбэрээр хуваасан, бизнесийн бичгийн япон хэл	15	32	21	19	300007	Мэргэжилтэн, Монголд ажиллаж амьдарч буй багш (Монгол)
15	08 оны зуны үлдээс өмнөх сургалт "Анхан шатны 300 ханзны сургалт"	Ханз үсэг эхлэн суралцагч	Ханз бичих аргачлал, анхан шатны 300 ханзыг унших, бичих, холбоо үг, т өст, ханзны тэмцээн	27	32	32	25	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
16	08 оны зуны оройн сургалт "Анхан шатны 300 ханзны сургалт"	Ханз үсэг эхлэн суралцагч	Ханз бичих аргачлал, анхан шатны 300 ханзыг унших, бичих, холбоо үг, т өст, ханзны тэмцээн	27	32	32	24	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
17	08 оны намар "Анхан шатны 300 ханзны сургалт"	Ханз үсэг эхлэн суралцагч	Ханз бичих аргачлал, анхан шатны 300 ханзыг унших, бичих, холбоо үг, т өст, ханзны тэмцээн	27	32	32	17	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
18	09 оны хавар "Анхан шатны 300 ханзны сургалт"	Ханз үсэг эхлэн суралцагч	Ханз бичих аргачлал, анхан шатны 300 ханзыг унших, бичих, холбоо үг, т өст, ханзны тэмцээн	27	32	33	15	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
19	08 оны хавар "Дунд шатны ханзны сургалт"	Анхан шатны ханз үсгийг эзэмшсэн хүмүүс	Дунд шатны ханзыг унших, бичих, холбоо үг, төст, ханзны тэмцээн	20	32	33	21	300007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
20	08 оны намар "Япон хэлний төвшин тогтоох шалгалтын 1-р төвшинд бэлтгэх сургалт"	1-р төвшний шалгалт өгөгчид	Зөв харуултын тайлбарлаж өгөх, дасгал хийлгэх, харуулгаа тулгах, тайлбарлалтын даалгавар	6	32	33	21	100007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
21	08 оны намар "Япон хэлний төвшин тогтоох шалгалтын 2-р төвшинд бэлтгэх сургалт"	2-р төвшний шалгалт өгөгчид	Зөв харуултын тайлбарлаж өгөх, дасгал хийлгэх, харуулгаа тулгах, тайлбарлалтын даалгавар	6	32	32	23	100007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
22	08 он тусгай лекц "Япон хэлний багш нарт зориулсан авна зүйн заах аргын сургалт"	Япон хэлний Монгол багш нар	Эгилмг авианы ач холбогдол, өргөлт з аргийг заах	1	32	33	-	Үнэ төлбөргүй	Цагийн багш (Япон)
23	08 он тусгай лекц "Япончуудын зурх сэтгэл"	Жирийн иргэд сонирхогчид болон япон хэл суралцагчид	Японы үндэсний дуу, Япончуудын байгалийн шүтэх үзэл зэргийг тайлбарлах	1	90	85	-	Үнэ төлбөргүй	Цагийн багш (Япон)
24	08 он тусгай лекц "Зурх сэтгэлээ хэрхэн үг аригаар илэрхийлэх тухай - нээтрүүлэгчийн 30 жилийн туршлагаас"	Жирийн иргэд сонирхогчид болон япон хэл суралцагчид	Харилцаж байгаа хүнийхээ байр суурин дээр өөрийгөө тавьж үзээд зурх сэтгэлээс ярихын чухлыг тайлбарлан ярих үзлэх	1	50	35	-	Үнэ төлбөргүй	Цагийн багш (Япон)
25	08 он "Япон хэлний нэг өдрийн танилцуулах хичээл"	Япон хэл сонирхогчид	Хиратава, Катакана үсэг бичих, ханзны танилцуулга, өөрийгөө танилцуулж сулах, янзчилж сулах	46	-	74	-	Үнэ төлбөргүй	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
26	09 он Япон хэлний сар бүрийн төст	Япон хэлний мэдлэгийн төвшин тогтоох шалгалт өгөх гэж байгаа хүн	Төвшин тус бүр дээр өмнөх жилүүдийн шалгалтанд өгөгдөж байсан материалыг дахин эзэмшүүлэх	28	-	35	-	140007	Монголд ажиллаж а мьдарч буй багш (Монгол, Япон)
Нийлбэр дүн				458,75	735	755	318		

※Цагийн хувьд 2 цагаар 1 цагаар хичээл

ll

afm

3d

Annex7: Record of Japanese Language Course Activities

2006年度開講 (受講者数合計:3,455名、テスト受験を除く:1,950名、修了者数:270名)

№	コース名	対象	講義内容	達成目標	コマ数	定員	受講者数	修了者数	受講料	講師現地化状況
1	06-07 日本語教育実習コース(前期)	教員、教員志望者	教案・教具作成、実習授業、授業見学	教授法習得	24	10	10	10	10000円	専門家
2	06-07 日本語教育実習コース(後期)	教員、教員志望者	教案・教具作成、実習授業、授業見学	教授法習得	26	10	9	10	10000円	専門家
3	06-07 日本語初級総復習コース(前期)	初級既習者	口頭練習を中心とした初級文型の指導	初級文型理解、会話力向上	21	20	20	12	10000円	現地講師(日本人)
4	06-07 日本語初級総復習コース(後期)	初級既習者	口頭練習を中心とした初級文型の指導	初級文型理解、会話力向上	25	20	15	10	10000円	現地講師(日本人)
5	06秋 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、読書・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	22	32	30	24	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
6	06秋 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、読書・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	42	32	32	15	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
7	07春 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、読書・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	30	32	35	27	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
8	06秋 映画で学ぶ日本語上級コース	2級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、読書・漢字練習	楽しみながら上級会話力育成	29	32	14	9	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
9	06秋 ビジネス日本語中級会話編	3級程度	機能別ビジネス日本語(紹介、挨拶、許可、依頼、電話、アポイント等)	ビジネス中級会話習得	18	32	32	15	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
10	07春 ビジネス日本語中級会話編	3級程度	機能別ビジネス日本語(紹介、挨拶、許可、依頼、電話、アポイント等)	ビジネス中級会話習得	17	32	32	24	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
11	06秋 ビジネス日本語上級会話編	2級程度	機能別ビジネス日本語(説明、意見、依頼、クレーム、プレゼンテーション等)	ビジネス上級会話習得	18	32	32	12	20000円	専門家・現地講師(モンゴル人)
12	07春 ビジネス日本語上級文書編	2級程度	機能別、形式別ビジネス文書の書き方の指導と添削	ビジネス文書作成法習得	15	32	27	15	20000円	専門家
13	06夏 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字300の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	22	32	30	20	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
14	07春 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字300の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	32	14	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
15	06-07 初級IT日本語コース	ITエンジニア	みんなの日本語1~44課、実力テスト	初級中級までの文法習得	222.5時間	25	23	13	80000円	外協委託
16	06 中級IT日本語コース	ITエンジニア	みんなの日本語37~50課、ビジネス日本語中級会話、実践IT中級会話	初級文法習得、ビジネス中級会話習得	250.5時間	30	22	8	30000円	専門家・現地講師(モンゴル人・日本人)
17	07 中級IT日本語コース	ITエンジニア	みんなの日本語45~50課、IT用語、ビジネス中級会話、実力テスト	初級文法習得、ビジネス中級会話習得	250時間	25	23	10	90000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
18	06秋 中・上級者のための読解講座	3~2級程度	専門文章の読解ストラテジー	読解ストラテジー習得	3	32	32	13	2000円	専門家
19	06 特別講座「日本語の話し方」	一般、日本語学習者	日本語の発声法、日本語らしい発音、日本の文化と言葉の関係、質疑応答		2	-	220	-	無料	外協講師(日本人)
20	06 日本語一日体験授業	日本語未習者	ひらがな・かたかなの書き方、漢字紹介、自己紹介、あいさつ	日本語に触れる、日本語に興味を持つ	40	-	833	-	無料	現地講師(モンゴル人・日本人)
21	07 日本語一日体験授業	日本語未習者	ひらがな・かたかなの書き方、漢字紹介、自己紹介、あいさつ	日本語に触れる、日本語に興味を持つ	35	-	855	-	無料	現地講師(モンゴル人・日本人)
22	06 日本語月例実力テスト	能力試験受験者	各級の過去問題による模擬試験	試験合格	20	-	415	-	14000円(7回)	専門家・現地講師(モンゴル人)
23	07 日本語月例実力テスト	能力試験受験者	各級の過去問題による模擬試験	試験合格	28	-	1082	-	14000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
計					855.5		3455	270		

※網がけは、フェーズ1期間中(～2007年1月21日)に終了。

※時間単位は2時間単位でコマに換算

cel

Handwritten signatures and initials.

2007年度開講（受講者数合計：1,949名、テスト受験を除く：1,173名、修了者数：342名）

No.	コース名	対象	講義内容	達成目標	コマ数	定員	受講者数	修了者数	受講料	講師現地化状況
1	07-08 日本語教育実習コース(前期)	教員、教員志望者	教案・教具作成、実習授業、授業見学	教授法習得	22	10	10	10	10000円	専門家
2	07-08 日本語教育実習コース(後期)	教員、教員志望者	教案・教具作成、実習授業、授業見学	教授法習得	20	10	10	10	10000円	専門家
3	07「日本語教授法」公開講座	教育実習コース参加者	授業の組み立て方、初級重要文型の教え方、教案の書き方、模擬授業	教授法習得、教師間ネットワーク形成	2	40	43	-	無料	専門家
4	07「PPT作成講座」	教育実習コース参加者	教育実習時で使うPPTの作成方法を指導	PPT作成技術習得	2	10	10	-	無料	現地講師(モンゴル人)
5	07 中学校日本語教師研修	中学校教員、地方教員	授業の組み立て方、初級重要文型の教え方、教案の書き方、模擬授業	教授法習得、教師間ネットワーク形成	30時間	20	12	12	10000円	専門家・現地講師(モンゴル人・日本人)
6	07-08 日本語初級総復習コース(前期)	初級既習者	口頭練習を中心とした初級文型の指導	初級文型理解、会話力向上	21	20	20	14	10000円	現地講師(日本人)
7	07-08 日本語初級総復習コース(後期)	初級既習者	口頭練習を中心とした初級文型の指導	初級文型理解、会話力向上	25	20	20	14	10000円	現地講師(日本人)
8	07春 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、読書・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	30	32	27	20	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
9	07秋 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、読書・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	41	32	23	10	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
10	08春 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、読書・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	37	32	21	6	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
11	07秋 映画で学ぶ日本語上級コース	2級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、読書・漢字練習	楽しみながら上級会話力育成	16	32	15	11	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
12	07秋 ビジネス日本語中級会話編	3級程度	模擬別ビジネス日本語(紹介、挨拶、許可、依頼、電話、アポイント等)	ビジネス中級会話習得	17	32	27	20	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
13	08春 ビジネス日本語中級会話編	3級程度	模擬別ビジネス日本語(紹介、挨拶、許可、依頼、電話、アポイント等)	ビジネス中級会話習得	17	32	22	18	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
14	07春 ビジネス日本語上級マナー編	2級程度	報連、面接でのマナー、電話でのマナー、仕事でのマナー、社会人としてのマナー、模擬面接	ビジネスマナー習得	6	32	30	21	7000円	専門家(所長)
15	08春 ビジネス日本語上級マナー編	2級程度	報連、面接でのマナー、電話でのマナー、仕事でのマナー、社会人としてのマナー、模擬面接	ビジネスマナー習得	8	32	32	23	7000円	専門家(所長)
16	07秋 ビジネス日本語上級会話編	2級程度	模擬別ビジネス日本語(説明、意見、説得、クレーム、プレゼンテーション等)	ビジネス上級会話習得	17	32	23	15	30000円	専門家・現地講師(モンゴル人・日本人)
17	08春 ビジネス日本語上級文書編	2級程度	縦書き、形式別ビジネス文書の書き方の指導と添削	ビジネス文書作成法習得	17	32	23	18	30000円	専門家・現地講師(日本人)
18	07夏午後 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字301の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	32	30	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
19	07夏夜 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字302の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	32	24	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
20	07秋 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字303の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	34	21	30000円	現地講師(モンゴル人)
21	08春 ワクワク漢字中級コース	初級漢字修了者	中級漢字200の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	中級漢字習得	20	32	22	18	30000円	現地講師(モンゴル人)
22	07-08 初級IT日本語コース	ITエンジニア	みんなの日本語1~44課、IT用語、ビジネス初級会話、実力テスト	初級中盤までの文法習得	285時間	25	24	17	80000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
23	08 中級IT日本語コース	ITエンジニア	みんなの日本語45~50課、IT用語、ビジネス中級会話、実力テスト	3級+IT用語+ビジネス中級会話	150時間	25	20	14	90000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
24	07 特別講座「日本語教師のための発音指導法」	モンゴル人日本語教師	参加者一人一人への発音指導、質疑応答		2	30	30	-	無料	外部講師(日本人)
25	07 特別講座「日本語習得の秘訣」	一般、日本語学習者	日本語独特のリズムや言い回しの習得方法		2	-	180	-	無料	外部講師(日本人)
26	08 日本語一日体験授業	日本語未習者	ひらがな・かたかなの書き方、漢字紹介、自己紹介、あいさつ	日本語に触れる、日本語に興味を持つ	32	-	415	-	無料	現地講師(モンゴル人・日本人)
27	08 日本語月例実力テスト	能力試験受験者	各級の過去問題による模擬試験	試験合格	28	-	776	-	140000円	現地講師(モンゴル人)
計					690.5		1949	342		

※時間単位は2時間で1コマに換算

bl

zfn

BA
ad

2008年度開講（受講者数合計：755名、テスト受験を除く：720名、修了者数：318名）

№	コース名	対象	講義内容	達成目標	コマ数	定員	受講者数	修了者数	受講料	講師現地化状況
1	08-00 日本語教育実習コース(前期)	教員、教員志望者	教案・教具作成、実習授業、授業見学	教授法習得	22	10	10	10	10000円	専門家
2	08-09 日本語教育実習コース(後期)	教員、教員志望者	教案・教具作成、実習授業、授業見学	教授法習得	28	10	8	8	10000円	専門家
3	08「日本語教授法」公開講座	教育実習コース参加者	授業の流れ、導入、基本練習、応用練習	教授法理解	2	25	25	-	無料	専門家
4	08「PPT作成講座」	教育実習コース参加者	教育実習科で使うPPTの作成方法を指導	PPT作成技術習得	1	10	10	-	無料	現地講師(モンゴル人)
5	08 日本語教授法演習コース	中学校教員、地方教員	授業の流れ、授業見学、ワークショップ、教案の書き方、模擬授業	教授法習得、教師間ネットワーク形成	27.5 時間	20	16	16	10000円	専門家・現地講師(モンゴル人・日本人)
6	08-09 日本語初級総復習コース(前期)	初級既習者	口頭練習を中心とした初級文型の指導	初級文型理解、会話力向上	23	20	20	13	10000円	現地講師(日本人)
7	08-09 日本語初級総復習コース(後期)	初級既習者	口頭練習を中心とした初級文型の指導	初級文型理解、会話力向上	26	20	20	15	10000円	現地講師(日本人)
8	08春 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、読書・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	15	32	31	28	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
9	08秋 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、読書・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	34	32	19	10	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
10	09春 映画で学ぶ日本語中上級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、読書・漢字練習、文法解説、文化紹介	楽しみながら中級会話力育成	20	32	19	11	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
11	09春 新聞で学ぶ日本語中上級コース	2級程度	新聞記事にスキミング、スキミングなどストラテジーを意識した読解方法を指導	読解ストラテジー習得	10	32	31	23	15000円	現地講師(日本人)
12	08秋 ビジネス日本語中級会話編	3級程度	通称別ビジネス日本語(紹介、挨拶、許可、依頼、電話、アポイント等)	ビジネス中級会話習得	17	32	22	15	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
13	08秋 ビジネス日本語上級会話編	2級程度	通称別ビジネス日本語(説明、意見、依頼、クレーム、プレゼンテーション等)	ビジネス上級会話習得	17	32	14	6	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
14	08春 ビジネス日本語上級文書編	2級程度	通称別、形式別ビジネス文書の書き方の指導と演習	ビジネス文書作成法習得	15	32	21	19	30000円	専門家・現地講師(モンゴル人)
15	08夏午前 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字300の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	32	25	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
16	08夏夜 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字301の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	32	24	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
17	08秋 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字302の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	32	17	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
18	08春 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字303の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	33	15	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
19	08春 ワクワク漢字中級コース	初級漢字修了者	中級漢字200の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	中級漢字習得	20	32	33	21	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
20	08秋 日本語能力試験対策講座1級	1級受験者	解法を説明、練習問題、答え合わせ、解説、演習	試験合格	6	32	33	21	10000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
21	08秋 日本語能力試験対策講座2級	2級受験者	解法を説明、練習問題、答え合わせ、解説、演習	試験合格	6	32	32	23	10000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
22	08 特別講座「日本語教師のための発音指導法」	モンゴル人日本語教師	発音の大切さ、イントネーション・アクセントを実践的に指導		1	32	33	-	無料	外務講師(日本人)
23	08 特別講座「日本人の心」	一般、日本語学習者	日本の初級、日本人の書道観などについて講演		1	80	85	-	無料	外務講師(日本人)
24	08 特別講座「心を伝える話し方～インタビュー30年の経験から」	一般、日本語学習者	聞き手の立場に立って、誠意をこめて話すことの大切さについて講演		1	50	35	-	無料	外務講師(日本人)
25	08 日本語一日体験授業	日本語未習者	ひらがな・かたかなの書き方、漢字紹介、自己紹介、あいさつ	日本語に触れる、日本語に興味を持つ	46	-	74	-	無料	現地講師(モンゴル人・日本人)
26	09 日本語月例実力テスト	能力試験受験者	各級の過去問題による模擬試験	試験合格	28	-	35	-	14000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
計					458.75	735	755	318		

※時間単位は2時間で1コマに換算

cal

afm

ST

cid

Annex8: Record of Mutual Exchange Activities

* 2006年度は2007年1月から3月分、2009年度は2009年4月から6月分

1. 相互理解促進事業

(1) 事業の開催

コース・事業	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	合計
市民講座	—	(9回) 476名	(9回) 469名	(3回) 198名	1143名
IT折り紙教室	(9回) 237名	(14回) 468名	(19回) 423名	(8回) 226名	1354名
定期映画会	(6回) 269名	(24回) 939名	(20回) 774名	(1回) 39名	2021名
合計	(15回) 506名	(47回) 1883名	(48回) 1666名	(12回) 463名	4518名

(2) 関連事業への会場貸出

事業内容	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	合計
日本大使館主催事業	11回	18回	6回	8回	43回
JICA主催事業	4回	22回	25回	1回	52回
日本センター主催事業	—	3回	5回	5回	13回
日本センター後援事業	—	6回	7回	4回	17回
モンゴル国立大学主催事業	—	6回	6回	1回	13回
その他	13回	40回	29回	10回	92回
合計	28回	95回	78回	29回	230回

(3) 受託事業

受託先組織名	プログラム名	対象
博報堂	海外教師日本研修プログラム	中学生に日本語を教えている効率学校の日本語教師
博報堂	海外児童日本体験プログラム	前述プロジェクトで日本へ行った教師の学校の児童
アジア経営開発協力財団 (FAMD)	「ものづくり」日本語弁論大会	日本で2年以上滞在したことのないモンゴル国籍を持つ若者
ひようご環境創造協会 「モンゴル森林再生センター」*	専門家育成の活動	大学教授・植物学・環境学などの学生
ひようご環境創造協会 「モンゴル森林再生センター」*	一般市民への啓蒙活動	奨学生・中学生・高校生・大学生・一般

*現在検討中

2. 図書館事業

(1) 利用者数

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	合計
年間利用者数	5370人	20456人	21638人	4780人	51844人
新規登録者	549名	2121名	2241名	501名	5412人

(2) 事業実績

事業内容	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	合計
①定期的事業					
作家の紹介	—	—	10回	3回	13回
今月の一冊	—	—	12回	3回	15回
「世界のあれこれコラム」	—	—	14回	6回	20回
「日本語で話しましょう」しゃべり場	—	—	6回	—	6回
②共催事業					
「モンゴルの木」書籍紹介セミナー	—	—	1回(70名)	—	1回
「すばらしい配膳術」公開セミナー	—	—	—	1回(250名)	1回
留学説明会	—	1回(1000名)	1回(350名)	—	2回
合計	0	1回	44回	13回	58回

③その他の図書館関連の活動

2006年度	視聴覚コーナーの家具の入れ替え、コンピュータ用機の入れ替え、新着書コーナーの設置、留学コーナーの資料整理方法の変更
2007年度	情報交換コーナーの設置、留学資料コーナーの充実、日本語教科書、日本語教育ビデオ、辞書類の購入、サービス用コピー機2台の購入、DVD機2台、ヘッドホン10台、ラミネート機2台を購入
2008年度	ロッカー設置、机の配置変更及び席の増加、留学情報コーナー位置変更、利用者カード用USBカメラ更新、利用者の写真背景ボード更新、モンゴル語書籍及び日本語書籍の購入、図書室スタッフ制服作成
2009年度	モンゴル語書籍の購入、書籍検索用伝子カタログの復活

kl

mpu BX

Annex8: Record of Mutual Exchange Activities

*2006 он гэдэгт 2007 оны 1 сараас 3 сар хүртэлх ажлууд, 2009 он гэдэгт 2009 оны 4 сараас 6 сар хүртэлх

1. Хамтын ажиллагааг бэлжүүлэн хөгжүүлэхэд авч хэрэгжүүлсэн ажлууд

(1) Зохион байгуулсан ажлууд

Курс, үйл ажиллагаа	2006 он	2007он	2008 он	2009 он	Нийт
Нээлттэй семинар		(9 удаа) 476 хүн	(9 удаа) 469 хүн	(3 удаа) 198 хүн	1143 хүн
Интернэтийн цаасан нугалбарын хичээл	(9 удаа) 237 хүн	(14 удаа) 468 хүн	(19 удаа) 423 хүн	(8 удаа) 226 хүн	1354 хүн
Ээлжит кино өдөрлөг	(6 удаа) 269 хүн	(24 удаа) 939 хүн	(20 удаа) 774 хүн	(1 удаа) 39 хүн	2021 хүн
Нийт	(15 удаа) 506 хүн	(47 удаа) 1883 хүн	(48 удаа) 1666 хүн	(12 удаа) 463 хүн	4518 хүн

(2) Холбогдох арга хэмжээ, уулзалтуудад танхим түрээслэх тухай

Үйл ажиллагаа	2006 он	2007он	2008 он	2009 он	Нийт
Японы элчин сайдын яам зохион байгуулсан	11 удаа	18 удаа	6 удаа	8 удаа	43 удаа
ЖАЙКА-аас зохион байгуулсан	4 удаа	22 удаа	25 удаа	1 удаа	52 удаа
Япон төв хамтран зохион байгуулсан		3 удаа	5 удаа	5 удаа	13 удаа
Япон төв дэмжин зохион байгуулсан		6 удаа	7 удаа	4 удаа	17 удаа
МУИС-аас зохион байгуулсан		6 удаа	6 удаа	1 удаа	13 удаа
Бусад	13 удаа	40 удаа	29 удаа	10 удаа	92 удаа
Нийт	28 удаа	95 удаа	78 удаа	29 удаа	230 удаа

(3) Монгол-Японы төвийн захиалгат ажлууд

Байгууллагын нэр	Хөтөлбөр	Оролцоогчид
"Хақүхо" сан	Хилийн чанд дахь Япон хэлний багш нарыг Японд сургалтад хамруулах хөтөлбөр	Дунд ангийн сурагчдад Япон хэл заадаг төрийн өмчийн ЕБС-ийн Япон хэлний багш нар
"Хақүхо" сан	Гадаад улс орны хүүхдүүд Япон оронтой танилцах хөтөлбөр	Өнмөх туслийн хүрээнд Япон явсан багш нарын ажилладаг ЕБС -ийн бага ангийн сурагчид
Азийн удирдлагын хөгжлийг дэмжих сан (FAMD)	"Аж Үйлдвэрлэлийн хөгжил ба бүтээгдэхүүний үйлдвэрлэл" Япон хэлний илтгэлийн уралдаан	Японд 2 жилээс дээш хугацаагаар амьдарч байгаагүй Монгол Улсын иргэн, залуучууд
*Хёго мужийн байгаль орчны дэвшлийн нийгэмлэг "Монголын ойг нөхөн сэргээх төв"	Мэргэжилтэн бэлтгэх үйл ажиллагаа	Их дээд сургуулийн багш, ургамал судлал, байгаль орчин судлал гэх мэт чиглэлээр суралцаж буй оюутнууд
	Жирийн иргэдэд таниулах үйл ажиллагаа	ЕБС-ийн бага, дунд, ахлах ангийн сурагчид, Их дээд сургуулийн оюутнууд, жирийн иргэд

Жич: * Үйл ажиллагаа одоогийн байдлаар хэлэлцэгдэж байгаа болно.

2. Номын сангийн үйл ажиллагаа

(1) Үйлчлүүлэгчдийн тоо

	2006 он	2007он	2008 он	2009 он	Нийт
Нийт үйлчлүүлэгчдийн тоо	5370 хүн	20456 хүн	21038 хүн	4780 хүн	51644 хүн
Шинээр бүртгүүлэгч	549 хүн	2121 хүн	2241 хүн	501 хүн	5412 хүн

ca

for 3x
ca

(2) Зохион байгуулсан үйл ажиллагаа

Үйл ажиллагааны агуулга	2006 он	2007 он	2008 он	2009 он	Нийт
①Тогтмол үйл ажиллагаа					
Зохиолчийн танилцуулга			(10 удаа)	(3 удаа)	13 удаа
Номын танилцуулга			(12 удаа)	(3 удаа)	15 удаа
Ертөнцийн сонин хачин			(14 удаа)	(6 удаа)	20 удаа
"Япон хэлээр ярилцацгаая" ярилцлагын цаг			(6 удаа)		6 удаа
②Хамтран зохион байгуулсан үйл ажиллагаа					
"Өнчин хайлаасны үлгэр" номын танилцуулах семинар			(1 удаа) 70 хүн		1 удаа
"Ой тогтоолтын гайхамшиг" нээлттэй семинар				(1 удаа) 250 хүн	1 удаа
Японд суралцах тухай тайлбар уулзалт		(1 удаа) 1000 хүн	(1 удаа) 350 хүн		2 удаа
Нийт	0	1 удаа	44 удаа	13 удаа	58 удаа

(3) Номын сантай холбоотой бусад үйл ажиллагаа

2006 онд
<ul style="list-style-type: none"> • Сонголын булангийн эд хөлшлыг сольсон. • Компьютерийн зориулалтын ширээгээр байрлуулна. • Шинэ номын булан нээсэн. • Японд суралцах булангийн материалуудыг цэгцлэх аргыг өөрчилсөн.
2007 онд
<ul style="list-style-type: none"> • Мэдээлэл солилцох буланг нээсэн. • Японд суралцах булангийн материалуудыг ашиглахад бэлэн болсон. • Япон хэлний сурэх бичиг, япон хэлний боловсролын видео, толь бичгээр номын фондро баяжуулсан. • 2 ширээг хувилах машин суурилуулсан. • DVD тоглуулагч 2, чихээн 10 ширээг, ламенаторын 2 машин тус тус худалдан авсан.
2008 онд
Цүнх хадгалах шүүгээ суурилуулалт, суудлын зохион байгуулалт хийж тоог нэмэгдүүлсэн. Японд суралцах мэдээллийн булангийн байрлалыг өөрчилж, үйлчлүүлэгчдийн картны зургийн USB камер, арын фоньг шинэчилсэн. Монгол хэл дээр хэвлэгдсэн ном болон Япон хэл дээрх ном худалдан авсан. Номын сангийн ажилтнууд ажлын хувцастай болсон.
2009 онд
Монгол хэлний номын фонд баяжуулж, ном хайлтын электрон каталогийг дахин сэргээсэн.

bol

afm

BA

ca

Project Title : Mongolia – Japan Center for human resources development project (MOJC) (Phase 2) Duration : January 2007 ~ January 2012 Ver. No.: 0 Date: 4 December 2006

Narrative Summary (request)	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
Overall Goal 1. Human resource development contributing to the market economy in Mongolia will be promoted 2. Mutual understanding between the two countries will be promoted	<ul style="list-style-type: none"> • No. of private company recognizing MOJC • No. of Japanese language teaching institutions and teachers recognizing MOJC • No. of participant who utilize knowledge and skills acquired from MOJC courses • No. of participants' companies starting business with Japanese companies • No. of participants of Japanese language course passed the Japanese Language Proficiency Test • No. of participants becoming Japanese teachers • No. of participants using Japanese in their job • No. of Mongolian students who study in Japan 	<ul style="list-style-type: none"> • Sample survey to the members of the Chamber of Commerce and Industry • Sample survey to the members of Japanese Language Teachers Association and other university faculty members • Questionnaire to participants • Biannual project reports • Follow-up survey reports on ex-participants • Government reports 	Political condition of Mongolia is stable
Project Purpose The function of MOJC, which are 1) to contribute to human resource development of Mongolia towards a market economy, 2) to promote mutual understanding between the people of Mongolia and Japan, will be strengthened	Improvement in recognition <ul style="list-style-type: none"> • No. of visitors • No. of participants of all MOJC activities • Satisfaction level of visitors and participants • Proportion of participants from the region other than Ulaanbaatar city Ownership promotion <ul style="list-style-type: none"> • Proportion of local lecturers out of total course hours • No. of academics of National University of Mongolian assigned to program advisers of MOJC • No. of local staff assigned to program managers of MOJC • Upper-level functions undertaken by the local staff Financial sustainability <ul style="list-style-type: none"> • Proportion of MOJC own revenue to local expenditure Networking <ul style="list-style-type: none"> • No. of activities in cooperation with related organizations (JBIC, UNDP, EBRD, etc.) • No. of activities in cooperation with returnees of scholarship program in Japan 	<ul style="list-style-type: none"> • Biannual project reports • Questionnaire to participants and visitors • Monitoring and evaluation reports • Balance sheet 	The Government of Mongolia maintains the current policy to promote market economy and small and medium sized industry
Output 1. MOJC will be managed effectively and efficiently by strengthened management and monitoring system 2. Business courses will be offered to provide practical knowledge and skills to meet the needs of small and medium sized industry with the involvement of larger number of local lecturers 3. Japanese language courses will be offered to meet the needs of Japanese language teachers and to expand business opportunities for the society	1. Annual JCC meetings to be held 1. Monthly MOJC meetings to facilitate communication between three programs 1. Annual operational, financial, and organizational plans to be formulated, implemented, monitored and revised quarterly 1. Staff training plan of MOJC 1. No. of joint activities combining business including IT, Japanese language and mutual understanding activities 1. Types and no. of publicity works contributed to increase of the number of participants or the improvement MOJC activities 1. The website to be updated every month 1. No. of access to the website 2. Annual implementation policy and course plan to be formulated and implemented as scheduled 2. Improved monitoring system 2. No. of participants by region/sector/title, etc. 2. No. of participants who completed full course 2. % of fulfillment of course completely 2. Satisfaction level of participants 2. No. of improved courses and teaching materials 2. No. of identified and trained local lecturers 2. No. of business courses cooperated and consulted with other aid organizations 2. No. of courses initiated and implemented by local staff 3. Annual implementation policy and course plan to be formulated and implemented as scheduled 3. Improved monitoring system 3. No. of participants by region/profession/aim, etc. 3. No. of participants who completed full course	1. Record of JCC meetings 1. Record of monthly MOJC meetings 1. Biannual project reports 1. Monitoring and evaluation reports 1. Questionnaire to participants 1. MOJC annual plans of operation and revised plans 1. Balance sheet 1. Organization chart 1. List of local staff 1. Record of meetings with related organizations 1. List of inquiry 2. MOJC annual plan of operation 2. Annual course outline 2. Annual course implementation plan 2. Record of course implementation 2. Monitoring and evaluation reports 2. List of teaching materials 2. List of local lecturers 3. MOJC annual plan of operation 3. Annual course outline 3. Annual course implementation plan 3. Record of course implementation 3. Monitoring and evaluation reports 3. List of teaching materials	

<p>4. The exchange activities on various fields (economy, society, and culture etc) between both Mongolia and Japan will be strengthened</p>	<p>3. % of fulfillment of course completely 3. Satisfaction level of participants 3. No. of improved courses and teaching materials 3. No. of identified and trained local lecturers 3. No. of courses initiated and implemented by local staff</p> <p>4. Annual implementation policy and course plan to be formulated and implemented as scheduled 4. Improved monitoring system 4. No. of mutual understanding activities initiated and implemented by local staff 4. No. of participants (both Mongolian and Japanese) for mutual understanding activities 4. Satisfaction level of visitors and participants 4. No. of participants by region 4. No. of visitors of the library</p>	<p>3. List of local lecturers</p> <p>4. MOJC annual plan of operation 4. Record of activity implementation 4. Monitoring and evaluation reports 4. Questionnaire of participants 4. Attendance record of participants 4. List of local staff</p>	
<p>Activities</p> <p>1-1. To form Joint Coordination Committee (JCC) to review and discuss the annual plan of the project</p> <p>1-2. To design and monitor an action plan (annual operational plan, financial plan, organization plan and staff training plan) taking into account the links between business including IT, Japanese language and mutual understanding activities</p> <p>1-3. To train local staff according to the staff training plan</p> <p>1-4. To provide necessary materials for MOJC operation</p> <p>1-5. To design and implement the strategy of the public relations in order to advertise MOJC activities widely in Mongolia</p> <p>1-6. To improve monitoring system for the whole center activities and to apply it to reflect lessons learned onto the planning for the following year</p> <p>2-1. To conduct needs survey and design the business course implementation plan based on the local needs</p> <p>2-2. To advertise the business courses for applicants and select participants</p> <p>2-3. To implement the business courses for the service, manufacturing and IT industry sector</p> <p>2-4. To design and implement the strategy for recruitment of the local lecturers</p> <p>2-5. To enhance teaching skills of local lecturers by mainly OJT</p> <p>2-6. To improve monitoring system to evaluate the outcome of the courses and reflect lessons learned in future courses</p> <p>2-7. To coordinate with other development aid organizations to consolidate the effect of business courses</p> <p>3-1. To conduct needs survey and design the Japanese language course implementation plan based on the local needs</p> <p>3-2. To develop new courses and teaching materials according to implementation plan</p> <p>3-3. To advertise the Japanese language courses for applicants and select participants</p> <p>3-4. To implement the Japanese language courses on the Japanese language education, business, IT industry and mutual understanding</p> <p>3-5. To design and implement the strategy for Recruitment of the local lecturers</p> <p>3-6. To improve teaching skills of local lecturers by implementation of OJT</p> <p>3-7. To support employment with using the network of Japanese teachers and educational institutions</p> <p>3-8. To improve monitoring system to evaluate the outcome of the courses and reflect lessons learned in future courses</p> <p>4-1. To conduct needs survey and design mutual understanding activity plan based on the local needs</p> <p>4-2. To strengthen information service functions (library, Internet, website, JICA-Net etc) about both Mongolia and Japan</p> <p>4-3. To advertise mutual understanding events to both Mongolian and Japanese</p> <p>4-4. To conduct mutual understanding events</p> <p>4-5. To offer MCJ facilities to other organizations and exchange programs</p> <p>4-6. To improve monitoring system to evaluate the outcome of the activities and reflect lessons learned in mutual understanding activities</p>	<p style="text-align: center;">Inputs</p> <p>Japanese Government:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Long-term experts (Director of MOJC, Project coordinator, Expert on Japanese language course) 2. Short-term experts for business course etc 3. Training in Japan and / or the third country 4. Equipment <p>Mongolian Government:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Site for the MOJC 2. Staff of MOJC (Vice-Director, Cleaners etc) 3. Program advisers of MOJC 4. General administrative expenses for the MOJC (water, heating, electricity, etc) 		<p>The cooperation to MOJC is continuously maintained by Mongolian ministries, universities and other related organizations</p> <p>Precondition:</p>

評価設問		必要なデータ	情報源	データ収集方法
大項目	小項目			
妥当性				
上位目標及びプロジェクト目標は、ターゲット・グループのニーズに合致しているか	ビジネスコースのターゲット・グループの設定及びニーズ把握は適切かつ十分な、そしてニーズは高いか	ニーズに関する情報や関係者の意見	①受講者・修了生 ②企業・産業界(商工会議所等) ③専門家・C/P・スタッフ	①既存のアンケート結果及びインタビュー ②インタビュー ③インタビュー
	日本語コースのターゲット・グループの設定及びニーズ把握は適切かつ十分な、そしてニーズは高いか	ニーズに関する情報や関係者の意見	①受講者・修了生 ②他の日本語教育機関 ③専門家・C/P・スタッフ	①既存のアンケート結果及びインタビュー ②インタビュー ③インタビュー
	相互理解促進事業のターゲット・グループの設定及びニーズ把握は適切かつ十分な、そしてニーズは高いか	ニーズに関する情報や関係者の意見	①参加者 ②専門家・C/P・スタッフ	①既存のアンケート結果及びインタビュー ②インタビュー
優先度	モンゴル国の開発政策との整合性はあるか (モンゴル国における市場経済化に資する人材育成が、優先課題として位置づけられているか)	政策面での位置づけ 関係者の意見	①モンゴル政府の政策 ②対外経済関係・貿易・投資省関係者	①資料レビュー ②インタビュー
	日本の援助政策・JICA 国別援助実施方針との整合性はあるか	我が国のモンゴル国に対する協力重点分野	国別援助計画、国別援助実施方針	資料レビュー
その他	協力開始当初と比べてプロジェクトを取り巻く環境(政策、経済、社会など)に変化はないか	モンゴル国の政策、対象地域の経済、社会に関する情報や関係者の意見	①専門家報告書 ②専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②インタビュー
有効性				
プロジェクト目標の達成度合い	プロジェクト目標の達成の見込みはあるか	(達成度表のとおり)	(達成度表のとおり)	(達成度表のとおり)
障害・貢献要因	プロジェクト以外にプロジェクト目標達成に貢献する要因はあるか	実施プロセスの情報 関係者の意見	①専門家報告書 ②専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②インタビュー
	スタッフや講師の離職は、どの程度マイナスの影響をもたらしたか	関係者の意見	専門家・C/P・スタッフ	質問票及びインタビュー
	その他に、プロジェクト目標達成を阻害する要因はあるか	関係者の意見	①専門家報告書 ②専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②質問票及びインタビュー
効率性				
アウトプット(成果)の達成度	アウトプットは達成されているか	(達成度表のとおり)	(達成度表のとおり)	(達成度表のとおり)
活動とアウトプット(成果)の因果関係	不要な活動はなかったか	関係者の意見	専門家・C/P・スタッフ	インタビュー
	必要なのに予定していなかった活動はなかったか	関係者の意見	専門家・C/P・スタッフ	インタビュー
投入の質・量・タイミング	専門家派遣(長期及び短期)の人数、専門分野・能力、派遣のタイミング・期間は適切か。	・派遣実績 ・関係者の意見	①派遣実績データ ②専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②質問票、インタビュー

	供与機材の種類、量、供与時期は適切か。	・機材供与実績、利用状況 ・関係者の意見	①機材供与実績データ ②機材配置(管理)データ ③専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②資料レビュー ③質問票、インタビュー
	本邦研修員受け入れの人数、研修内容、時期・期間などは適切か	・研修受け入れ実績 ・関係者の意見	①研修受け入れ実績データ ②専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②質問票、インタビュー
	センターのスタッフの人数、配置のタイミング、能力は適切か。	・C/Ps 配置状況 ・関係者の意見	①C/Ps 配置実績データ ②専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②質問票、インタビュー
	モンゴル人講師の配置は適切か	・講師配置実績 ・関係者の意見	①講師配置実績データ ②専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②質問票
	センターのスペース・規模、利便性は適切か。	・センターのスペース ・関係者の意見	①講義室・事務室・機材配置状況 ②専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー及び直接観察 ②質問票
	モンゴル側の予算支出は適切な規模か。	・相手側コスト負担実績 ・関係者の意見	①コスト負担実績データ ②専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②質問票
他機関との協力	他機関との効果的協力があつたか。	関係者の意見	専門家・C/P・スタッフ	質問票
効率性を阻害する要因はあるか	供与機材等は有効に利用されているか	・供与機材利用状況 ・関係者の意見	①供与機材台帳 ②専門家・C/P・スタッフ ③直接観察	①資料レビュー ②質問票 ③直接観察
	スタッフの定着度は、良好か。	スタッフの当初の配置と現状との比較	スタッフ配置実績データ	資料レビュー
	その他の要因はあるか。	関係者の意見	専門家・C/P・スタッフ	インタビュー
インパクト				
上位目標の達成予測	上位目標はプロジェクトの効果として達成が見込めるか	(達成度表のとおり)	(達成度表のとおり)	(達成度表のとおり)
	上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか (上位目標はプロジェクト目標の達成の結果もたらされるという論理に矛盾はないか)	関係者からの情報	専門家・C/P・スタッフ	インタビュー
経済面への波及効果	受講者の知識とスキルの向上がモンゴル企業の業績向上に貢献しているか(特に、ビジネスコース)	関係者からの情報	①企業・産業界 ②専門家・C/P・スタッフ	①インタビュー ②質問票
社会面への波及効果	MOJC の活動により、モンゴルと日本の国民の間関係が強化されたか	関係者からの情報	①専門家報告書 ②商工会議所 ③専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②インタビュー ③質問票
その他の波及効果	他の類似機関、大学等への正負の影響があるか	関係者からの情報	①専門家報告書 ②専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②質問票
	以上の他にどのような正・負のインパクトを与えているか	関係者からの情報	専門家・C/P・スタッフ	質問票
自立発展性(見込み)				
政策的側面	モンゴル側の MOJC に対する支援が今後も継続するか。	国家政策や対外経済関係・貿易・投資省の方針	① 国家政策、その他関連政策 ② 対外経済関係・貿易・投資省の幹部職員	①資料レビュー、 ②インタビュー

制度面	MOJC のビジョンや位置づけは明確か	・ビジョンや位置づけに関するデータ ・関係者の意見	① MOJC 設立規定 ② 対外経済関係・貿易・投資省の幹部職員	①資料レビュー ②インタビュー
組織面	適切な、スタッフ配置計画、スタッフの能力強化計画、講師育成計画があるか。	関係者の意見	専門家	質問票
	各スタッフの業務所掌が適切に規定されているか。	関係者の意見	専門家	質問票
	スタッフは、センターの活動を適切に運営管理する能力を有しているか	関係者の意見	専門家・C/P・スタッフ	質問票
財務面	自己収入額は増加しているか。自己収入増加に資する取り組みは見込まれるか。	・自己収入データ ・関係者の意見	① 自己収入額及び費用回収率データ ② 専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②質問票
事業面	日本の関係機関との連携拡大等、MOJC の機能が発展していく可能性はあるか。	関係者の意見	専門家・C/P・スタッフ	質問票及びインタビュー
技術的側面	スタッフ、以下の能力を有しているか：①MOJC の年間活動計画策定 ②各コースやセミナーの企画・準備・実施・評価	関係者の意見	専門家・C/P・スタッフ	質問票
	知識とスキルを向上させたスタッフ、講師が長く勤務し続けるか	関係者の意見	①スタッフ、講師の配置実績 ②専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②質問票
	教材の量と質は、適切か	関係者の意見	専門家・C/P・スタッフ	質問票
	他機関や産業界の技術・運営面での支援は期待できるか	関係者の意見	専門家・C/P・スタッフ	質問票
	供与資機材の維持管理が適切に行われる見通しはあるか	関係者の意見	専門家・C/P・スタッフ	質問票
阻害要因	持続性に影響を与える貢献・阻害要因は何か	関係者の意見	専門家・C/P・スタッフ	質問票

評価設問		情報源	データ収集方法
大項目	小項目		
実施プロセス			
当初計画した成果を達成するためにどのような計画・実施体制の変更・軌道修正が行われたか	プロジェクト実施中に把握されていた課題は何か。その課題はどのように解決されたか	①専門家報告書 ②専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②インタビュー
スタッフの能力向上は、順調に進展しているか。	問題がある場合、どの分野において、どのような問題があったか、どのように解決されたか。	専門家・C/P・スタッフ	インタビュー
モニタリングシステムの構築状況	コース編成やカリキュラムを柔軟に見直し・改善する体制になっているか、また運営上の課題を自ら振り返り・解決する体制になっているか	専門家・C/P・スタッフ	インタビュー
相手国のオーナーシップ	①スタッフの適正さ、②予算手当て	スタッフ配置、予算支出実績	資料レビュー
プロジェクトのマネジメント体制に問題はなかったか。	JCC は必要な時期に実施され、必要なテーマが話し合われていたか	①プロジェクト進捗報告書等 ②専門家・C/P	①資料レビュー ②質問表、インタビュー
	その他の定例会議は、十分機能しているか。(実施している場合)	①プロジェクト進捗報告書等 ②専門家・C/P・スタッフ	①資料レビュー ②質問表、インタビュー
	プロジェクトの進捗状況はどのようにモニタリングされていたか。	専門家	インタビュー
	専門家とモンゴル側講師及びスタッフ間のコミュニケーションは、円滑に行われているか。	専門家・C/P・スタッフ	質問票
	JICA モンゴル事務所及び JICA 本部との連絡・協力が円滑に実施されたか。	日本人専門家	インタビュー

4 - 1 . 専門家派遣実績

長期専門家派遣実績

	氏名	役職	派遣期間
1	中村 光夫	所長	2007年5月2日～2009年7月15日 (第一フェーズから引き続き)
2	荒井 順一	業務調整員	2005年3月4日～2007年5月26日 (第一フェーズから引き続き)
3	白石 真美	業務調整員	2007年5月5日～2009年5月4日
4	櫻井 千代子	日本語教育専門家	2006年4月7日～2008年4月6日 (第一フェーズから引き続き)
5	藤島 夕紀代	日本語教育専門家	2008年4月1日～2010年4月15日

短期専門家派遣実績

	氏名	科目名	派遣期間
1	齋藤 政美	マーケティング	2007年1月3日～1月14日
2	佐藤 正忠	HACCP等取得指導	2007年3月5日～3月18日
3	里見 哲男	観光業商品企画・ セールスプロモーション	2007年3月14日～3月24日
4	小林 好佐	日本的経営及び経営戦略	2007年9月26日～2007年10月8日
5	倉原 健二	ビジネスコース運営・設計	2007年11月1日～2008年2月29日
6	佐久間 勝彦	日本語教育シンポジウム	2007年10月18日～10月22日
7	加藤 玲	販売管理	2007年10月25日～11月4日
8	本田 康夫	生産管理	2007年11月5日～11月25日
9	吉村 昭彦	財務管理/ビジネスプラン作成支援	2007年12月5日～12月24日
10	浜野 昌弘	品質管理・原価管理	2008年1月10日～1月20日
11	河口 真一郎	労務管理	2008年1月24日～2月3日
12	齋藤 政美	マーケティング	2008年2月17日～2月27日
13	佐藤 正忠	HACCP等取得指導	2008年2月28日～3月18日
14	佐久間 征夫	観光業商品開発/販売促進	2008年3月5日～3月24日
15	小林 好佐	運営指導(日本的経営)	2008年4月30日～2008年5月12日
16	吉村 昭彦	財務管理	2008年6月16日～2008年7月6日
17	本田 康夫	生産管理(工程管理)	2008年9月1日～2008年9月15日
18	倉原 健二	ビジネスコース運営管理	2008年8月6日～2008年10月4日
19	西垣 直哉	品質管理	2008年9月22日～2008年10月6日
20	山崎 京子	労務管理	2008年11月8日～2008年11月29日
21	西田 純	マーケティング	2008年12月5日～2008年12月15日
22	佐藤 正忠	HACCP取得指導	2009年2月2日～2009年2月16日
23	林 隆男	ビジネスプラン作成支援	2009年1月7日～2009年1月24日
24	倉原 健二	ビジネスコース運営管理/企業診断・指導	2008年11月24日～2009年2月20日
25	河口 真一郎	ビジネスコース運営管理/人材育成	2009年6月9日～7月8日
26	西田 純	マーケティング/企業戦略	2009年6月17日～29日

4 - 2 . 現地スタッフの雇用実績

	職員名	職位	在職期間	備考
1	オチルバット	運転手、施設管理	2002年4月21日～	
2	ポロルサイハン	主任	2002年9月9日～2009年3月13日	退職
3	ムンフザヤ	職員	2002年10月7日～2007年4月30日	退職
4	ウヤンガ	職員	2003年4月10日～2009年5月25日	退職
5	オユンチメグ	PCコース運営	2004年2月1日～	
6	ツェンゲー	職員	2004年2月2日～2008年10月31日	退職
7	アザビレグ	図書室運営	2005年4月13日～	
8	ポロル	職員	2005年4月13日～2008年10月22日	退職
9	エルデネソウダ	職員	2005年4月13日～2009年1月20日	退職
10	エンフジャルガル	職員	2006年3月1日～2007年1月21日	退職
11	エルデネツェツェグ	日本語コース運営	2006年3月1日～	
12	オドゲレル	職員	2006年6月13日～2008年12月31日	退職
13	バトルガ	IT管理協力、PCコース運営	2006年6月22日～	
14	サンサルトヤ	日本語コース運営	2006年9月18日～	
15	ガンポロル	職員	2007年4月24日～2007年6月23日	退職
16	ポロルマー	図書室運営	2008年2月1日～	
17	エンフツオルモン	職員	2008年2月1日～2009年1月30日	留学中
18	N.デルゲルマー	日本語コース運営	2008年7月24日～	
19	ニヤムジャルガル	ビジネスコース運営	2008年4月1日～	
20	ウラムバヤル	市民講座、機材管理	2008年7月17日～	
21	サロール	ビジネスコース運営	2008年7月17日～	
22	オユン	職員	2008年7月17日～2008年9月16日	退職
23	ムンゲンソロンゴ	日本語コース運営	2008年7月17日～	
24	ウラムツェンゲル	図書室運営	2008年7月17日～	
25	D.デルゲルマー	財務(収入)	2008年7月24日～	
26	ガンエルデネ	統括主任	2002年～2006年、2009年1月1日～	2006年～2008年留
27	ガルマーバザル	統括主任	2002年～2005年、2009年1月1日～	2005年～2007年留
28	バトナサン	図書室運営	2009年3月1日～	
29	ベルゲン	職員	2009年3月1日～2009年6月	退職
30	オルホン	業務会計	2009年3月1日～	
31	オチルエルデネ	受付	2009年3月1日～	

添付資料4-3: 本邦研修実績

2006年度

	研修科目	氏名		受入先	研修期間	日数
1	ITコース研修	Mr. Bilguun Jargalsaikhan	1) 講義、演習、企業見学等を通じて、日本市場で必要とされるソフトウェアの品質とその作り込みの方法について理解する。 2) 自国のソフトウェア会社において、品質向上に資するテスト方法の提案ができるようになる。	京都コンピューター学院	2007年2月18日～3月10日	21
2		Ms. Otgontsetseg Syrmaajav				

2007年度

	研修科目	氏名		受入先	研修期間	日数
3	日本的経営	Mr. Baatarjav Munkhzaya	1) 日本センターで学んだ知識や技術について、日本での適用事例を視察及び関係者との意見交換を行うことで、日本的経営等の知識・技術のモンゴル企業への適用方法を理解する。 2) 研修で学んだ内容を自らの企業のみならず他企業へ広く紹介し、日本的経営等の知識や技術の適用を望む経営者に対してアドバイスを行えるようになる。	北海道科学技術総合振興センター	2007年8月12日～9月1日	21
4		Mr. Dontor Gantulga				
5		Mr. Yadamsuren Chinbaatar				
6		Ms. Dashchimed Ulzijiigal				
7		Ms. Namjildorj Erdenesurd				
8		Ms. Gantulga Oyun				
9	センター運営管理 (キルギス J0722029、ベトナム J0721787と合同で実施)	Ms. Tumurbaatar Sansartuya		-	2008年1月14日～2月2日	20
10		Mr. Tseveenjar Ochirbat				

2008年度

	研修科目	氏名		受入先	研修期間	日数
11	ビジネス実務研修 (日本式経営)	Mr. Baasanbyamba Erdenebuigan	・日本式経営を理解し、今後のビジネスコースの運営や設計に役立てる。 ・日本式経営のセミナー講師を勤められるようになる。 ・「中小企業経営診断・指導実践講座」で学んだ日本式経営を実際に日本で視察することによって、経営者・幹部として自社を発展させる能力を身につける。	北海道科学技術総合振興センター	2008年8月17日～9月6日	21
12		Mr. Garam Barsbold				
13		Mr. Soyolsuren Ganzorig				
14		Ms. Enebish Odgerel				
15	センター運営管理	Mr. Khatanbaatar Ulambayar	センターを運営する上で必要なマネジメントに関する知識 (リーダーシップ、計画性、タイムマネジメント、経済性等) の習得。また、本の組織運営の実際を見ることによって、センターでの業務に実践的に生かすことができるようになる。	-	2009年2月12日～3月2日	19
16		Ms. Tuvdendorj Bolormaa				

2009年度

	研修科目	氏名	研修目的	受入先	研修期間	日数
17	日本理解	Dr. Suren DAVAA (モンゴル国立総合大学 (NUM) 学長)	・日本に関する基礎知識を習得する ・日本の国立大学についての知識を習得し、今後の連携等について意見交換を行う。	-	2009年5月18日～27日	10
18		Dr. Tsenddavaa DAVAADORJ (モンゴル日本センター副所長・NUM経済学部長)				

供与機材

番号	納入年月日	機材名	製造メーカー	型式	供与数	単価	価格 現地通貨	通貨 単位	レート	価格 (円)
2006年度										
H18Ky-1	2007/3/30	パソコン (ノート)	NEC	VersaE6211	8	1,718.91	13,751.3	USD	116.2	¥1,597,898.74
H18Ky-2	2007/3/30	パソコン (デスクトップ)	NEC	PowerMateX8601	19	1,737.18	33,006.4	USD	116.2	¥3,835,346.00
H18Ky-3	2007/3/30	パソコン (デスクトップ)	NEC	PowerMate8111	7	1,445.45	10,118.2	USD	116.2	¥1,175,729.03
H18Ky-4	2007/3/30	プロジェクター	NEC	NP50DLP	4	2,554.90	10,219.6	USD	116.2	¥1,187,517.52
H18Ky-5	2007/3/30	コピー機	Canon	IR2022i	1	5,894.55	5,894.6	USD	116.2	¥684,946.71
合計						13,350.99	72,990.0			8,481,438.00

2007年度

H19Ky-1	2008/2/15	パソコン (ノート)	NEC	Versa6301	5	1,525.40	7,627.0	USD	106.98	¥815,936.46
H19Ky-2	2008/2/15	パソコン (デスクトップ)	NEC	PowerMate8111	6	1,090.0	6,540.0	USD	106.98	¥699,649.20
H19Ky-3	2008/2/15	液晶テレビ (ロビー)	JVC	JVC-LT-42FX77	1	2,137.0	2,137.0	USD	106.98	¥228,616.26
H19Ky-4	2008/2/15	コピー機	Canon	IR2022i	1	3,189.0	3,189.0	USD	106.98	¥341,159.22
H19Ky-5	2008/2/19	DVDビデオカメラ	Sony	DCR908E	1	1,010.0	1,010.0	USD	106.48	¥107,543.79
H19Ky-7	2008/2/21	プロジェクター	Panasonic	PT-D3500E	1	3,597.0	3,597.0	USD	106.98	¥384,807.06
H19Ky-8	2008/3/24	電話機+交換機	Panasonic	電話機システム KX-TDA200	1セット	10,601.0	10,601.0	USD	106.98	¥1,134,094.98
合計						23,149.40	34,701.0			3,711,806.97

携行機材

番号	納入年月日	機材名	製造メーカー	型式	供与数	単価	価格 現地通貨	通貨 単位	レート	価格 (円)
2007年度										
	07.10.22	30cm定規(直定規)	クラウン	CR-RR103	60	153	9,180	Yen	1	¥9,180.00
	07.10.22	三角スケール(ポケット用) (スケールの目盛り: 1/100・1/200・1/300・ 1/400・1/500・1/600)	コクヨ	TZ-1562	60	595	35,700	Yen	1	¥35,700.00
	07.10.22	製図版(平行定規A2 MP-400FL)	マックス	MP92161	1	26,500	26,500	Yen	1	¥26,500.00
	08.03.24	プロジェクター用交換ランプ(ランプユニット)	TOSHIBA	TLPLW6	15	29,700	445,500	Yen	1	¥445,500.00
合計						56,948.00	516,880.00			¥516,880
2008年度										
H20Ky-1	09.02.24	防犯カメラ	PLANET	IPカメラシステム	1セット	14,771.00	14,771.00	USD	96.94	¥1,431,900.74
H20Ky-2	09.03.19	大型UPS	APC	Smart-UPS SURT 20000UXICH (20000VA)	1セット	10,783.00	10,783.00	USD	96.61	¥1,041,745.63
合計						25,554.00	25,554.00			2,473,646.37

総合計

¥15,183,771

添付資料 5 - 1 . ビジネスコースの実績 1 (ビジネス)

2006 年度 (受講者数合計 : 566 名)

	コース名	ターゲット層	回数	期 間	受講者数	参加料	講師現地化 状況
1	中小企業経営診断指導コース (第 5 回) <7 課目連続講座>	製造業・サービス業 の経営者及び管理者	1 回	約 3.5 ヶ月 (内、講義期 間は約 7 週)	58 名	製造業 : \$180 サービス業 : \$150	日本人講師
2	フォローアップセミナー	中小企業経営診断指 導コース修了生	7 回	1 日間	128 名	無料	日本人講師
3	地方セミナー (於・ダル ハン)	中小企業経営者、管 理職員	6 回	1 日間	161 名	無料	日本人講師
4	起業家支援セミナー	中小企業経営者、管 理職員、起業を目指 す個人	1 回	約 4 週	30 名	Tg 6,000	現地コンサル ティング チーム
5	若手オーナーのためのビ ジネス実践セミナー	経営歴 2 年以上の若 手経営者	1 回	約 2 週	21 名	Tg 45,000	現地コンサル ティング チーム
6	HACCP	食品加工業経営者、 技術担当者、行政機 関役員	1 回	5 日間	28 名	Tg 50,000	日本人講師
7	観光商品開発・セールス プロモーション	観光関連企業経営 者、管理職員	1 回	5 日間	23 名	Tg 50,000	日本人講師
8	日本語観光ガイド養成実 践コース	日本語観光ガイドを 目指す者	1 回	約 3 週	28 名	Tg 60,000	日本人講師/ 現地講師
9	日本センター経済フォー ラム	修了生、ビジネス界 の一般人、関連機関 の参加者	1 回	1 日	89 名	無料	日本人/モン ゴル人 講演 者
10	個別経営相談	受講生及び修了生企 業	-	2 時間~3 時 間程度	30 社 (累計)	無料	日本人講師

: フェーズ 1 期間 (~2007 年 1 月 21 日) の実績。10 の個別経営相談は、30 社中 27 社がフェーズ 1 期間実績。

2007 年度 (受講者数合計 : 1,275 名 (5 周年記念事業を除くと、843 名))

	コース名	ターゲット層	回数	期 間	受講者数	参加料	講師現地化 状況	
1	中小企業経営診断指導コース (第 6 回) <7 課目連続講座>	製造業・サービス業 の経営者及び管理者	1 回	約 5 ヶ月 (内、講義期 間は約 7 週)	56 名	Tg 280,000	日本人講師	
2	フォローアップセミナー	中小企業経営診断指 導コース修了生	6 回	1 日間	110 名	Tg 20,000	日本人講師	
3	地方セミナー (於・エル デネット)	中小企業経営者、管 理職員	5 回	1 日間	79 名	無料	日本人講師	
4	入門セミナー	中小企業経営診断指 導コースに関心のある 経営者・管理職員	7 回	1 日間	259 名	Tg 5,000	日本人講師	
5	特別 コース	HACCP 指導コース	1 回	5 日間	38 名	Tg 50,000	日本人講師	
6		HACCP ワークショッ プ	1 回	2 日間	2 名	無料	日本人講師	
7		観光商品企画セー ルスプロモーション 実践講座	観光関連企業経営 者、管理職員	1 回	5 日間	25 名	Tg 50,000	日本人講師
8		観光ガイドセミナー	日本語観光ガイドコ ース修了生	1 回	1 日間	14 名	Tg 2,000	日本人講師
9		日本語観光ガイド 養成実践コース	日本語観光ガイドを 目指す者	1 回	約 2 週	30 名	Tg 70,000	日本人講師 及び現地講 師

10	ビジネスプラン作成支援セミナー	修了生	1回	4日間	39名	Tg 60,000	日本人講師
11	ISO9001-2000 セミナー	修了生、管理職員	1回	1日間	20名	Tg 30,000	日本人講師
12	商品の品質向上について	UNDP 一村一品運動関係者	1回	1日間	24名	無料	日本人講師
13	モンゴル・日本経済交流セミナー 主催：JETRO 共催：MOJC&JICA	経営者、一般人、学生	1回	1日間	147名	無料	日本人講師 講演4名
14	特別経済フォーラム（5周年記念事業）	中小企業経営者、起業家	1回	1日間	152名	無料	日本人講師
15	日本の経営及び 5S 紹介セミナー（5周年記念事業）	中小企業経営者、起業家	1回	1日間	72名	無料	現地講師（修了生）
16	展示会（5周年記念事業）	中小企業経営者、起業家	1回	1日間	208名	無料	（修了生企業）
17	個別経営相談	受講生及び修了生企業	-	-	31社 （累計）	無料	日本人講師

2008年度（受講者数合計：890名）

	コース名	ターゲット層	回数	期間	受講者数	参加料	講師現地化状況	
1	中小企業経営診断指導コース（第7回） <5課目連続講座> + 各クラス1科目（特別）	製造業・サービス業の経営者及び管理者	1回	約7ヶ月 （内、講義期間は約7週）	51名 +1課目のみの受講者 32名	Tg 280,000	日本人講師 （一部課目は現地講師と連携）	
2	地方セミナー（於・エルデネット）	中小企業経営者、管理職員、公務員	3回	2日間	108名	無料	日本人講師	
3	入門セミナー	中小企業経営診断指導コースに関心のある経営者・管理職員	5回	1日間	198名	Tg 10,000	日本人講師	
4	1 専 門 コ ース	労務管理	修了生	1回	4日間	33名	Tg 40,000	日本人講師
5		中長期経営計画	修了生	1回	2日間	29名	Tg 30,000	日本人講師
6	特別 コ ース	店舗管理コース	通常コースサービス業クラス受講者、一般人（経営者）	1回	5日間	40名 通常：22名 一般：18名	通常：Tg 30,000 一般：Tg 50,000	日本人講師
7		工程管理コース	通常コース製造業クラス受講者、一般人（経営者）	1回	5日間	30名 通常：16名 一般：14名	通常：Tg 30,000 一般：Tg 50,000	日本人講師
8		HACCP 指導コース	食品加工業経営者、技術担当者	1回	5日間	40名	Tg 50,000	日本人講師
9		HACCP ワークショップ	行政機関役員	1回	2日間	2名	無料	日本人講師
10		HACCP セミナー（行政機関対象）	行政機関職員（食品製造・サービス担当）	1回	1日間	19名	無料	日本人講師
11		HACCP コース（工場実践コース）	アルコール・アルヒ製造者	1回	1日間	17名	無料	日本人講師
12		日本語観光ガイド養成実践コース	日本語観光ガイドを目指す者	1回	約2.5週	30名	Tg 70,000	現地講師
13		ビジネスプラン作成支援セミナー	中小企業経営者 / 銀行ローンオフィサー	2回	5日間 / 3日間	45名 / 17名	Tg 60,000	日本人講師
14	ISO9001・14001 セミナー	修了生、管理職員	1回	4日間	12名	Tg 40,000	日本人講師	

15		5S 及び改善コース	経営者、一般人	2回	3日間	66名	Tg 30,000	日本人講師
16		対日ビジネスセミナー (食品分野)主催:JETRO 共催:MOJC/商工会議所	経営者、一般人	1回	1日間	121名	無料	日本人講師
17		JETRO 共催個別相談会 (食品分野)	食品製造企業	-	-	9社	無料	日本人講師
18		個別経営相談	受講生及び修了生企業	-	-	37社 (累計)	無料	日本人講師

:「工程管理」は製造業、「店舗管理」はサービス業の選択科目。これら2科目は特別コースとし、一般受講生を含む。

2009年度(見込み含む) (受講者数合計:917名)

	コース名	ターゲット層	回数	期間	受講者数	参加料	講師現地化状況	
1	中小企業経営診断指導コース(第8回) <5 課目連続講座> + 各クラス1科目(特別)	製造業・サービス業の経営者及び管理者	1回	約8ヶ月 (内、講義期間は約5週)	62名 + 聴講生2名	Tg 300,000 (5×Tg 60,000)	日本人講師 (一部課目は現地講師と連携)	
2	地方セミナー(於・エルデネット)	中小企業経営者、管理職員、公務員	3回	3~4日間	90名 (定員30×3回)	無料	日本人講師	
3	入門セミナー	中小企業経営診断指導コースに関心のある経営者・管理職員	7回	1日間	350名 (定員50×7回)	Tg 10,000	日本人講師	
4	専門 コース 労務管理	修了生	1回	3日間	40名	Tg 40,000	日本人講師	
5	特別 コース	工程管理コース	通常コース製造業クラス受講者、一般人(経営者)	1回	5日間	45名 通常:30名 一般:15名	Tg 60,000	日本人講師
6		店舗管理コース	通常コースサービス業クラス受講者、一般人(経営者)	1回	5日間	45名 通常:30名 一般:15名	Tg 60,000	日本人講師
7		HACCP 指導コース	食品加工業経営者、技術担当者	1回	5日間	30名	Tg 50,000	日本人講師
8		HACCP セミナー (行政機関対象)	行政機関職員(食品製造・サービス担当)	1回	1日間	25名	無料	日本人講師
9		日本語観光ガイド養成実践コース	日本語観光ガイドを目指す者	1回	約2週	30名	Tg 70,000	現地講師
10		ビジネスプラン作成支援セミナー	中小企業経営者	2回	5日間	90名	Tg 60,000	日本人講師
11		5S 及び改善コース	モンゴル国立大学経済学部の職員	1回	1日間	29名	無料	現地講師(スタッフ)
12	現地コンサルタント養成講座	現地コンサルタント	2回	3日間	50名	Tg 40,000	日本人講師	
13	モンゴル国立大学、EBRD-BAS との共催セミナー(経済危機の影響と対応策)	大学関係者、省庁関係者、修了生、他	1回	1日間	29名	無料	日本人講師及び現地講師	
14	企業診断指導(モデル企業育成)	モデル企業候補企業	-	-	8社(3社)	1回Tg 30,000	日本人講師 (一部現地講師と連携)	
15	個別経営相談	受講生及び修了生企業	-	-	40社	受講生および2年前までの修了生は無料。それ以前の修了生は、1回 Tg 30,000	日本人講師 (一部現地講師と連携)	

2009年6月末実施時点での実施済みは、1の一部、3の内2回、9・11・13のみ。

以上

1. シニアITエンジニアコース

番号	講座名	講師名	期間	受講者数	修了者数	受講料(一人当たり、総額)	受講者内訳
1	IT初級日本語コース (第4回シニアITエンジニアコース)	日本語センターに委託	2006年11月06日～2007年 02月28日	25	25	80000Tg	現役エンジニア 25人(100%)
2	IT中級日本語コース (第4回シニアITエンジニアコース)	オノン、伊藤、吉池桜	2007年02月26日～2008年 06月30日	25	25	180,000Tg	
3	S/W開発専門語習得 (第4回シニアITエンジニアコース)	D.デルゲルサイハン	2008年2月20日～2008年2 月26日	20	20	学生 15,000Tg/人 一般 20,000Tg/人 総額 360,000Tg	IT系学生 8人(40%) 現役エンジニア 12人(60%)
30	UML表記法 (第4回シニアITエンジニアコース)	D.デルゲルサイハン	2008年2月21日～2008年2 月24日	14	14	学生 15,000Tg/人 一般 20,000Tg/人 総額 250,000Tg	IT系学生 6人(43%) 現役エンジニア 8人(57%)
5	Java言語 (第4回シニアITエンジニアコース)	D.デルゲルサイハン	2008年2月27日～2008年3 月9日	9	9	学生 25,000Tg/人 一般 30,000Tg/人 総額 260,000Tg	IT系学生 2人(22%) 現役エンジニア 7人(78%)
6	Database design/ MS-SQL/ (第4回シニアITエンジニアコース)	D.ウルジーオルシホ、 D.ソヨルエルデネ	2008年3月14日～2008年3 月26日	10	10	学生 25,000Tg/人 一般 30,000Tg/人 総額 280,000Tg	IT系学生 4人(40%) 現役エンジニア 6人(60%)
7	PM概論 (第4回シニアITエンジニアコース)	Ts.オランビレグ D.デルゲルサイハン	2008年3月26日～2008年3 月29日	8	8	学生 20,000Tg/人 一般 24,000Tg/人 総額 172,000Tg	IT系学生 5人(62.5%) 現役エンジニア 3人(37.5%)
8	Workshop (第4回シニアITエンジニアコース)	D.デルゲルサイハン	2008年6月11日～2008年7 月8日	10	10	学生 80,000Tg/人 一般 100,000Tg/人 総額 960,000Tg	IT系学生 4人(40%) 現役エンジニア 6人(60%)
合計				121	121		

2. コンピュータコース

番号	コース名	講師	期間	受講者数*	修了者数	2006年～2009年3 月までの受講料	2009年4月以降見 直し後受講料	年間コース回数	現在までの実施 回数
1	タイピング	B.オユンツェツェグ	2006年6月～2009年6月	303	138	10,000Tg	15,000Tg	16回	56回
2	ベーシック	B.オユンツェツェグ	2006年6月～2009年6月	358	187	5,000Tg	10,000Tg	21回	49回
3	エクセル	B.オユンツェツェグ	2006年6月～2009年6月	273	126	7,000Tg	10,000Tg	16回	24回
4	ワード「正式レターの書き方」	B.オユンダリ/A.ガントール	2006年6月～2009年6月	273	100	8,000Tg	15,000Tg	16回	19回
5	インターネット	B.オユンツェツェグ	2006年6月～2009年6月	400	236	7,000Tg	10,000Tg	20回	59回
6	パワーポイント「効果的なプレゼン テーションのやり方」	B.オユンダリ P.エルデネットウルガ	2006年6月～2009年6月	115	54	15,000Tg	15,000Tg	11回	22回
7	パブレッシャー	B.オユンツェツェグ	2006年6月～2009年6月	146	68	6,000Tg	10,000Tg	9回	11回
8	ドリームウエバ	B.オユンツェツェグ	2006年6月～2009年6月	91	38	20,000Tg	25,000Tg	7回	19回
合計				1959	947				

* コースごとの募集人数は16名

3. 初めてのPC教室

	科目名	期間	講師	受講者数(延べ)	受講料/1人	その他備考(使用テキスト・教訓等)
1	初めてのPC教室	2008.10.28、2008.10.29	センターのスタッフ	小学校 26人	無料	センター開発教材
2	初めてのPC教室	2009.01.09、15、16.28	センターのスタッフ	小学校 64人	無料	センター開発教材

添付資料 5 - 3 . 日本語コースの実績

(1)コースの実施実績

2006年度開講（受講者数合計:3,455名、テスト受験を除く:1,958名、修了者数:270名）

No.	コース名	対象	講義内容	達成目標	コマ数	定員	受講者数	修了者数	受講料	講師現地化状況
1	06-07 日本語教育実習コース(前期)	教員、教員志望者	教案・教具作成、実習授業、授業見学	教授法習得	21	10	10	10	10000円	専門家
2	06-07 日本語教育実習コース(後期)	教員、教員志望者	教案・教具作成、実習授業、授業見学	教授法習得	26	10	9	10	10000円	専門家
3	06-07 日本語初級総復習コース(前期)	初級既習者	口頭練習を中心とした初級文型の指導	初級文型理解、会話力向上	21	20	20	12	10000円	現地講師(日本人)
4	06-07 日本語初級総復習コース(後期)	初級既習者	口頭練習を中心とした初級文型の指導	初級文型理解、会話力向上	25	20	15	10	10000円	現地講師(日本人)
5	06夏 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、語彙・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	22	32	30	24	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
6	06秋 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、語彙・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	42	32	32	15	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
7	07春 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、語彙・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	30	32	35	27	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
8	06秋 映画で学ぶ日本語上級コース	2級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、語彙・漢字練習	楽しみながら上級会話力育成	29	32	14	9	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
9	06秋 ビジネス日本語中級会話編	3級程度	機能別ビジネス日本語(紹介、挨拶、許可、依頼、電話、アポイント等)	ビジネス中級会話習得	18	32	32	15	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
10	07春 ビジネス日本語中級会話編	3級程度	機能別ビジネス日本語(紹介、挨拶、許可、依頼、電話、アポイント等)	ビジネス中級会話習得	17	32	32	24	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
11	06秋 ビジネス日本語上級会話編	2級程度	機能別ビジネス日本語(説明、意見、説得、クレーム、プレゼンテーション等)	ビジネス上級会話習得	16	32	32	12	20000円	専門家・現地講師(モンゴル人)
12	07春 ビジネス日本語上級文書編	2級程度	機能別、形式別ビジネス文書の書き方の指導と添削	ビジネス文書作成法習得	15	32	27	15	20000円	専門家
13	06夏 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字300の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	22	32	30	20	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
14	07春 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字300の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	32	14	20000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
15	06-07 初級IT日本語コース	ITエンジニア	みんなの日本語1～44課、実力テスト	初級中盤までの文法習得	292.5時間	25	23	13	80000円	外部委託
16	06 中級IT日本語コース	ITエンジニア	みんなの日本語37～50課、ビジネス日本語中級会話、実践IT中級会話	初級文法習得、ビジネス中級会話習得	250.5時間	30	22	8	30000円	専門家・現地講師(モンゴル人・日本人)
17	07 中級IT日本語コース	ITエンジニア	みんなの日本語45～50課、IT用語、ビジネス中級会話、実力テスト	初級文法習得、ビジネス中級会話習得	250時間	25	23	19	90000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
18	06秋 中・上級者のための読解講座	3～2級程度	専門文章の読解ストラテジー	読解ストラテジー習得	3	32	32	13	2000円	専門家
19	06 特別講座「日本語の話し方」	一般、日本語学習者	日本語の発声法、日本語らしい発音、日本の文化と言葉の関係、質疑応答		2	-	220	-	無料	外部講師(日本人)
20	06 日本語一日体験授業	日本語未習者	ひらがな・かたかなの書き方、漢字紹介、自己紹介、あいさつ	日本語に触れる、日本語に興味を持つ	40	-	633	-	無料	現地講師(モンゴル人・日本人)
21	07 日本語一日体験授業	日本語未習者	ひらがな・かたかなの書き方、漢字紹介、自己紹介、あいさつ	日本語に触れる、日本語に興味を持つ	35	-	655	-	無料	現地講師(モンゴル人・日本人)
22	06 日本語月例実力テスト	能力試験受験者	各級の過去問題による模擬試験	試験合格	20	-	415	-	14000円(7回)	専門家・現地講師(モンゴル人)
23	07 日本語月例実力テスト	能力試験受験者	各級の過去問題による模擬試験	試験合格	28	-	1082	-	14000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
計					855.5		3455	270		

※網がけは、フェーズ1期間中(～2007年1月21日)に終了。

※時間単位は2時間で1コマに換算

2007年度開講（受講者数合計：1,949名、テスト受験を除く：1,173名、修了者数：342名）

No.	コース名	対象	講義内容	達成目標	コマ数	定員	受講者数	修了者数	受講料	講師現地化状況
1	07-08 日本語教育実習コース(前期)	教員、教員志望者	教案・教具作成、実習授業、授業見学	教授法習得	22	10	10	10	10000円	専門家
2	07-08 日本語教育実習コース(後期)	教員、教員志望者	教案・教具作成、実習授業、授業見学	教授法習得	26	10	10	10	10000円	専門家
3	07「日本語教授法」公開講座	教育実習コース参加者	授業の組み立て方、初級重要文型の教え方、教案の書き方、模擬授業	教授法習得、教師間ネットワーク形成	2	40	43	-	無料	専門家
4	07「PPT作成講座」	教育実習コース参加者	教育実習時で使うPPTの作成方法を指導	PPT作成技術習得	2	10	10	-	無料	現地講師(モンゴル人)
5	07 中学校日本語教師研修	中学校教員、地方教員	授業の組み立て方、初級重要文型の教え方、教案の書き方、模擬授業	教授法習得、教師間ネットワーク形成	30時間	20	12	12	10000円	専門家・現地講師(モンゴル人・日本人)
6	07-08 日本語初級総復習コース(前期)	初級既習者	口頭練習を中心とした初級文型の指導	初級文型理解、会話力向上	21	20	20	14	10000円	現地講師(日本人)
7	07-08 日本語初級総復習コース(後期)	初級既習者	口頭練習を中心とした初級文型の指導	初級文型理解、会話力向上	25	20	20	14	10000円	現地講師(日本人)
8	07夏 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、語彙・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	30	32	27	20	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
9	07秋 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、語彙・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	41	32	23	10	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
10	08春 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、語彙・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	37	32	21	6	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
11	07秋 映画で学ぶ日本語上級コース	2級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、語彙・漢字練習	楽しみながら上級会話力育成	15	32	15	11	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
12	07秋 ビジネス日本語中級会話編	3級程度	機能別ビジネス日本語(紹介、挨拶、許可、依頼、電話、アポイント等)	ビジネス中級会話習得	17	32	27	20	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
13	08春 ビジネス日本語中級会話編	3級程度	機能別ビジネス日本語(紹介、挨拶、許可、依頼、電話、アポイント等)	ビジネス中級会話習得	17	32	22	16	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
14	07春 ビジネス日本語上級マナー編	2級程度	概論、面接でのマナー、電話でのマナー、仕事でのマナー、社会人としてのマナー、模擬面接	ビジネスマナー習得	6	32	30	21	7000円	専門家(所長)
15	08春 ビジネス日本語上級マナー編	2級程度	概論、面接でのマナー、電話でのマナー、仕事でのマナー、社会人としてのマナー、模擬面接	ビジネスマナー習得	8	32	32	23	7000円	専門家(所長)
16	07秋 ビジネス日本語上級会話編	2級程度	機能別ビジネス日本語(説明、意見、説得、クレーム、プレゼンテーション等)	ビジネス上級会話習得	17	32	23	15	30000円	専門家・現地講師(モンゴル人・日本人)
17	08春 ビジネス日本語上級文書編	2級程度	機能別、形式別ビジネス文書の書き方の指導と添削	ビジネス文書作成法習得	17	32	29	18	30000円	専門家・現地講師(日本人)
18	07夏午後 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字301の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	32	30	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
19	07夏夜 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字302の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	32	24	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
20	07秋 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字303の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	34	21	30000円	現地講師(モンゴル人)
21	08春 ワクワク漢字中級コース	初級漢字修了者	中級漢字200の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	中級漢字習得	20	32	22	16	30000円	現地講師(モンゴル人)
22	07-08 初級IT日本語コース	ITエンジニア	みんなの日本語1～44課、IT用語、ビジネス初級会話、実力テスト	初級中盤までの文法習得	265時間	25	24	17	90000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
23	08 中級IT日本語コース	ITエンジニア	みんなの日本語45～50課、IT用語、ビジネス中級会話、実力テスト	3級+IT用語+ビジネス中級会話	150時間	25	20	14	90000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
24	07 特別講座「日本語教師のための発音指導法」	モンゴル人日本語教師	参加者一人一人への発音指導、質疑応答		2	30	30	-	無料	外部講師(日本人)
25	07 特別講座「日本語習得の秘訣」	一般、日本語学習者	日本語独特のリズムや言い回しの習得方法		2	-	180	-	無料	外部講師(日本人)
26	08 日本語一日体験授業	日本語未習者	ひらがな・かたかなの書き方、漢字紹介、自己紹介、あいさつ	日本語に触れる、日本語に興味を持つ	32	-	425	-	無料	現地講師(モンゴル人・日本人)
27	08 日本語月例実力テスト	能力試験受験者	各級の過去問題による模擬試験	試験合格	28	-	776	-	14000円	現地講師(モンゴル人)
計					690.5		1949	342		

※時間単位は2時間で1コマに換算

2008年度開講（受講者数合計：755名、テスト受験を除く：720名、修了者数：318名）

No.	コース名	対象	講義内容	達成目標	コマ数	定員	受講者数	修了者数	受講料	講師現地化状況
1	08-09 日本語教育実習コース(前期)	教員、教員志望者	教案・教具作成、実習授業、授業見学	教授法習得	22	10	10	10	10000円	専門家
2	08-09 日本語教育実習コース(後期)	教員、教員志望者	教案・教具作成、実習授業、授業見学	教授法習得	26	10	8	8	10000円	専門家
3	08「日本語教授法」公開講座	教育実習コース参加者	授業の流れ、導入、基本練習、応用練習	教授法理解	2	25	25	-	無料	専門家
4	08「PPT作成講座」	教育実習コース参加者	教育実習時で使うPPTの作成方法を指導	PPT作成技術習得	1	10	10	-	無料	現地講師(モンゴル人)
5	08 日本語教授法演習コース	中学校教員、地方教員	授業の流れ、授業見学、ワークショップ、教案の書き方、模擬授業	教授法習得、教師間ネットワーク形成	27.5時間	20	16	16	10000円	専門家・現地講師(モンゴル人・日本人)
6	08-09 日本語初級総復習コース(前期)	初級既習者	口頭練習を中心とした初級文型の指導	初級文型理解、会話力向上	23	20	20	13	10000円	現地講師(日本人)
7	08-09 日本語初級総復習コース(後期)	初級既習者	口頭練習を中心とした初級文型の指導	初級文型理解、会話力向上	26	20	20	15	10000円	現地講師(日本人)
8	08夏 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、語彙・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	15	32	31	26	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
9	08秋 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、語彙・漢字練習	楽しみながら中級会話力育成	34	32	19	10	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
10	09春 映画で学ぶ日本語中級コース	3級程度	映画視聴、内容把握、会話練習、語彙・漢字練習、文法解説、文化紹介	楽しみながら中級会話力育成	20	32	19	11	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
11	09春 新聞で学ぶ日本語中上級コース	2級程度	新聞を題材にスキミング、スキミングなどストラテジーを意識した読解方法を指導	読解ストラテジー習得	10	32	31	23	15000円	現地講師(日本人)
12	08秋 ビジネス日本語中級会話編	3級程度	機能別ビジネス日本語(紹介、挨拶、許可、依頼、電話、アポイント等)	ビジネス中級会話習得	17	32	22	15	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
13	08秋 ビジネス日本語上級会話編	2級程度	機能別ビジネス日本語(説明、意見、説得、クレーム、プレゼンテーション等)	ビジネス上級会話習得	17	32	14	6	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
14	09春 ビジネス日本語上級文書編	2級程度	機能別、形式別ビジネス文書の書き方の指導と添削	ビジネス文書作成法習得	15	32	21	19	30000円	専門家・現地講師(モンゴル人)
15	08夏午前 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字300の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	32	25	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
16	08夏夜 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字301の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	32	24	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
17	08秋 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字302の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	32	17	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
18	09春 ラクラク漢字300コース	漢字未習者	漢字オリエンテーション、初級漢字300の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	初級漢字習得	27	32	33	15	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
19	09春 ワクワク漢字中級コース	初級漢字修了者	中級漢字200の読み書き、熟語、復習クイズ、漢字コンテスト	中級漢字習得	20	32	33	21	30000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
20	08秋 日本語能力試験対策講座1級	1級受験者	解法を説明、練習問題、答え合わせ、解説、宿題	試験合格	6	32	33	21	10000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
21	08秋 日本語能力試験対策講座2級	2級受験者	解法を説明、練習問題、答え合わせ、解説、宿題	試験合格	6	32	32	23	10000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
22	08 特別講座「日本語教師のための発音指導法」	モンゴル人日本語教師	母音の大切さ、イントネーション・アクセントを実践的に指導		1	32	33	-	無料	外部講師(日本人)
23	08 特別講演「日本人の心」	一般、日本語学習者	日本の和歌、日本人の自然観などについて講演		1	90	85	-	無料	外部講師(日本人)
24	08 特別講演「心を伝える話し方-インタビュー30年の経験から」	一般、日本語学習者	聞き手の立場に立って、誠意をこめて話すことの大切さについて講演		1	50	35	-	無料	外部講師(日本人)
25	09 日本語一日体験授業	日本語未習者	ひらがな・かたかなの書き方、漢字紹介、自己紹介、あいさつ	日本語に触れる、日本語に興味を持つ	46	-	74	-	無料	現地講師(モンゴル人・日本人)
26	09 日本語月例実力テスト	能力試験受験者	各級の過去問題による模擬試験	試験合格	28	-	35	-	14000円	現地講師(モンゴル人・日本人)
計					458.75	735	755	318		

※時間単位は2時間で1コマに換算

(2) 関係機関との連携実績

関係機関・組織	連携内容
国際交流基金	日本語能力試験の実施
モンゴル日本語教師会	日本語スピーチコンテストの開催、日本語教育シンポジウムの開催、日本語教育研究会
在モンゴル日本国大使館	日本語スピーチコンテストの実施
ウランバートル市教育局	日本語教授法演習コースの実施
モンゴルナショナル教育テレビ	テレビ日本語講座の開発
モンゴルナショナルラジオテレビ局	ラジオ日本語講座の開発

添付資料 5 - 4 . 相互理解促進事業実績

* 2006 年度は 2007 年 1 月から 3 月分、2009 年度は 2009 年 4 月から 6 月分

1. 相互理解促進事業

(1) 事業の開催

コース・事業	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	合計
市民講座	—	(9 回) 476 名	(9 回) 469 名	(3 回) 198 名	1143 名
IT 折り紙教室	(9 回) 237 名	(14 回) 468 名	(19 回) 423 名	(8 回) 226 名	1354 名
定期映画会	(6 回) 269 名	(24 回) 939 名	(20 回) 774 名	(1 回) 39 名	2021 名
合計	(15 回) 506 名	(47 回) 1883 名	(48 回) 1666 名	(12 回) 463 名	4518 名

(2) 関連事業への会場貸出

事業内容	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	合計
日本大使館主催事業	11 回	18 回	6 回	8 回	43 回
JICA 主催事業	4 回	22 回	25 回	1 回	52 回
日本センター共催事業	—	3 回	5 回	5 回	13 回
日本センター後援事業	—	6 回	7 回	4 回	17 回
モンゴル国立大学主催事業	—	6 回	6 回	1 回	13 回
その他	13 回	40 回	29 回	10 回	92 回
合計	28 回	95 回	78 回	29 回	230 回

(3) 受託事業

受託先組織名	プログラム名	対象
博報堂	海外教師日本研修プログラム	中学生に日本語を教えている効率学校の日本語教師
博報堂	海外児童日本体験プログラム	前述プロジェクトで日本へ行った教師の学校の児童
アジア経営開発協力財団 (FAMD)	「ものづくり」日本語弁論大会	日本で 2 年以上滞在したことのないモンゴル国籍を持つ若者
ひょうご環境創造協会 「モンゴル森林再生センター」*	専門家庭教育の活動	大学教授・植物学・環境学などの学生
ひょうご環境創造協会 「モンゴル森林再生センター」*	一般市民への啓蒙活動	奨学生・中学生・高校生・大学生・一般

*現在検討中

2. 図書館事業

(1) 利用者数

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	合計
年間利用者数	5370 人	20456 人	21038 人	4780 人	51644 人
新規登録者	549 名	2121 名	2241 名	501 名	5412 人

(2) 事業実績

事業内容	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	合計
① 定期的事業					
作家の紹介	—	—	10 回	3 回	13 回
今月の一冊	—	—	12 回	3 回	15 回
「世界のあれこれコラム」	—	—	14 回	6 回	20 回
「日本語で話しましょう」しゃべり場	—	—	6 回	—	6 回
② 共催事業					
「モンゴルの木」書籍紹介セミナー	—	—	1 回(70 名)	—	1 回
「すばらしい記憶術」公開セミナー	—	—	—	1 回(250 名)	1 回
留学説明会	—	1 回(1000 名)	1 回(350 名)	—	2 回
合計	0	1 回	44 回	13 回	58 回

③ その他の図書館関連の活動

2006 年度	視聴覚コーナーの家具の入れ替え、コンピュータ用機の入れ替え、新着書コーナーの設置、留学コーナーの資料整理方法の変更
2007 年度	情報交換コーナーの設置、留学資料コーナーの充実、日本語教科書、日本語教育ビデオ、辞書類の購入、サービス用コピー機 2 台の購入、DVD 機 2 台、ヘッドホン 10 台、ラミネート機 2 台を購入
2008 年度	ロッカー設置、机の配置変更及び席の増加、留学情報コーナー位置変更、利用者カード用 USB カメラ更新、利用者の写真背景ボード更新、モンゴル語書籍及び日本語書籍の購入、図書室スタッフ用制服作成
2009 年度	モンゴル語書籍の購入、書籍検索用伝子カタログの復活

添付資料6：成果の達成度

成果1:「運営体制及びモニタリングシステムの強化により、MOJCが効果的、効率的に運営される」

指標	指標の達成状況
年次JCC ミーティングの開催	<ul style="list-style-type: none"> 毎年5月に、合計3回のJCCミーティングが開催され、前年度(2007年は第一フェーズ)の実績と、翌年度の実施計画が共有されている。センターの収支計画等、現在の問題点や将来性について、議論がなされている。
3事業の月例MOJCミーティングの開催	<ul style="list-style-type: none"> 月例ミーティングのかわりに、毎週月曜日に、C/P、専門家、各事業の主任が参加した定例ミーティングが行われ、2週分のスケジュールの確認および業務予定確認などがなされている。 課を横断する特別な案件は、案件ごとのミーティングが随時開催されている。
年間運営計画等の作成、実施及び実施状況のモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> 年間運営計画は、各課で専門家や主任が中心となって作成された後、調整の上、センター全体の年間計画が作成されている。 活動のモニタリングは、各事業で行われている。日本語コースでは、各期終了時に、修了生のアンケート結果の検討とともに実施。ビジネスコースでは、各講座の終了後に随時確認している。相互理解促進事業では、イベントなどを実施後、随時行っている。
MOJCのスタッフ研修計画	<ul style="list-style-type: none"> スタッフへの研修は、年間2名の本邦研修を実施してきている。それ以外はOJTを通じた研修が行われており、特に計画は作成されていない。 別途、2008年度下半期に各事業の運営事業マニュアルを作成し、人事異動に対応したスムーズな運営を図っている。
3事業間で連携した活動の件数	<ul style="list-style-type: none"> センター設立5周年の記念事業としての、一連の事業(特別経済フォーラム、日本語教育シンポジウム、特別市民講座、他)の実施(3事業、2007年) ビジネスコースの主催する日本語観光ガイド養成コースの実施(ビジネスコースと日本語コース、毎年1回)。 地方での一日体験授業・映画上映会・日本語月例テスト・折り紙教室の実施(日本語コースと相互理解コース、2007年11月ホブド県、2008年11月エルデネット、2009年4月バガノールで実施)
MOJCの参加者数増加及び活動向上のための広報の種類及び件数	<ul style="list-style-type: none"> MOJCの主な広報媒体は、センターのHP、新聞広告、メーリングリスト、TVやラジオ、ポスターの掲示、年報、パンフレット、毎月発行するメールマガジン。 別途、各コースの受講生の募集のために、新聞・ラジオ・TV・メーリングリスト・館内掲示等を通じた広報を行っている。 日本語コースでは、日本語教師会への連絡。
毎月のウェブサイトの更新とアクセス件数	<ul style="list-style-type: none"> センターのホームページは、毎月月間報告や新規スタッフの着任などの最新情報を更新している。さらに、必要に応じて随時更新されている。 アクセス件数を確認する機能を有していなかったため、不明。現在機能を設定中。

成果2:「中小企業のニーズに則した実践的な知識とスキルを提供するビジネスコースが行われるとともに、コースにおける現地講師の割合が増加する」

指標	指標の達成状況
年間実施戦略及び講義計画の作成、スケジュールに沿った実施	<ul style="list-style-type: none"> 2008年3月に、ビジネスコース運営・設計分野の倉原専門家により「ビジネスコース全体設計書」が作成された。 さらに、事業年度の開始前に、ビジネスコース運営専門家や統括主任により年間事業計画書が作成され、JICA本部からの承認後、そのスケジュールに従って事業が実施されている。
モニタリングシステムの改善	<ul style="list-style-type: none"> 各コース実施後、修了生へのアンケートが実施されている。アンケート結果は随時確認され、次のコース運営に反映される。たとえば、講師の声が小さい、モンゴルの事例をさら挙げてほしいなどの意見が、反映されている。 上記アンケート結果や、講義を担当した短期専門家の報告書内容に基づいたコースの見直しが行われているが、システムティックなモニタリング制度としては整備されていない。
地域/セクター/役職別の受講者数	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスコースの受講生は、3,648名(2007年度566、2007年度1,275名、2008年度890名、2009年度917名。2009年度は一部見込みを含んでいる)。地方セミナー以外の受講生は、殆どウランバートル市内からである。

コースを修了した受講生の数	<ul style="list-style-type: none"> コースの中心となっている「中小企業経営診断指導コース」の2006年から2008年までの実績の内訳は、 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 受講者数165名、うち修了生は128名(修了生の割合は78%) ➤ 社長96名(58%)、部長20名(12%)、マネージャー49名(30%) IT/PCコースの受講生は、合計2,080名(ITコース121名、PCコース1,959名、現地小学生向けのPCセミナー90名)
コースを修了する受講生の割合	
コース及び教材の改善件数	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスコースの教材は、各コースを担当する講師(短期専門家)により準備されており、随時改善されている。2009年度より教材を印刷会社に外注し、製本することで、今後の活用が見込まれている。 特別コースや専門コースの設置や、受講生の事業内容に沿った内容にする(コース開始当初は製造業のみを対象としていたものを、3年前よりサービス業も対象としている)ことで、受講生のニーズにあわせて改善を行っている。 また、現地講師の育成のための日本人専門家との共同講義や、他の機関との連携を通じた講義を行うようになっている。
認定及び訓練された現地講師数	<ul style="list-style-type: none"> 現在、モンゴル国立大学経済学部長、モンゴル国立大学経済学部教授3名、会社社長2名、その他3名、合計9名が現地講師としてノミネイトされており、そのうち3名が8月より本邦研修に参加。 これまでの実績は、現地講師が中心となっているコースは、「観光ガイド養成実践コース」等、特定分野の講座の一部のみであるが、C/Pであるモンゴル国立総合大学の教員、修了生を含む民間企業経営者など、6名が講師を務めている。さらに、通常コース5名、HACCP(総合衛生管理製造過程)1名が、日本人専門家との共同講義を担当した。 IT・PCコースは、全講義が現地講師により実施されている。
他の開発援助機関との協力、助言のもと実施されたビジネスコースの数	<ul style="list-style-type: none"> JICA(旧JBIC)のツーステップローンとの連携し、ローンを受けた企業に対し、ビジネスプラン作成支援セミナーを開催。 JETRO派遣の講師により、2007年は自動車及び環境分野、2008年は食品のトレーサビリティ分野のセミナーを実施。 UNDPの一村一品プロジェクトの対象経営者(30名)を対象として、運営管理専門家により5Sに関する講義を実施。 2009年度はEBRD-BASモンゴル事務所からの協力要請により、9月以降、地方都市でのセミナーや研修、地方都市での企業診断・指導、現地コンサルタント育成研修、EBRD-BAS現地コンサルタントとの合同企業診断・指導を実施予定。
現地スタッフにより企画・実施された活動数	<ul style="list-style-type: none"> 第一フェーズから引き続き、現地スタッフによる企画・実施が促進されている。(第一フェーズでの実績は、若手オーナーのためのビジネス実践講座の2度の開催)。 所内ビジネスマナー研修、所内5Sと改善研修の実施。

成果3「日本語教師のニーズに合致し、また、市場のビジネス機会の拡大に向けた日本語コースが開催される」

指標	指標の達成状況
年間実施戦略及び講義計画の作成、スケジュールに沿った実施	<ul style="list-style-type: none"> 年度ごとに年間計画を専門家が作成し、主任やスタッフと検討後、そのスケジュールに沿った講義が実施されている。
モニタリングシステムの改善	<ul style="list-style-type: none"> 日本語コースでは、各期終了時に、修了生のアンケート結果の検討とともに実施している。
地域/職種/目的別の受講者数	<ul style="list-style-type: none"> 受講者数と修了者数は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 2006年度は、通常コース23コースの受講生450名中、コースを修了したのは270名。修了する割合は60%。 ➤ 2007年度は、通常コース21コースの受講生485名(無料の2公開講座(53名分)を除く)。コースを修了したのは、342名。修了する受講生の割合は、71%。 ➤ 2008年度は、通常コース19コースの受講生458名中、修了した受講生は318名。終了する受講生の割合は、69%。 ➤ 2009年度は、実績がまだない。 受講者は、96.6%がウランバートルからであり、その半分以上が学生である。 またアンケートの回答者のうち85%が、コース内容に満足したと回答している。
コースを修了した受講生の数	
コースを修了する受講生の割合	
受講生の満足度	
コース及び教材の改善件数	<ul style="list-style-type: none"> コース内容や教材は、モニタリング結果を通じて随時改善されている。例えば、新規コースの開始。例えば、らくらく漢字中級コース、わくわく中級漢字コース、新聞で学ぶ日本語中上級コース、映画で学ぶ日本語中級、歌で学ぶ日本語コース等。

	<ul style="list-style-type: none"> 教材の改善例としては、①漢字コースのテキストのフォントを明朝体から教科書体へ、ゲームを取り入れた教材への改訂、②ビジネス日本語コース(中級会話・上級会話・上級文書編とも)のパワーポイント教材の誤字脱字の訂正、わかりやすい配置への修正、学習者への問いかけを含む構成などへの改善、③映画で学ぶ日本語コースの教材作成等。
認定及び訓練された現地講師数	<ul style="list-style-type: none"> 候補となった13人中11人(約85%)が認定され、そのうち10人が当コースで教えている。4名の常勤講師は、現地スタッフとしてコース運営にも従事している。現地講師(非常勤)には、4名の日本人講師を含んでいる。 一方、既存の講座を実施することは現地スタッフ(常勤講師)で可能だが、専門的な相談や新コースの立ち上げには、日本人専門家の存在が必須であると言われている。また、モンゴル国内において、日本人専門家とモンゴル人講師で講座を実施している点がMOJC日本語コースの大きな強みになっている。専門家が中心となって実施しているコースとしては、教師養成・育成のコースがある。
現地スタッフにより企画・実施した活動数	<ul style="list-style-type: none"> 現地スタッフは、現地講師としての経験を活かして、積極的にコース運営に関わり、新規コースの企画や実施にも従事している。 らくらく漢字300コース、わくわく漢字中級コース、歌で学ぶ日本語コースは、現地スタッフによって企画されたものである。

成果4 「相互理解促進事業に関し、様々な分野(経済、社会、文化など)におけるモンゴルと日本の情報が双方向に発信される機能が強化される」

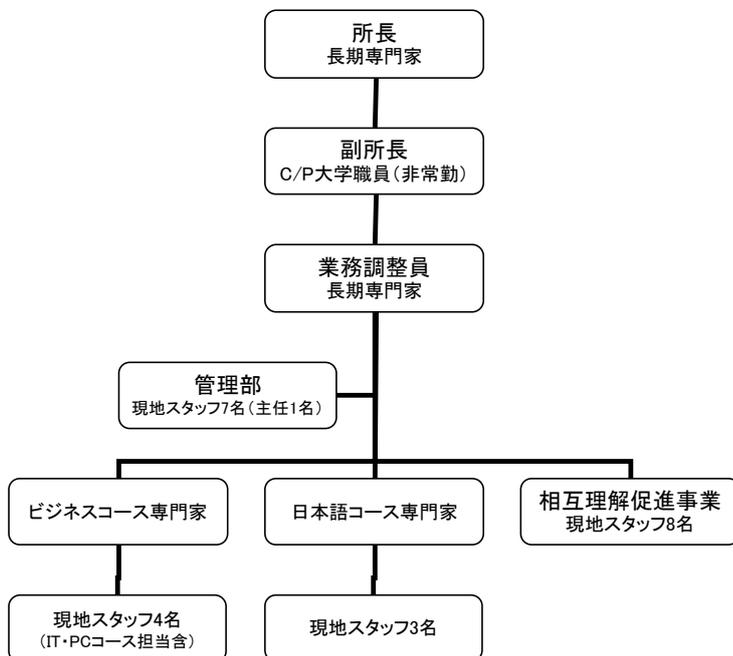
指標	指標の達成状況
年間実施戦略及び講義計画の作成、スケジュールに沿った実施	<ul style="list-style-type: none"> 相互理解促進事業には、日本人専門家は派遣されておらず、統括主任や図書館室の主任などが中心となって、年度ごとに年間計画を作成し、それに沿った活動実施を行っている。
モニタリングシステムの改善	<ul style="list-style-type: none"> 相互理解促進事業は、約2か月ごとに事業が実施されており、参加者へのアンケート調査を通じたモニタリングが随時行われている。 図書館室利用においても、利用者へのアンケートが実施されている。 上記のアンケート結果は、年度ごとの集約などはされておらず、モニタリングのシステムは設立されていない。
現地スタッフにより企画・実施した活動数	<ul style="list-style-type: none"> 相互理解促進事業には、日本人専門家は派遣されておらず、新規事業の殆どが、現地スタッフによって企画・実施されたものである。たとえば、①「しゃべり場」の開催(毎月)、②モンゴルと日本の作家の作品紹介(毎月)、③世界のあれこれコラムの開催(月2回)、④HPにおける今月の1冊の紹介、などである。
相互理解促進活動への参加者数(モンゴル人・日本人)	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に実施されている、市民講座・折り紙・映画鑑賞等の事業への参加者数は、通算4518名。2006年度は、(15回)506名、2007年度は、(47回)1883名、2008年度は、(48回)1666名、2009年度は、(12回)463名。
来館者及び活動参加者の満足度 地域別の参加者数	<ul style="list-style-type: none"> 市民講座に関しては、参加者の91%がウランバートル市内からであり、日本人は1%未満。アンケート結果では、72.5%の参加者が、その内容に満足していると回答している。 その他の活動に関しても、参加者の大半がモンゴル人である。日本人側の参加や興味の低さにより、機能していない活動や休止のものがある。たとえば、図書館の掲示板を通じた相互理解では、日本人側からの反応が殆どない。また日本語を話す機会を共有することが目的の「しゃべり場」では、日本人の参加者が見つからず、ここ数か月開催できていない。 この他に、他の機関との共催事業への参加を通じた相互理解促進がはかられている。
図書館への来館者数	<ul style="list-style-type: none"> 第二フェーズの図書館への延べ来館者数は、33644名。2006年度5370名、2007年度20456名、2008年度21038名、2009年度4780名であり、年々増加している。(2009年度は4月から6月までの実績) 新規登録者数は、5,412名。2006年度は549名、2007年度は2,121名、2008年度は2,241名、2009年度は、501名。

7 . MOJC組織図

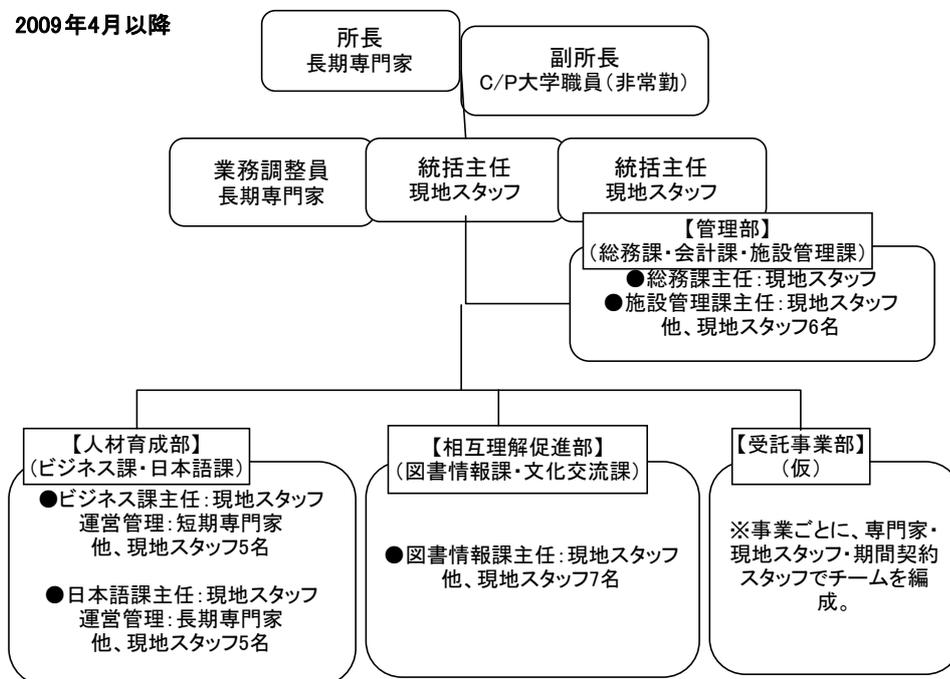
2007年4月まで

モンゴル日本人材開発センター 組織体制の変遷

2010/2/18



2009年4月以降



注) 現地スタッフについて、部課をまたいでの兼務があるため、実際の人数より多く表れている。

